

相模原市
防災に関する市民意識調査
報告書

平成24年3月

相模原市

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 調査内容	1
4. 地区別回収構成比	2
5. 報告書の見方	3
6. 標本誤差	3

第2章 調査回答者の属性

1. 基本属性	5
(1) 年齢	5
(2) 性別	5
(3) 居住地区	5

第3章 調査結果の分析

1. 東日本大震災発災当日の状況	7
(1) 震災発生時にいた地域	7
(2) 震災発生時にいた場所	10
(3) 震災発生時の家からの距離	13
(4) 発生後に居た場所の停電状況	16
(5) 震災発生直後の情報源	19
(6) 震災直後に最も役に立った情報源	24
(7) 震災当日の帰宅手段	27
(8) 通常とは異なる手段での帰宅で利用したもの	32
(9) 徒歩時間	35
(10) 帰宅するまでに滞在した場所	38
2. 災害時の備え	41
(1) 身近な人と災害に関する話し合いをしたか	41
(2) 話し合いの内容	44
(3) 身近な人との連絡方法の取り決め	48
(4) 身近な人との災害時の連絡方法	51
(5) 身近な人との待ち合せ場所の取り決め	53
(6) 震災前と比べた防災への意識	56
(7) 大きな地震が起こった際の心配事	59
(8) 自宅での地震対策	63
(9) 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等	67
3. 自由記述	79

第4章 調査票

調査票	81
-----	----

第1章 調査の概要

1. 調査目的

市では、地震などの災害発生時に迅速な対応ができるよう相模原市地域防災計画を策定し、防災対策の推進を図っている。先般の東日本大震災での経験や課題、日頃の防災に対する意識を把握し、今後の市の防災対策の貴重な資料としていかすために調査を実施した。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：相模原市全域
- (2) 調査対象：20歳以上の男女個人
- (3) 標本数：3,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳からの等間隔系統抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収法）
- (6) 調査期間：平成24年2月9日（木）～2月21日（火）
- (7) 調査機関：株式会社 サーベイリサーチセンター
- (8) 有効回収数：1,432票（47.7%）

3. 調査内容

<調査項目>	<問番号>
(1) 基本的項目について	問1～問3
(2) 東日本大震災の発災当日の状況	問4～問8-3
(3) 災害時の備え	問9～問15（5）

4. 地区別回収構成比

	有効回収数	回収構成比
総数	1,432	100 (%)
橋本地区	155	10.8
大沢地区	55	3.8
城山地区	52	3.6
津久井地区	61	4.3
相模湖地区	16	1.1
藤野地区	22	1.5
小山地区	28	2.0
清新地区	31	2.2
横山地区	30	2.1
中央地区	207	14.5
星が丘地区	24	1.7
光が丘地区	38	2.7
大野北地区	66	4.6
田名地区	49	3.4
上溝地区	59	4.1
大野中地区	86	6.0
大野南地区	163	11.4
麻溝地区	36	2.5
新磯地区	26	1.8
相模台地区	68	4.7
相武台地区	45	3.1
東林地区	77	5.4
(無回答)	38	2.7

5. 報告書の見方

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率(%)の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が20未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・過去の調査と比較したグラフでは、文言や表現が異なる場合は注釈で表示しているが、回答に影響を与えない程度の違いの場合は注釈を省略している。

6. 標本誤差

この調査の標本誤差は次の式によって得られる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数(サンプル数)
 P = 回答比率

本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,432	±1.59%	±2.11%	±2.42%	±2.59%	±2.64%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
50	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

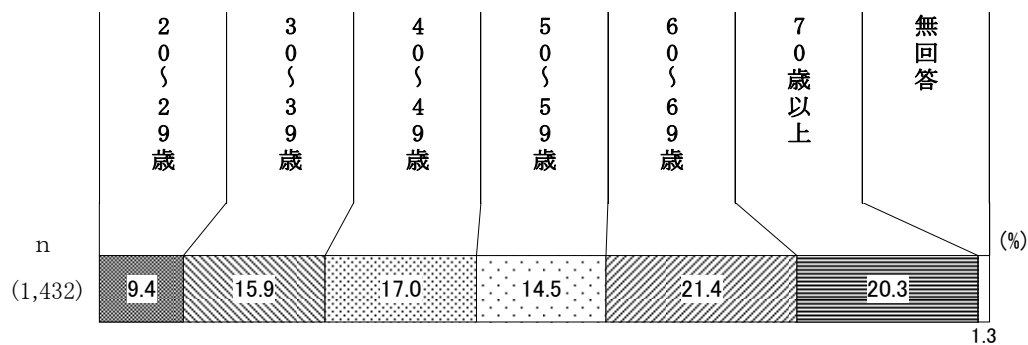
※ 上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

(注) この表のみかたは次のとおりである。「ある設問の回答者が、1,432人(n)であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%(P=0.6)であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.59%以内である。」

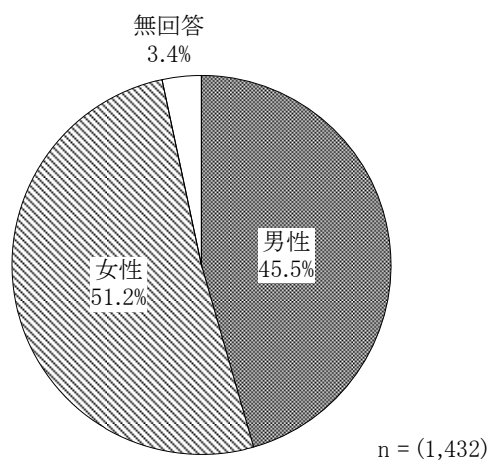
第2章 調査回答者の属性

1. 基本属性

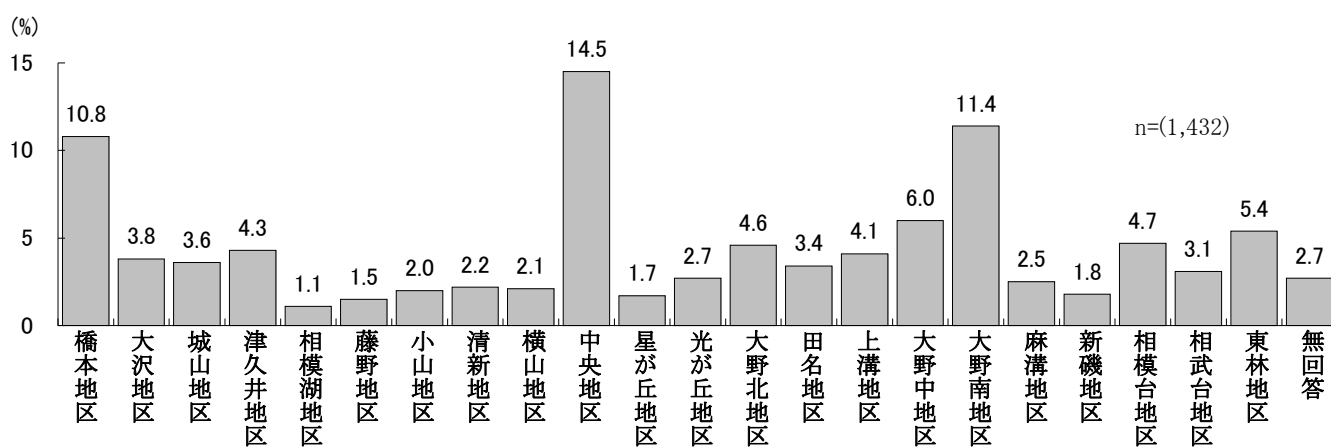
(1) 年齢



(2) 性別



(3) 居住地区

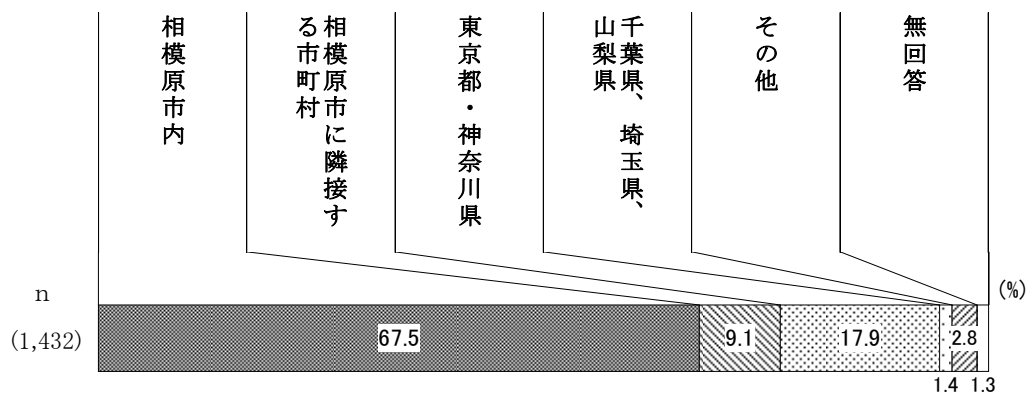


第3章 調査結果の分析

1. 東日本大震災発災当日の状況

(1) 震災発生時にいた地域

問4 あなたは、東日本大震災発生時にどの地域にいましたか。(○は1つ)



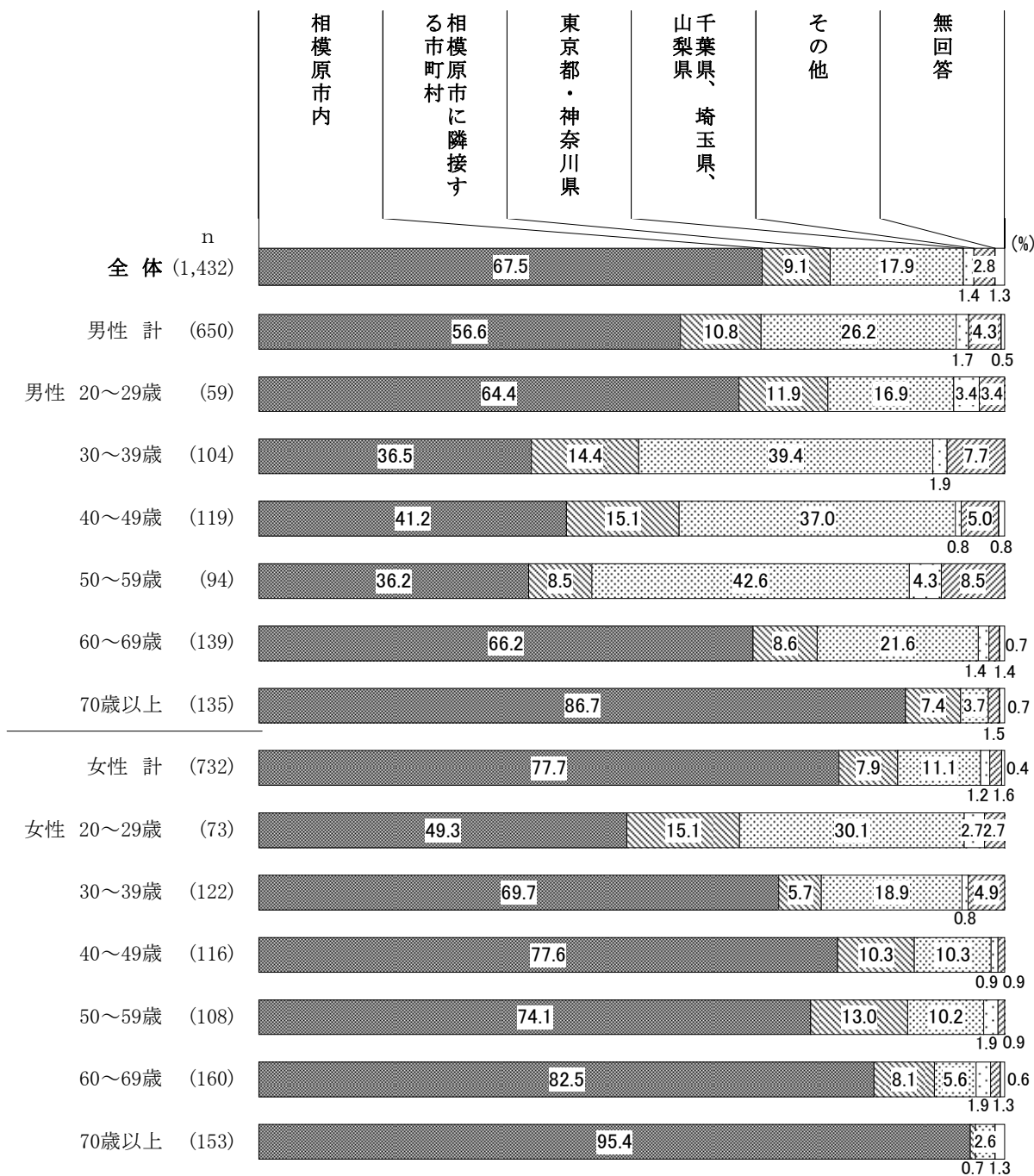
東日本大震災発生時にいた地域をたずねたところ、「相模原市内」は67.5%で最も高く、次いで「東京都・神奈川県（相模原市及び隣接する市町村を除く）」が17.9%と続いている。

第3章 調査結果の分析

性別にみると、「相模原市内」は男性が56.6%、女性が77.7%で女性の方が高く、男性では「東京都・神奈川県」が26.2%と女性（11.1%）より高くなっている。

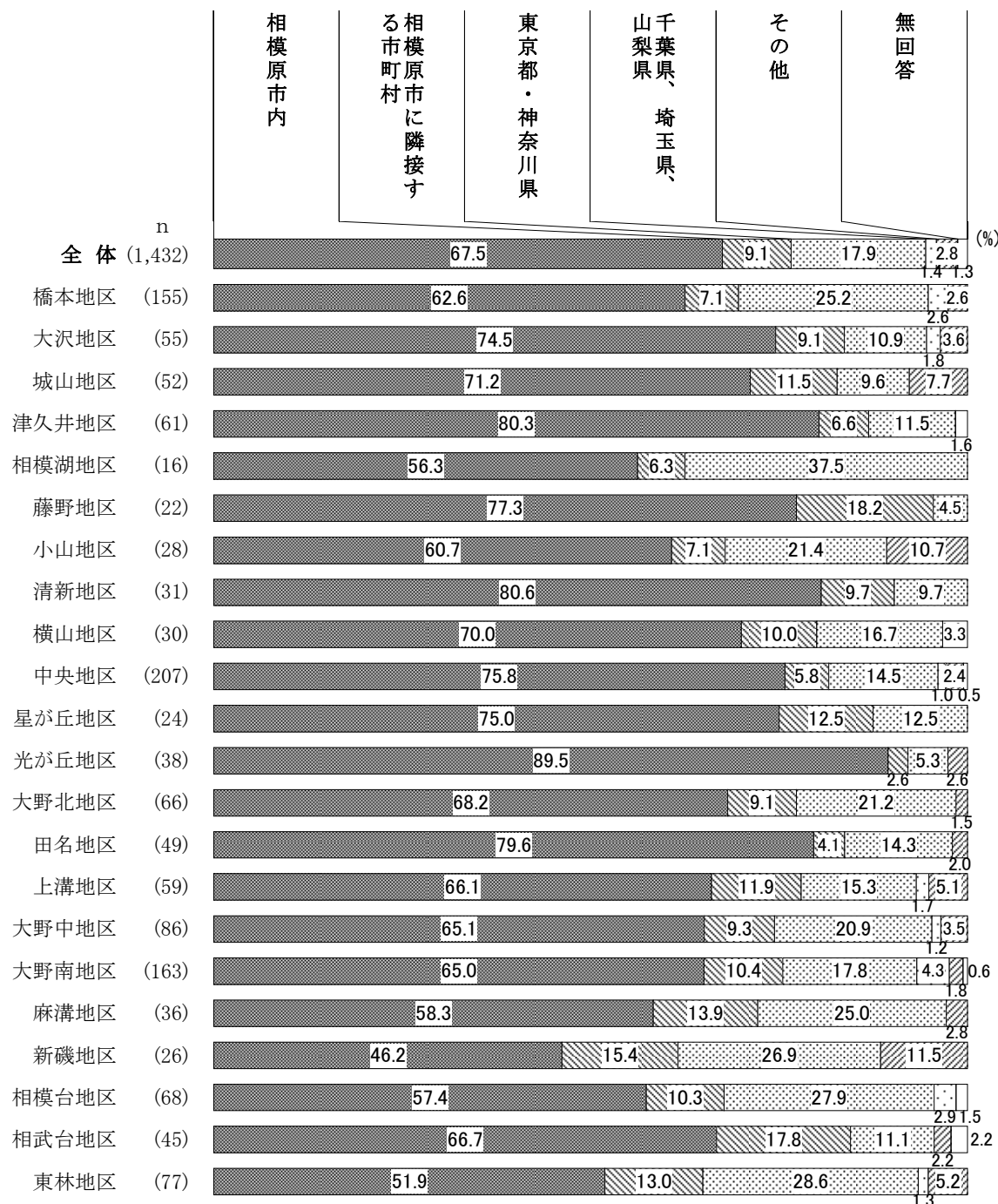
性・年代別にみると、「相模原市内」は男性では70歳以上で8割台、20代、60代で6割台と高く、女性では40歳以上の年代で7割以上となっている。「東京都・神奈川県」は男性では30代から50代で3割後半から4割前半、女性の20代で約3割と高くなっている。

性別、性・年代別 震災発生時にいた地域



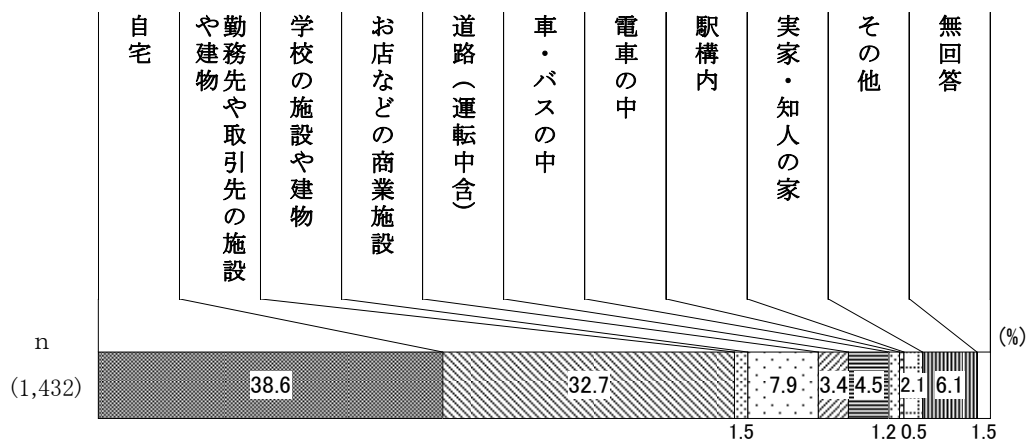
地区別にみると、「相模原市内」は光が丘地区が8割台後半と最も高く、次いで清新地区、津久井地区が8割となっている。「相模原市に隣接する市町村」では藤野地区が1割台後半とやや高く、「東京都・神奈川県」では相模湖地区が3割台後半と高くなっている。

地区別 震災発生時にいた地域



(2) 震災発生時にいた場所

問5 東日本大震災発生時、どのような場所にいましたか。(〇は1つ)

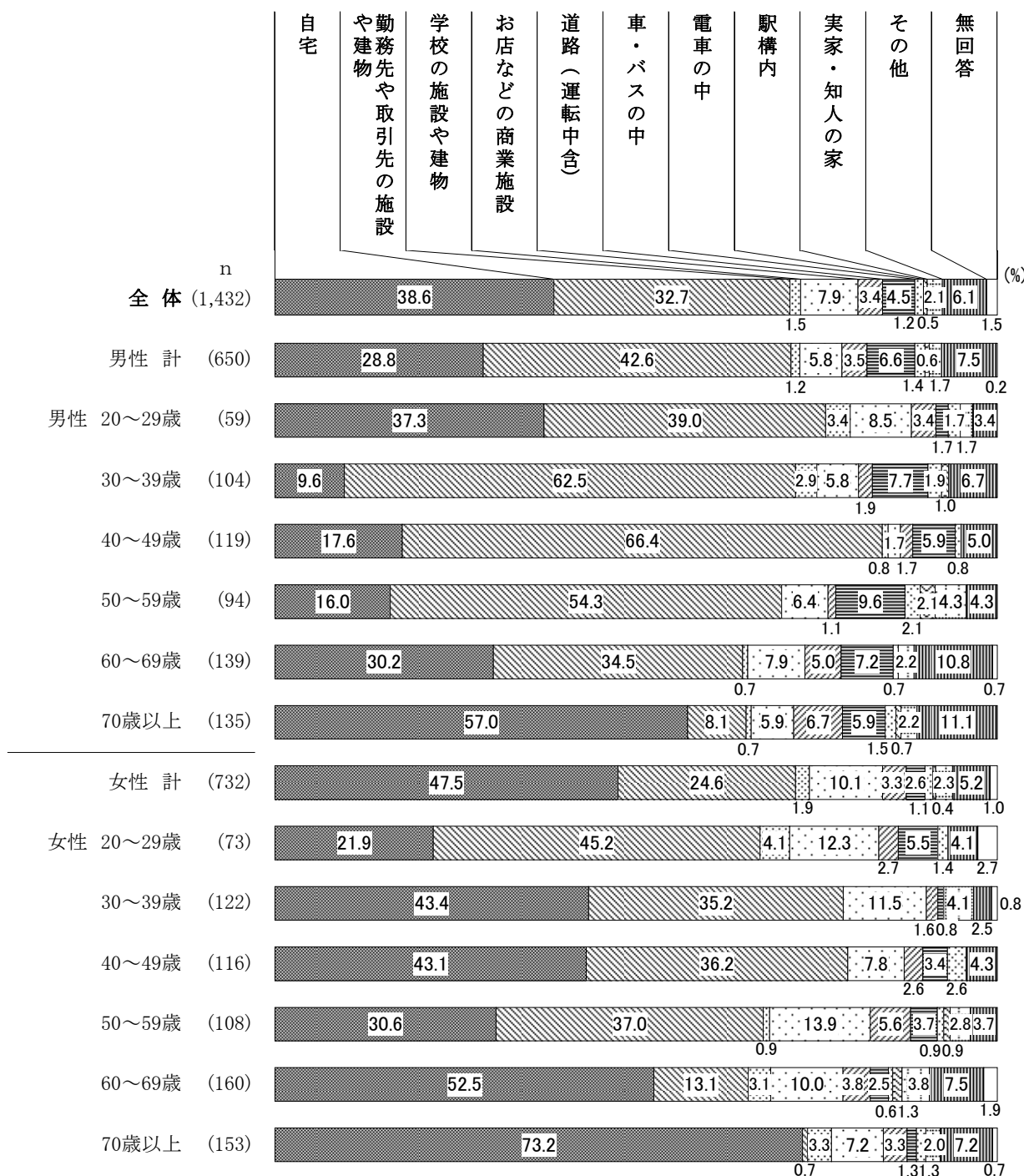


東日本大震災発生時の居場所についてたずねたところ、「自宅」が38.6%と最も高く、次いで「勤務先や取引先の施設や建物」が32.7%と続いている。

性別にみると、「勤務先や取引先の施設や建物」は男性（42.6%）が女性（24.6%）より18.0ポイント高く、女性では「自宅」が47.5%と男性（28.8%）より18.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「自宅」は男性では70歳以上で5割台後半であり、20代、60代で3割台、女性では60歳以上で5割を超え、30代、40代で4割台半ばとなっている。「勤務先や取引先の施設や建物」は男性では30代から50代で5割台半ばから6割台後半、女性では20代で4割台半ばとなっている。

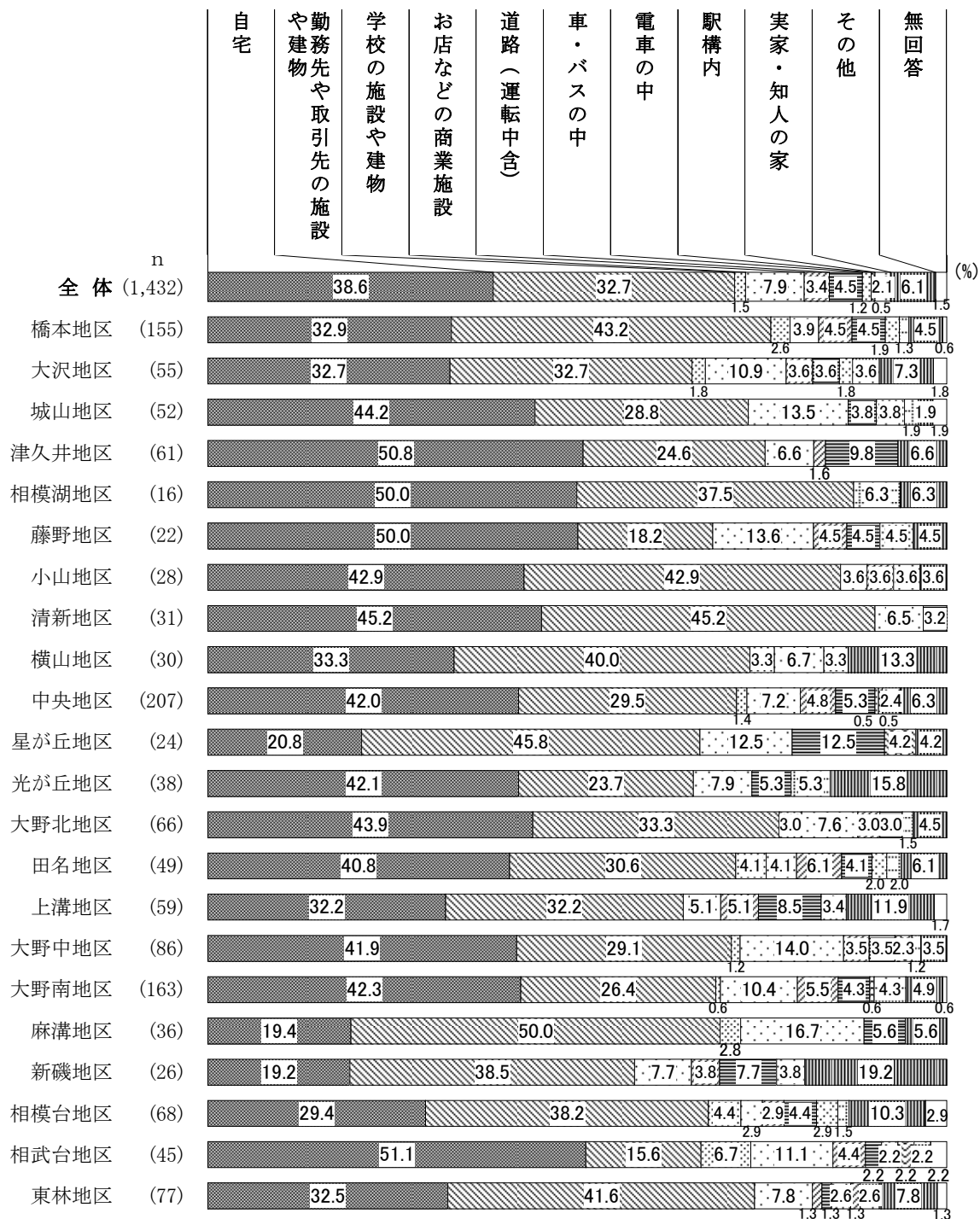
性別、性・年代別 震災発生時にいた場所



第3章 調査結果の分析

地区別でみると「自宅」は津久井地区、相模湖地区、藤野地区、相武台地区で5割を超えており、「勤務先や取引先の施設や建物」は麻溝地区で5割となっている。

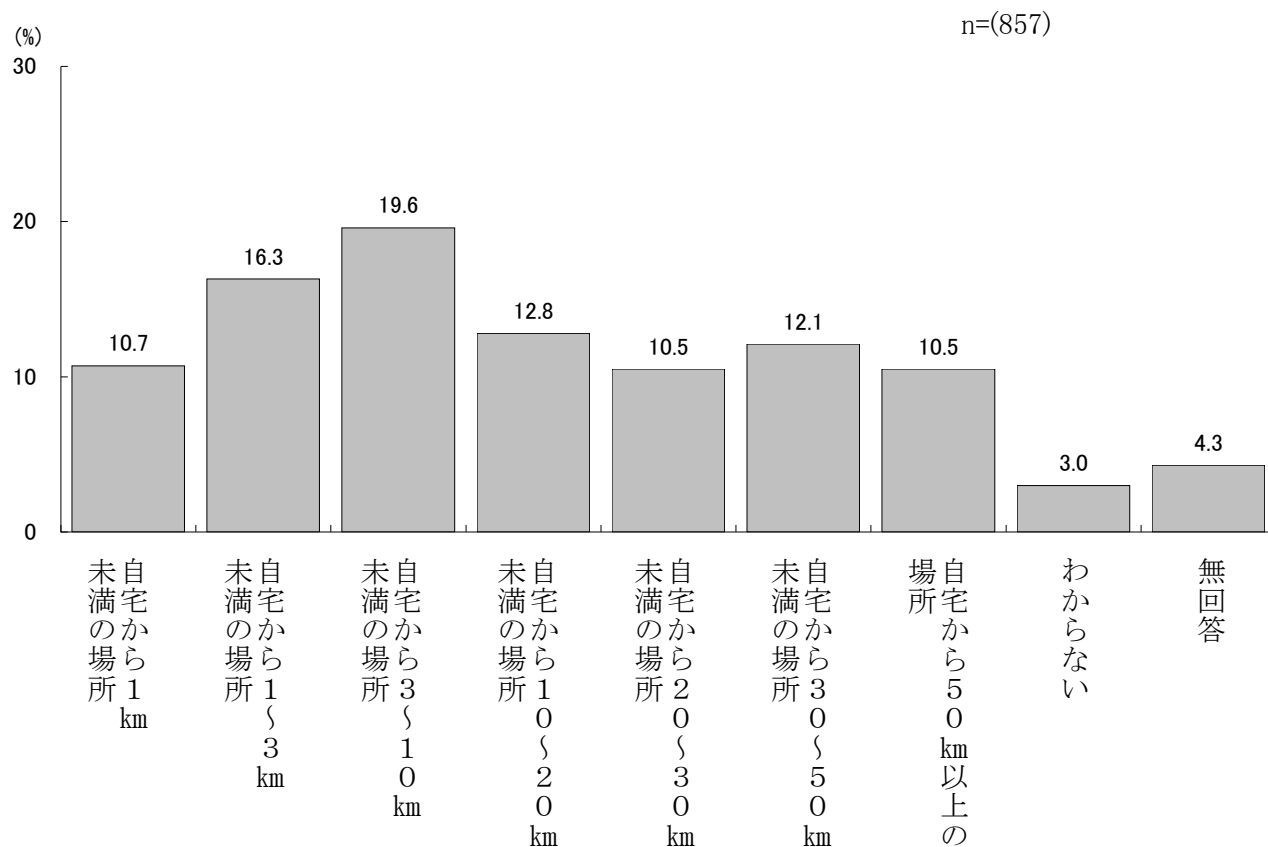
地区別 震災発生時にいた場所



(3) 震災発生時にいた場所の自宅からの距離

【問5-1 問5で「自宅」以外を選ばれた方にお伺いします。】

問5でお答えになった場所は自宅からどのくらい離れていましたか。(〇は1つ)



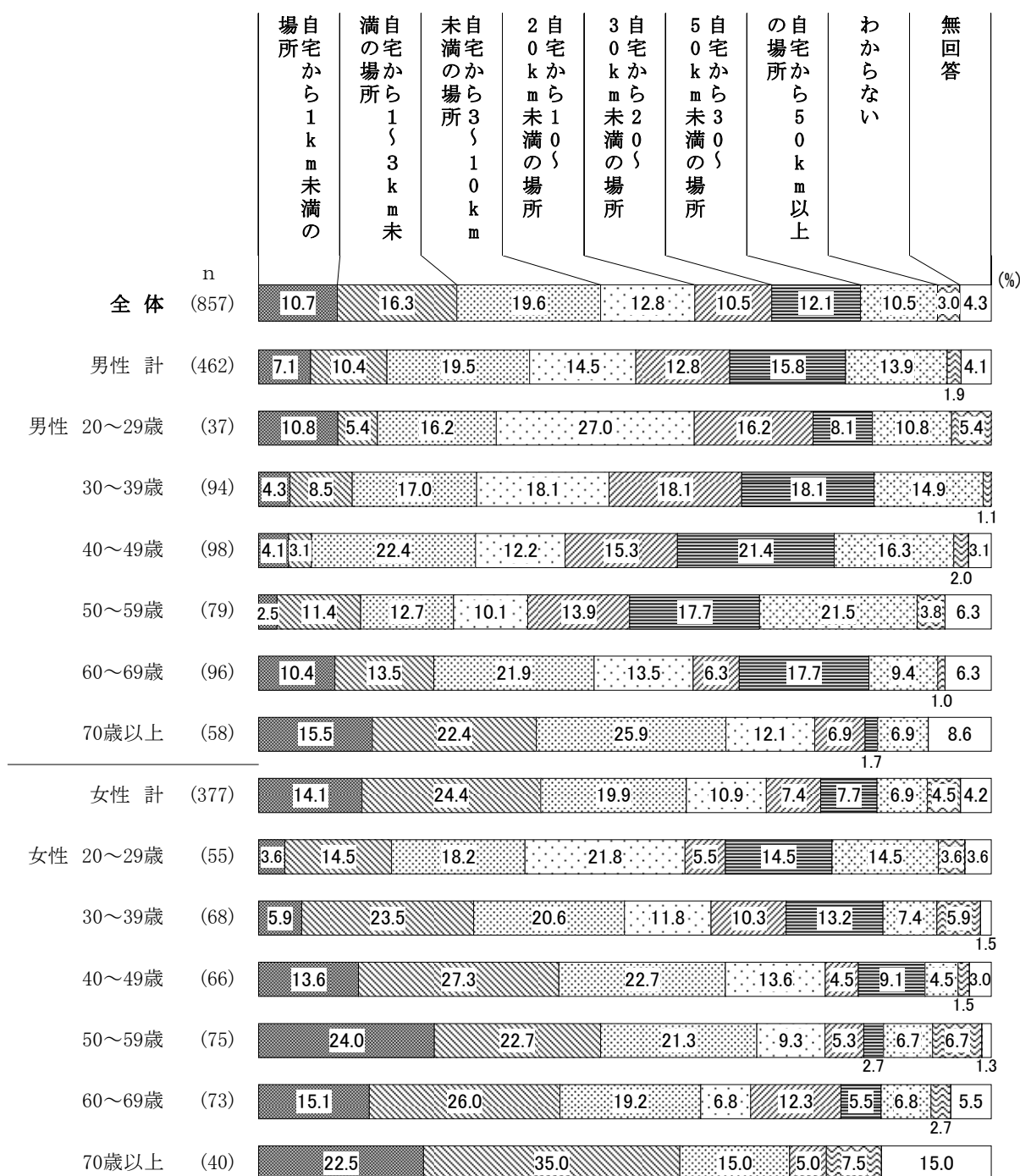
東日本大震災発生時に「自宅」以外の場所にいたと回答された方に、自宅からどのくらいの距離であったのかたずねたところ、「自宅から3～10km未満の場所」が19.6%と最も高く、次いで「自宅から1～3km未満の場所」が16.3%、以下は「自宅から10～20km未満の場所」12.8%、「自宅から30～50km未満の場所」12.1%と続いている。

第3章 調査結果の分析

性別にみると、男性では「自宅から3～10km未満の場所」が19.5%と高く、女性では「自宅から1～3km未満の場所」が24.4%と高くなっている。

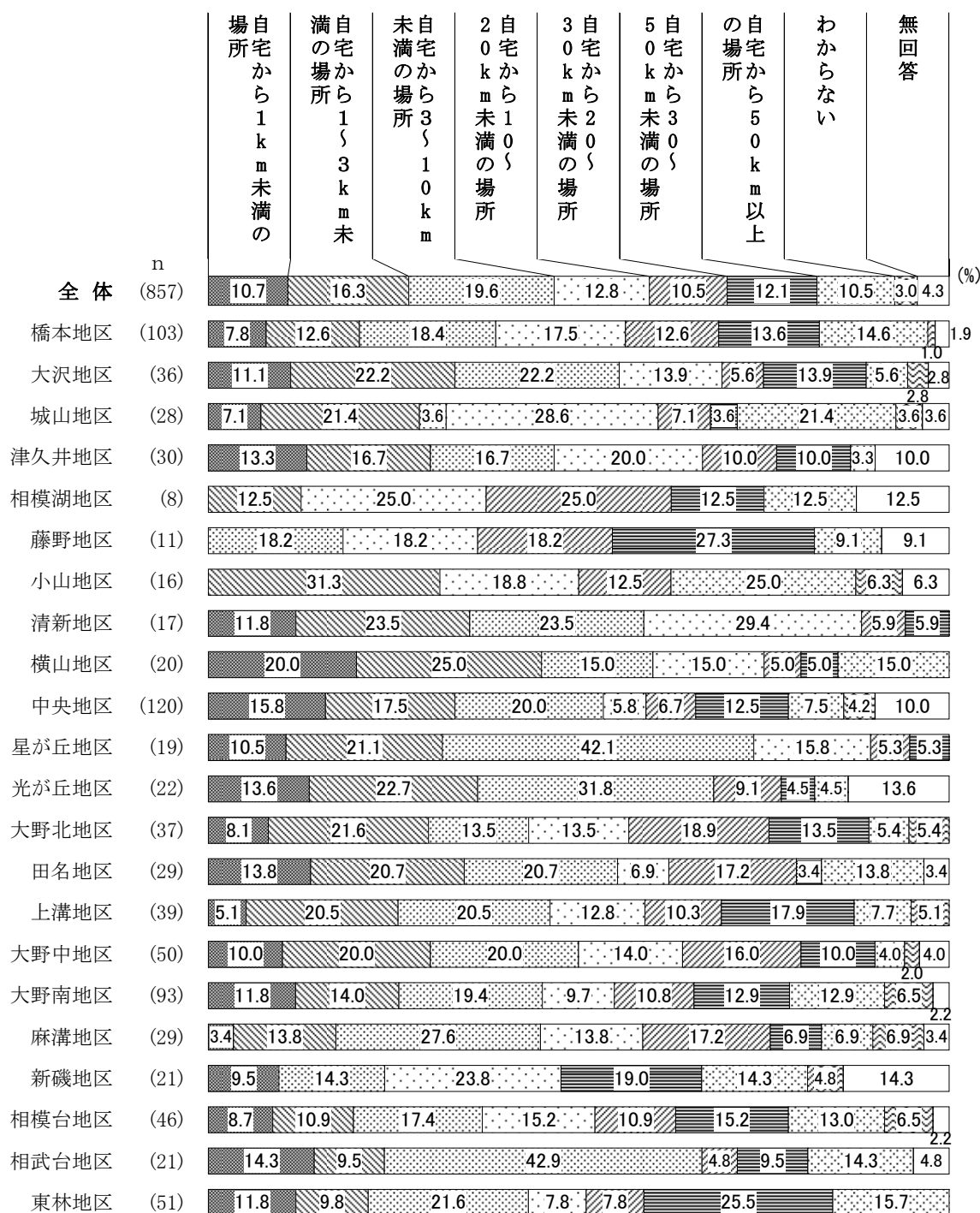
性・年代別にみると「自宅から30km以上の場所」は男性では50代まで序々に高くなっている。女性で「自宅から30km以上の場所」は20代で最も高く、年齢が上がるにつれ低くなる傾向がみられる。

性別、性・年代別 震災発生時の自宅からの距離



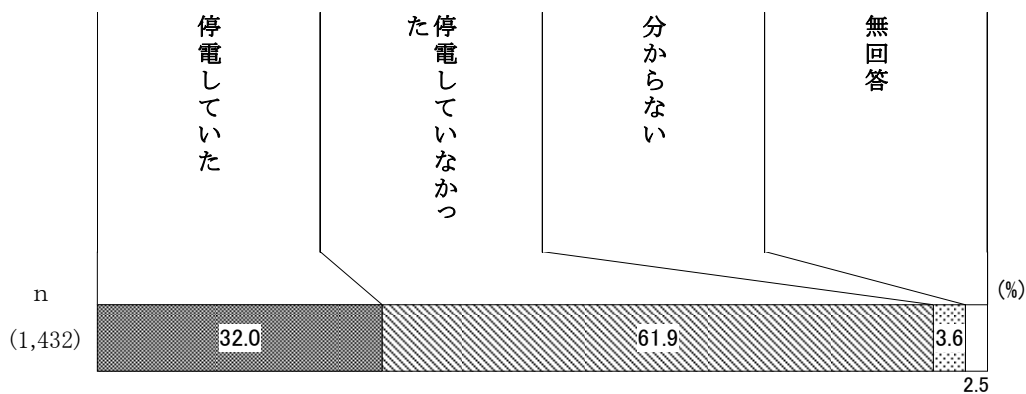
地区別にみると、「自宅から3～10km未満の場所」が星が丘地区と相武台地区で、4割を超えて高くなっている。「自宅から30～50km未満の場所」では藤野地区、東林地区が2割台後半とやや高くなっている。「自宅から50km以上の場所」では小山地区が2割台半ばとなっている。

地区別 震災発生時の自宅からの距離



(4) 発生後に居た場所の停電状況

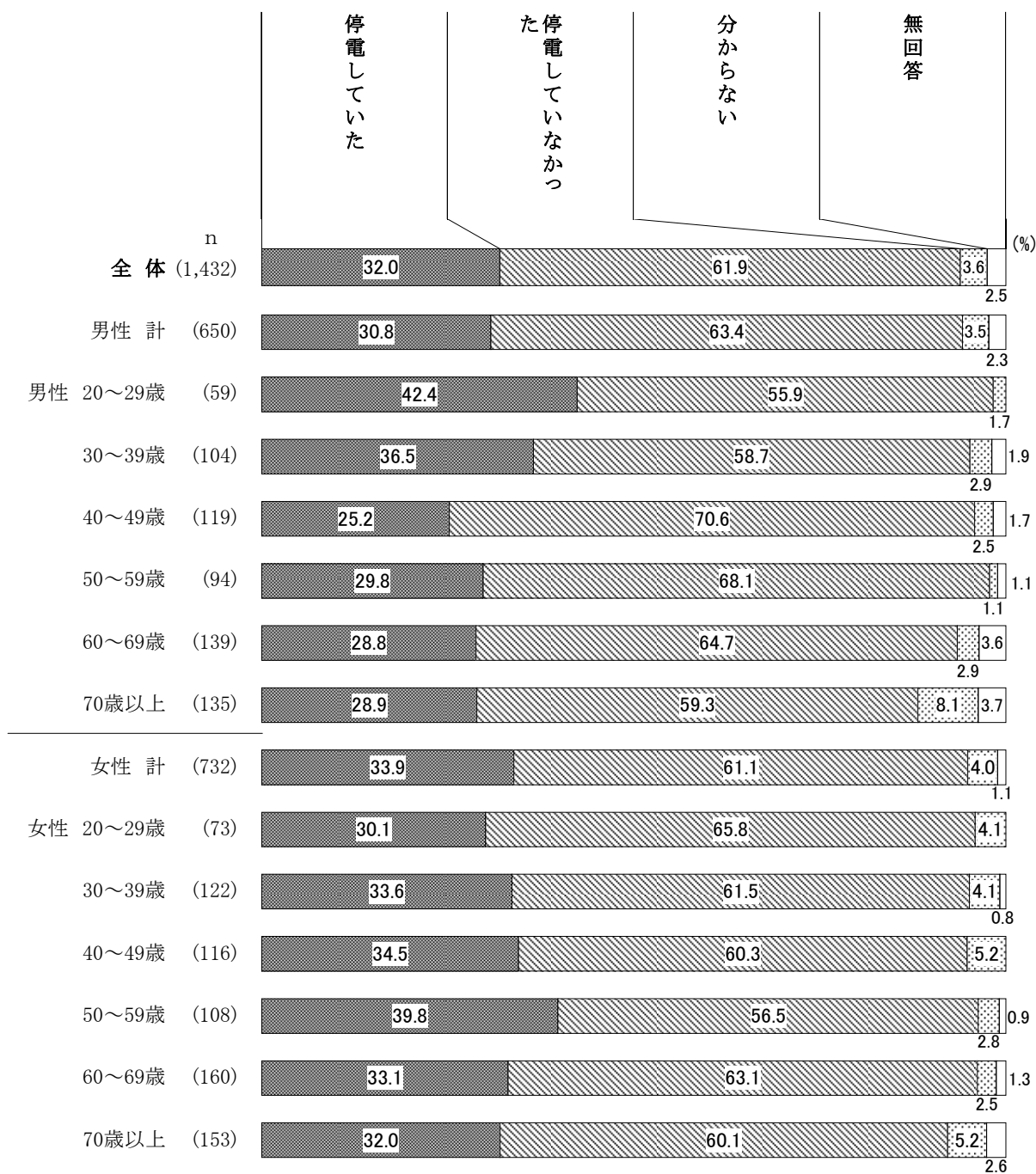
問6 地震発生から1～2時間の間あなたが主に居た場所は、停電していましたか。
(○は1つ)



東日本大震災発生時から1～2時間の間、主に居た場所が停電していたかたずねたところ、「停電していなかつた」は61.9%と高く、一方「停電していた」は32.0%である。

性・年代別でみると、「停電していた」は男性では20代、女性では50代がやや高くなっている。

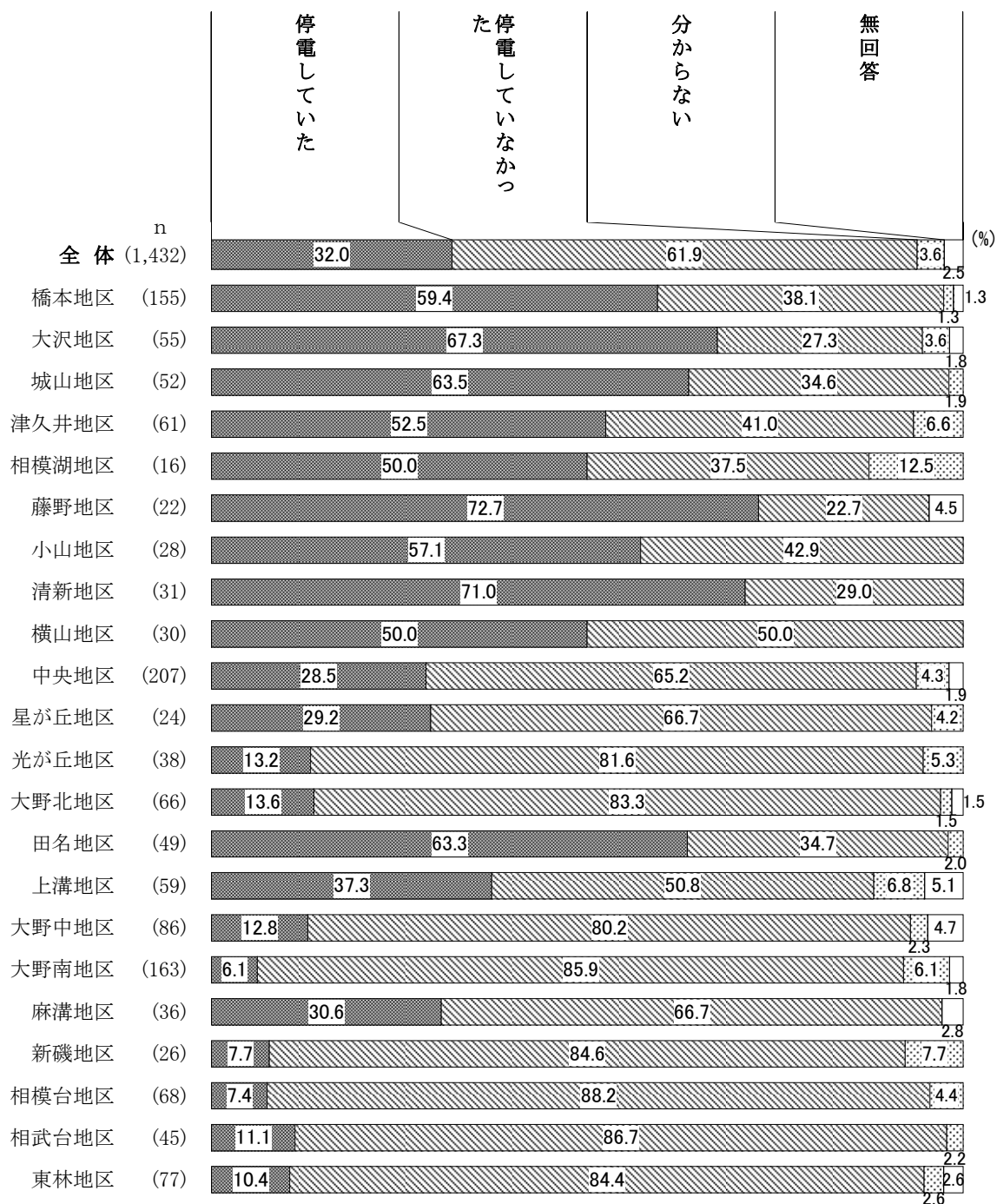
性別、性・年代別 発生後に居た場所の停電状況



第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「停電していた」は藤野地区、清新地区で7割台、大沢地区、城山地区、田名地区で6割台と高くなっている。大野南地区、新磯地区、相模台地区では1割未満、東林地区、相武台地区、大野中地区、光が丘地区、大野北地区では1割台と低くなっており、地区による差がみられる。

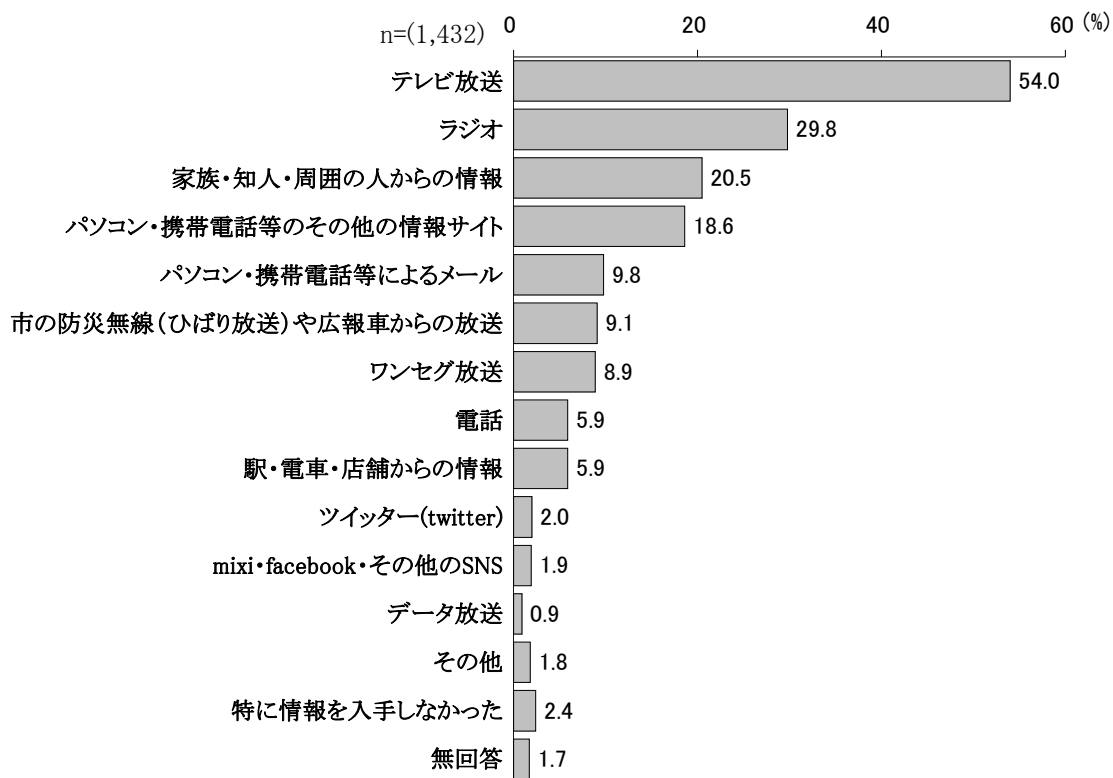
地区別 発生後に居た場所の停電状況



(5) 震災発生直後の情報源

問7 地震発生から1～2時間の間、情報源となったものをお答えください。

(○はいくつでも)



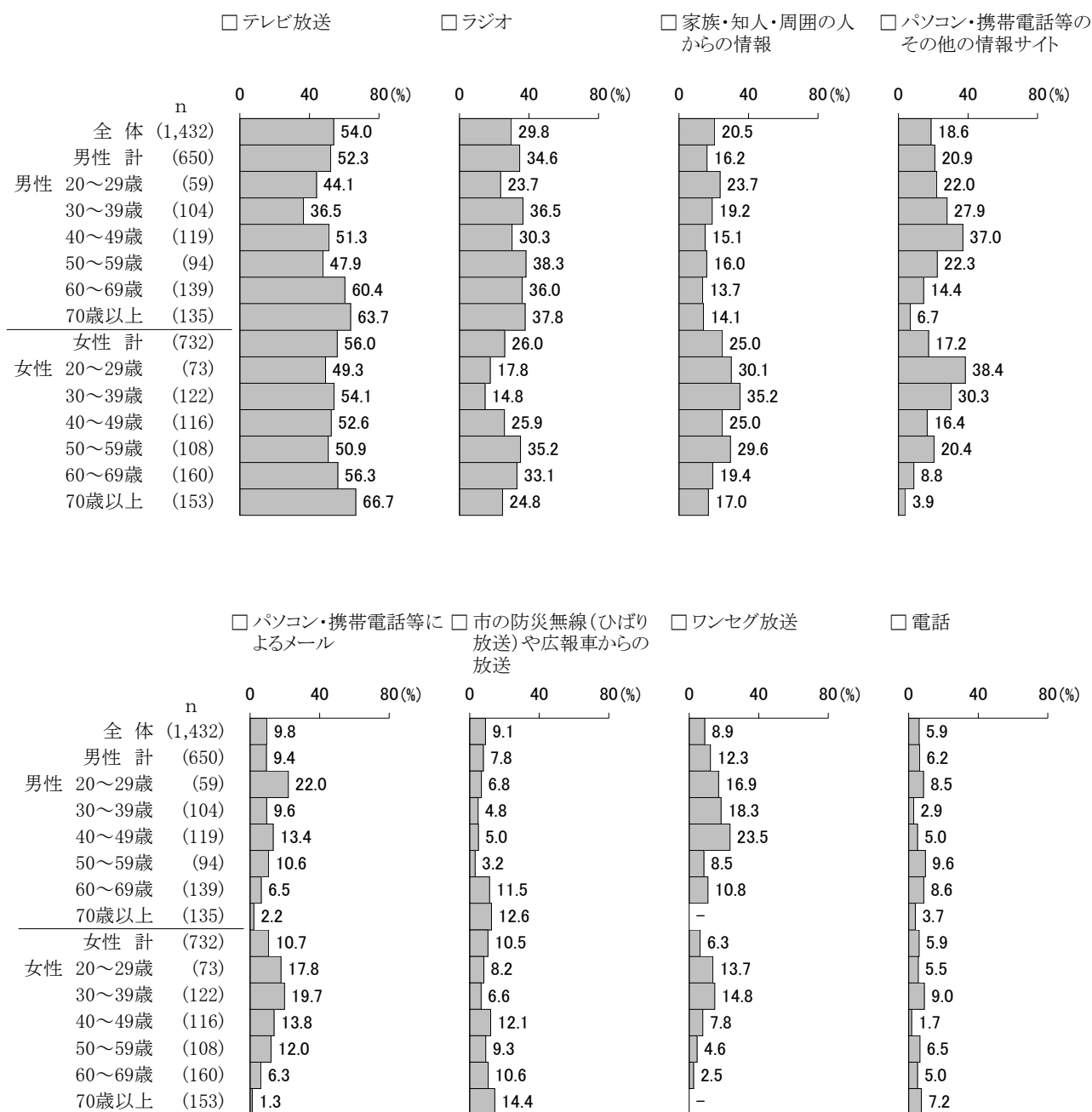
東日本大震災発生時から1～2時間の間、情報源になったものをたずねたところ、「テレビ放送」が54.0%と最も高く、次いで「ラジオ」が29.8%、「家族・知人・周囲の人からの情報」が20.5%と続いている。

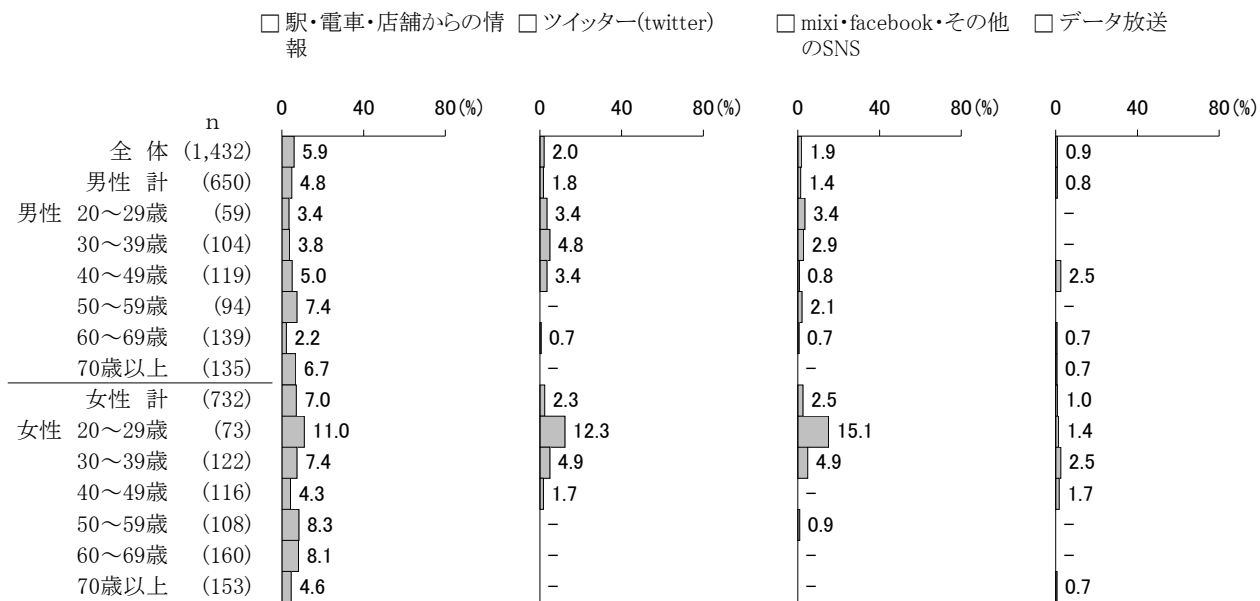
第3章 調査結果の分析

性別にみると「家族・知人・周囲の人からの情報」は女性（25.0%）が男性（20.5%）をやや上回っている。

性・年代別にみると「テレビ放送」は男女ともに70歳以上が6割台と最も高く、「パソコン・携帯電話等のその他の情報サイト」は男性では40代、女性では20代が最も高く、3割台後半である。また、「ツイッター（Twitter）」や「mixi・facebook・その他のSNS」は「駅・電車・店舗からの情報」とともに女性の20代で1割程度と高くなっている。

性別、性・年代別 震災発生直後の情報源（上位12項目）



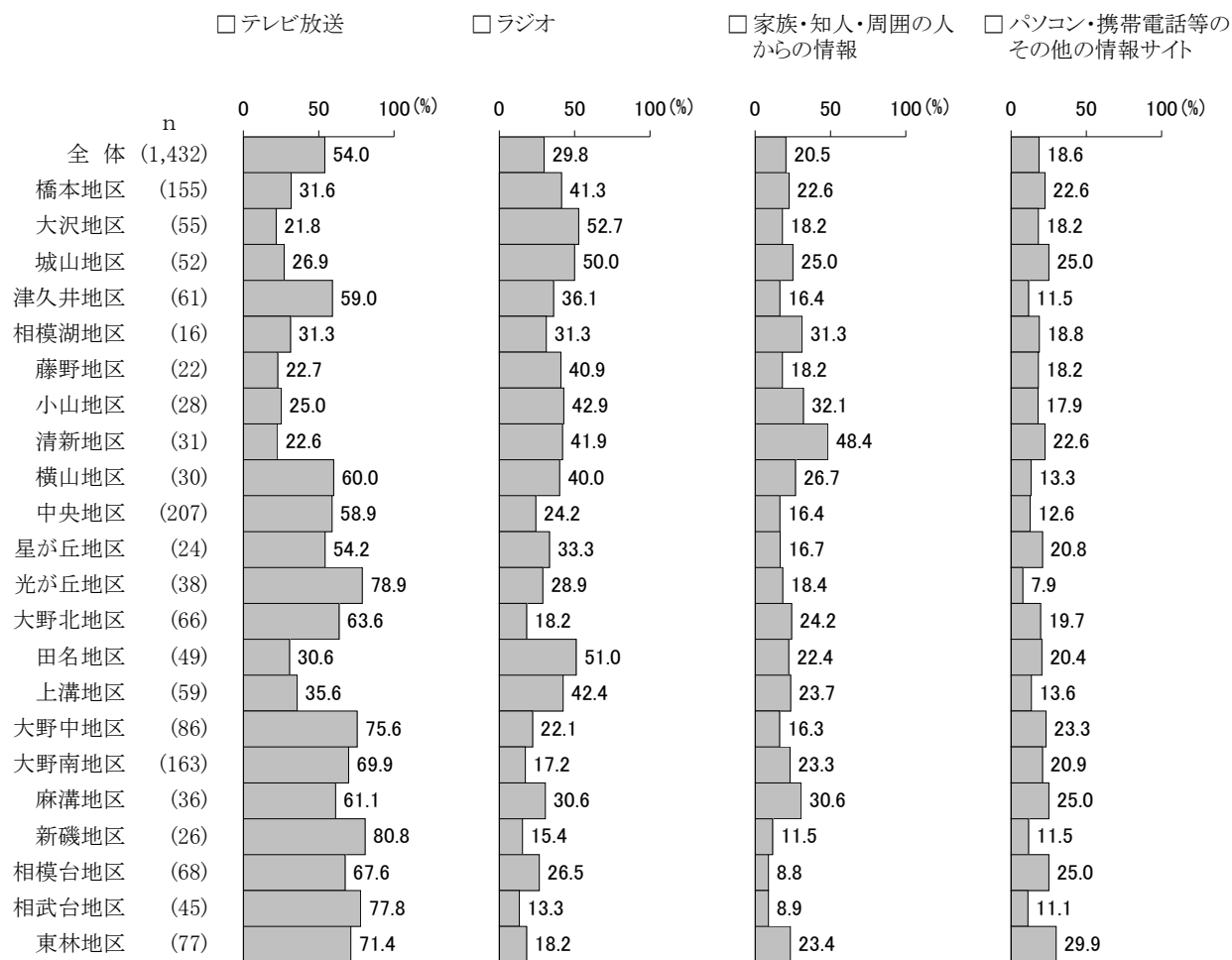


第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「テレビ放送」は新磯地区が8割と最も高く、次いで光が丘地区、相武台地区、大野中地区が7割台となっている。「ラジオ」は大沢地区、田名地区、城山地区で5割台となっている。

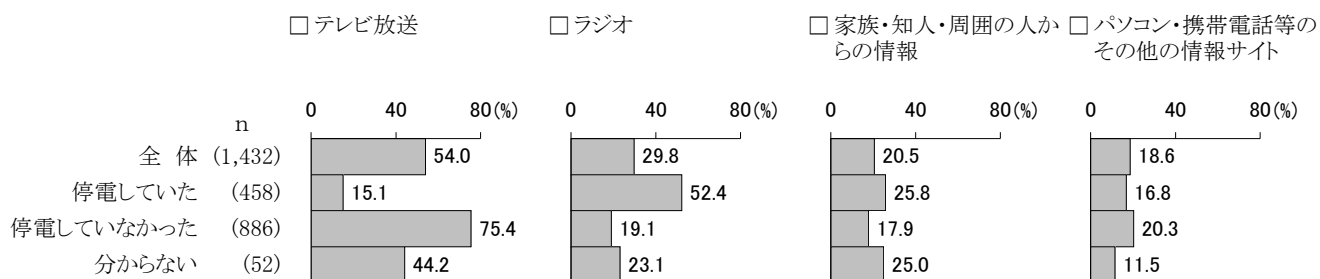
地区別 震災発生直後の情報源（上位4項目）

※地区別はデータ量が多くなるため、上位4項目に限る



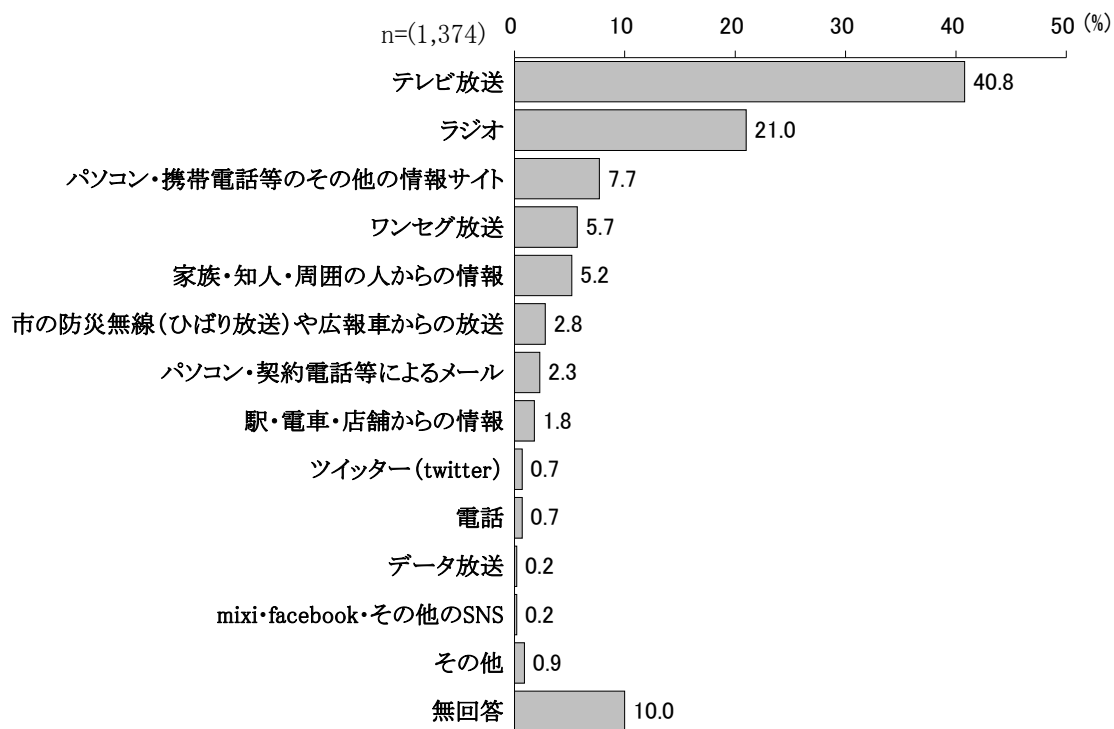
発生後にいた場所の停電状況別にみると、停電していたでは、「ラジオ」が5割前半と最も高く、停電していなかったでは、「テレビ放送」が7割台半ばと最も高くなっている。

発生後にいた場所の停電状況（問6）別 震災発生直後の情報源（上位4項目）



(6) 震災直後に最も役に立った情報源

【問7-1 問7で「特に情報を入手しなかった」以外を選ばれた方にお伺いします。】
最も役に立った情報源はどれですか。問7で選んだ選択肢を1つだけご記入ください。

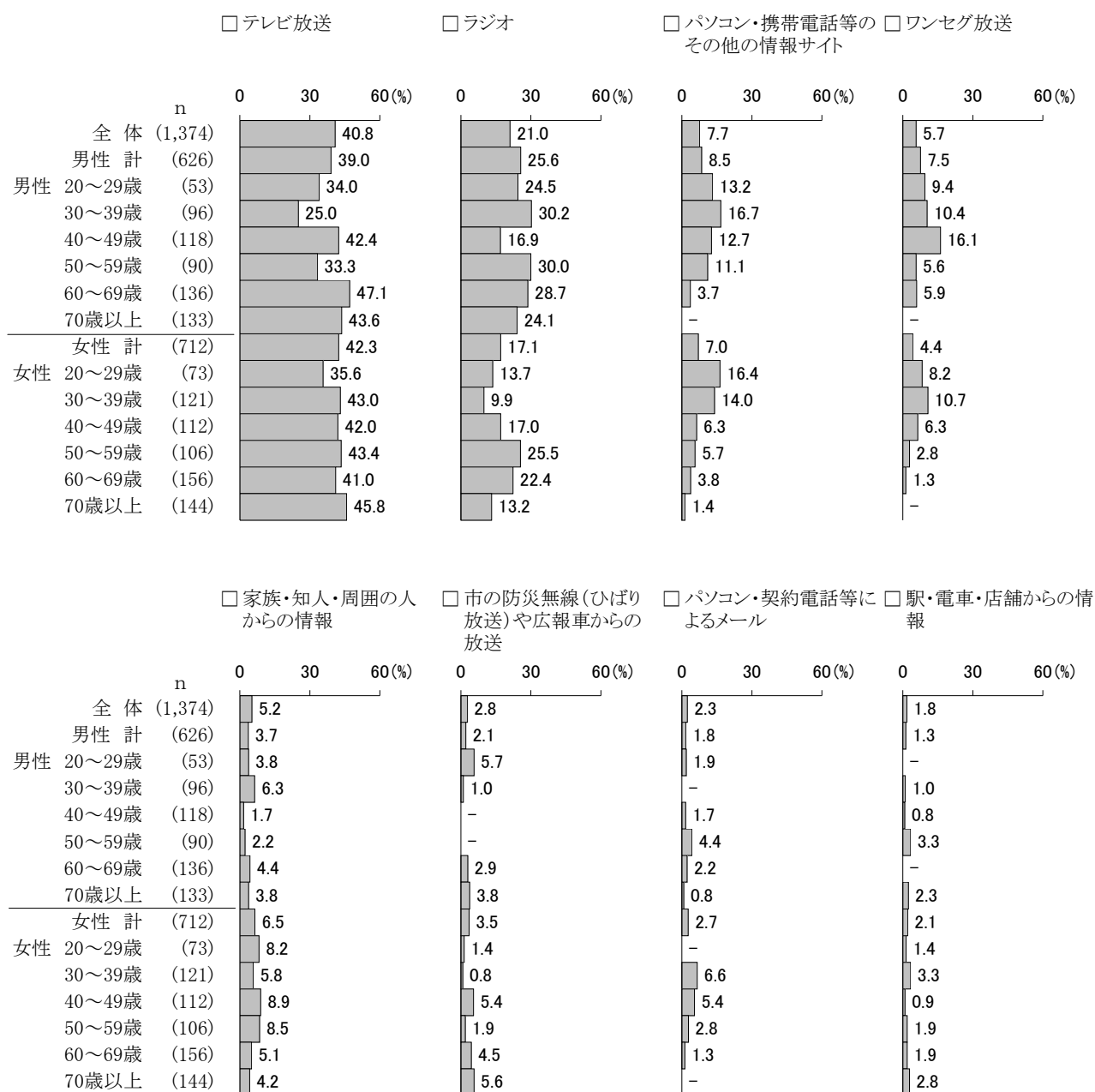


東日本大震災発生時から1～2時間の間、何らかの情報を入手したと回答された方に最も役に立った情報源をたずねたところ、「テレビ放送」が40.8%と最も高く、次いで「ラジオ」が21.0%と続いている。

性別にみると男性、女性ともに「テレビ放送」が4割前後と最も高い。「ラジオ」は男性（25.6%）が、女性（17.1%）より8.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると「ラジオ」は男性の30代と50代で3割と高くなっている。「パソコン・携帯電話等のその他の情報サイト」は男性の30代と女性の20代でそれぞれ1割台後半となっている。

性別、性・年代別 震災直後に最も役に立った情報源（上位8項目）

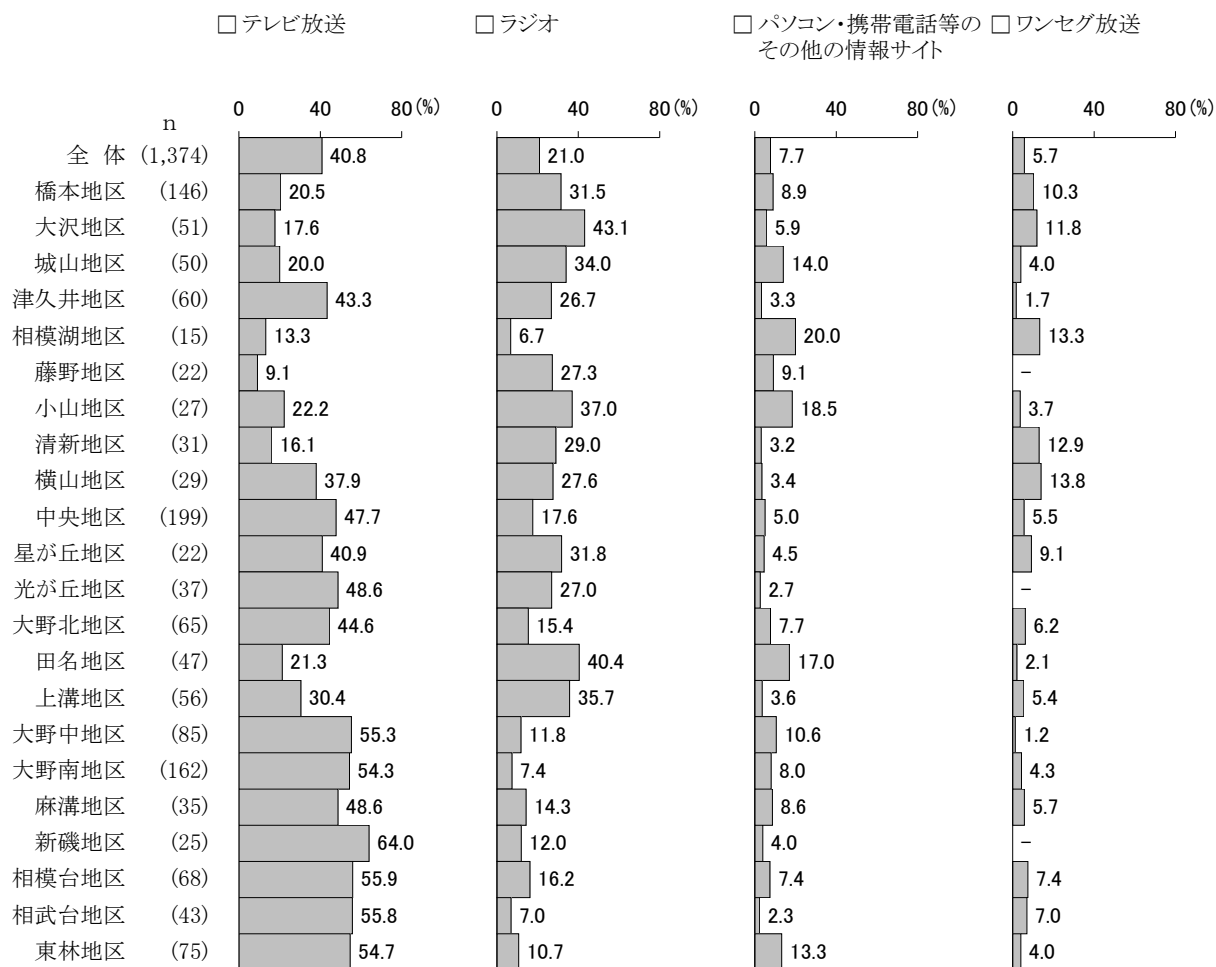


第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「テレビ放送」では新磯地区が6割台半ばと最も高く、次いで相模台地区、相武台地区、大野中地区、東林地区、大野南地区で5割を超えている。「ラジオ」は大沢地区、田名地区で4割を超えている。

地区別 震災直後に最も役に立った情報源（上位4項目）

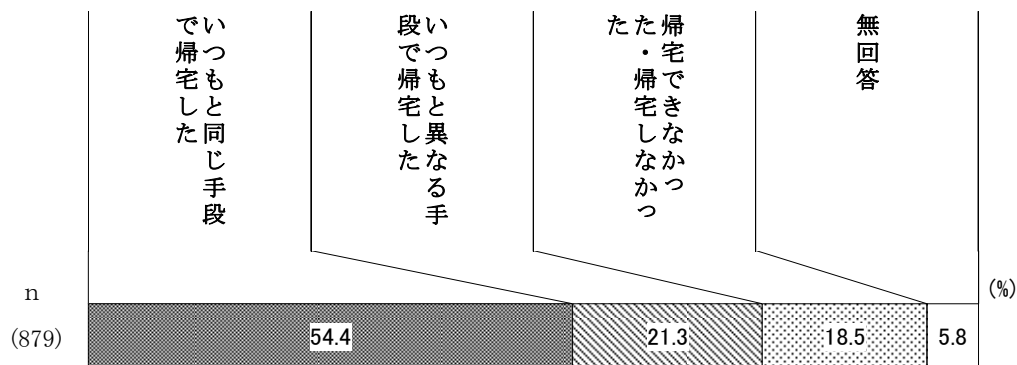
※地区別はデータ量が多くなるため、上位4項目に限る



(7) 震災当日の帰宅手段

問8 東日本大震災の当日、あなたは自宅へはどのような手段で帰宅しましたか。

(○は1つ)



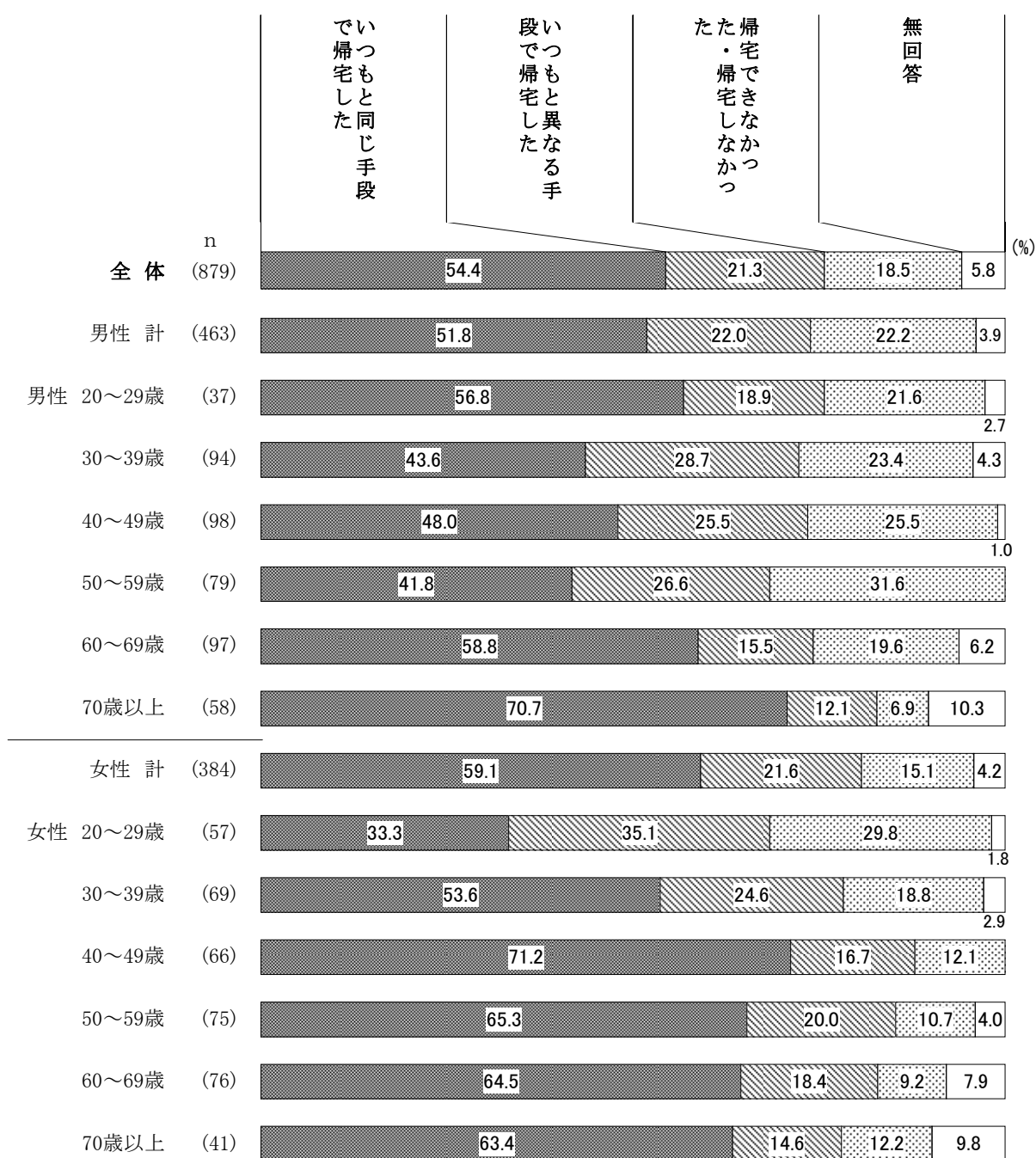
東日本大震災発生時に自宅以外にいたと回答された方に自宅までどのような手段で帰宅したのかたずねたところ、「いつもと同じ手段で帰宅した」は54.4%と高く、「いつもと異なる手段で帰宅した」は21.3%となっている。

第3章 調査結果の分析

性別にみると「いつもと同じ手段で帰宅した」は男性（51.8%）と女性（59.1%）では7.3ポイントの差があり、やや女性の方が高くなっている。

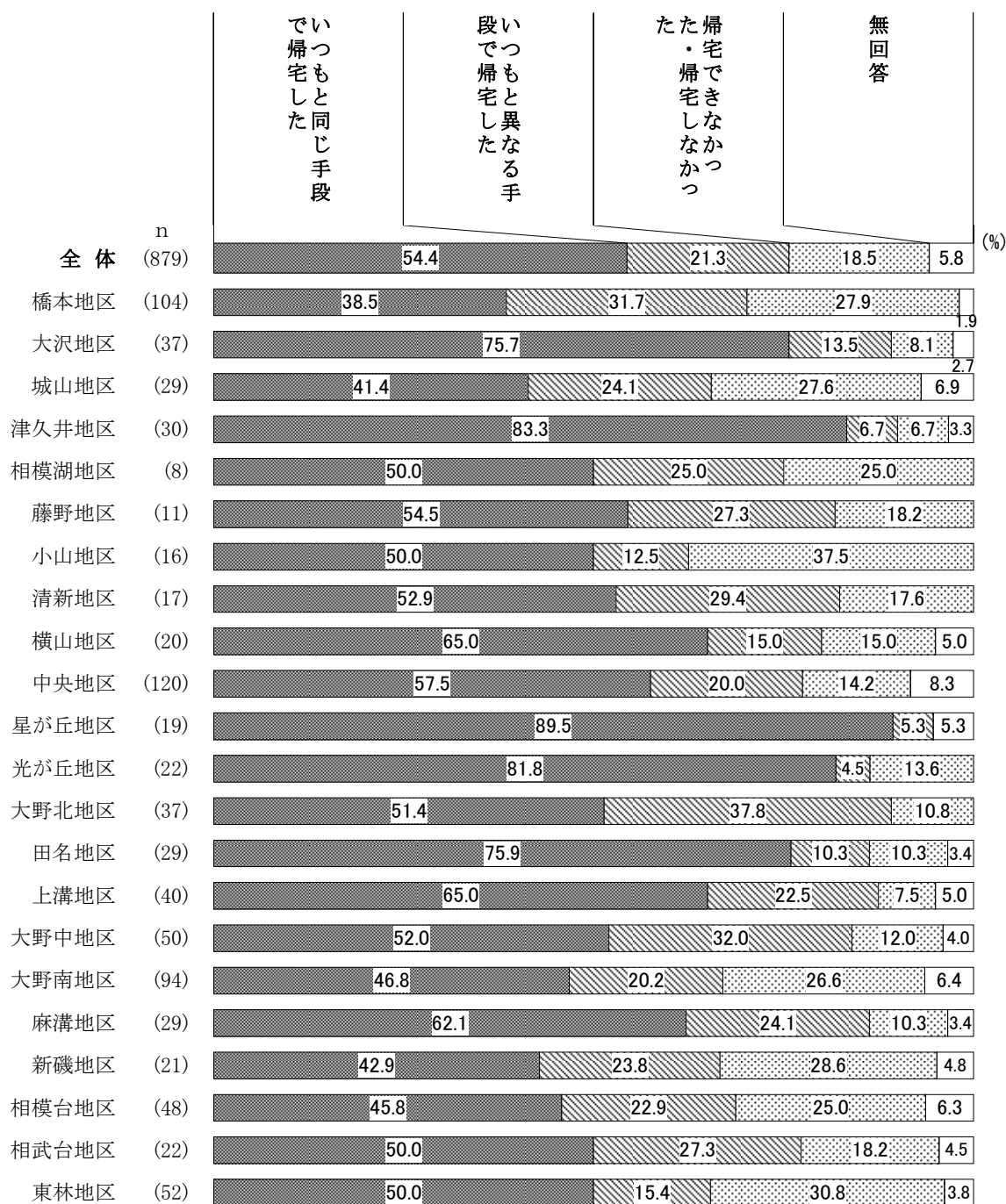
性・年代別にみると「いつもと同じ手段で帰宅した」は男性の70歳以上と女性の40代で最も高く7割台前半である。「いつもと異なる手段で帰宅した」は男性の30代から50代で2割台後半となっており、女性の20代で3割半ばと最も高くなっている。「帰宅できなかった・帰宅しなかった」は男性の50代で最も高く3割台前半、女性では20代で約3割となっている。

性別、性・年代別 震災当日の帰宅手段



地区別にみると、「いつもと同じ手段で帰宅した」は星が丘地区、津久井地区、光が丘地区で8割を超えて、他の地区より高くなっている。「いつもと異なる手段で帰宅した」は大野北地区、大野中地区、橋本地区で3割を超えている。「帰宅できなかった・帰宅しなかった」は小山地区で3割台後半、東林地区で3割となっている。

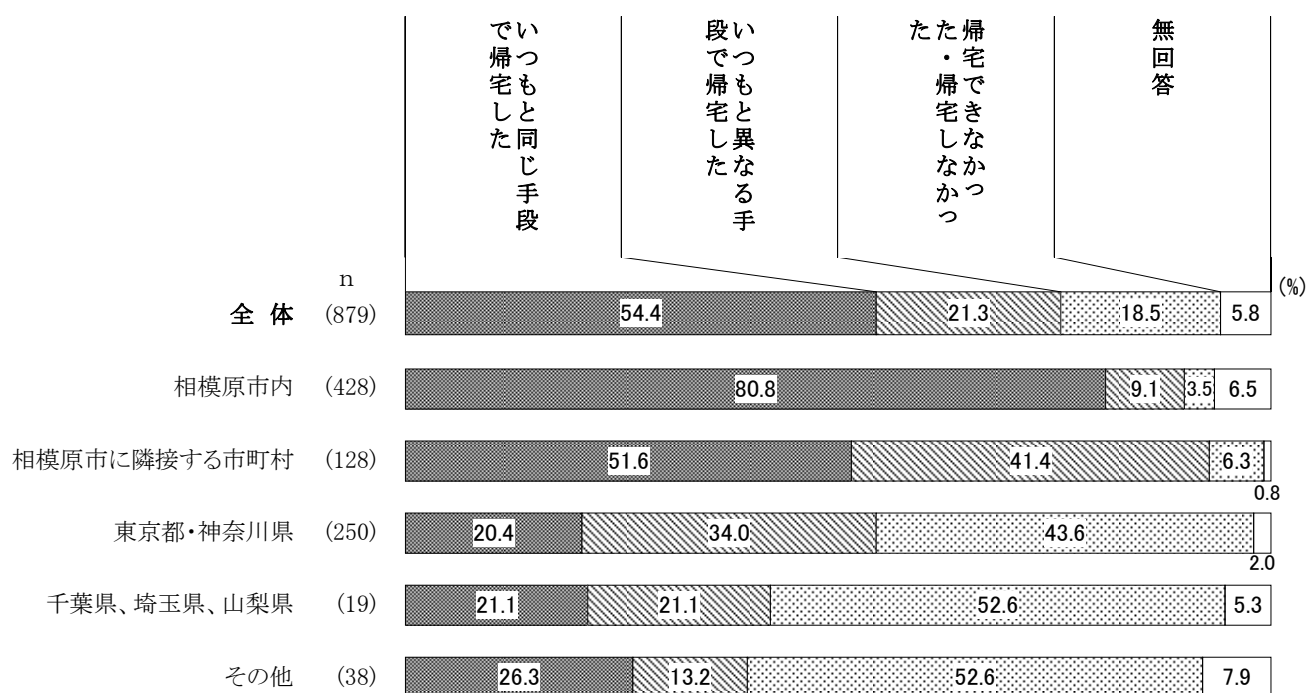
地区別 震災当日の帰宅手段



第3章 調査結果の分析

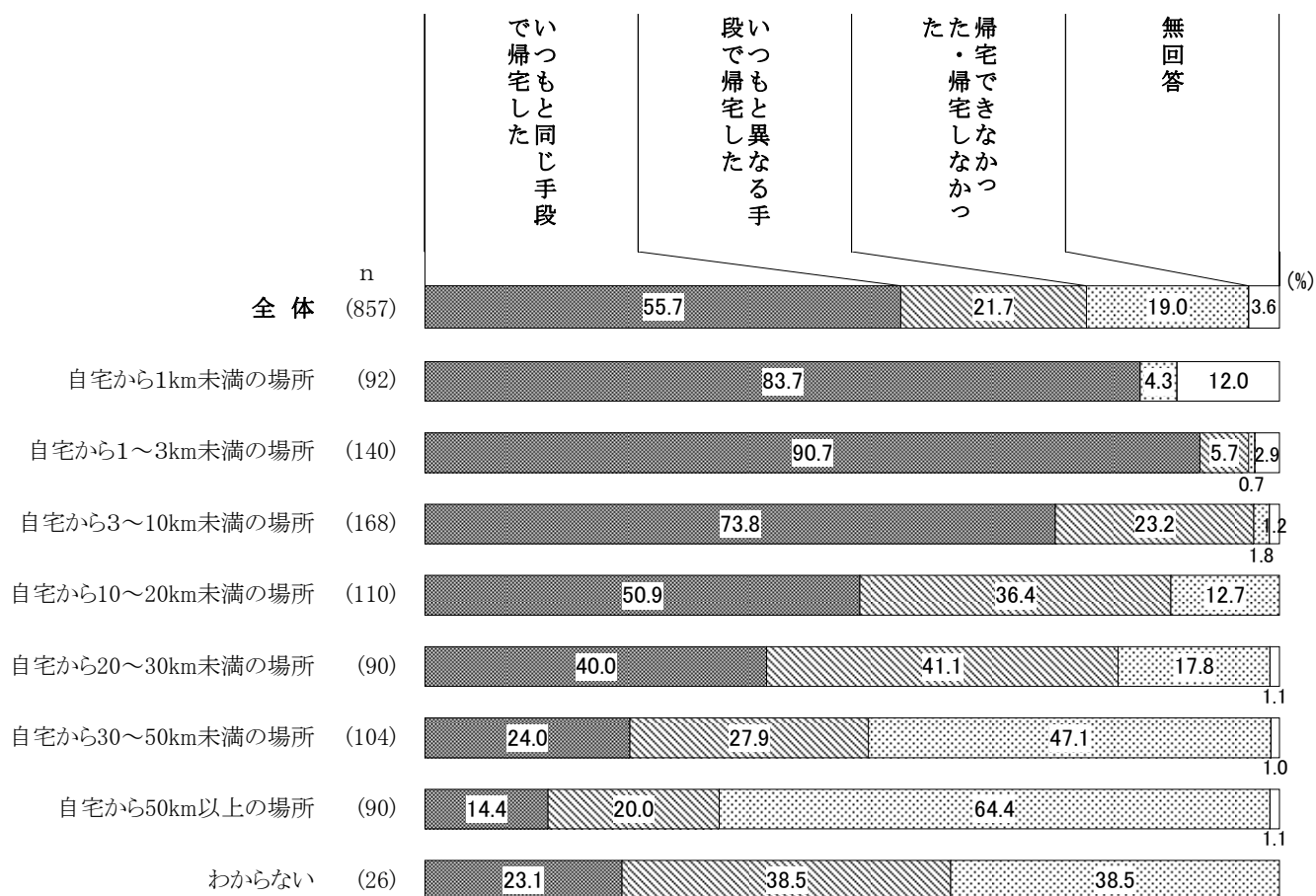
震災発生時にいた地域別にみると、「いつもと同じ手段で帰宅した」は“相模原市内”が8割を超えており、“相模原市に隣接する市町村”で5割台前半となっている。「いつもと異なる手段で帰宅した」は“相模原市に隣接する市町村”では4割を超えており、「帰宅できなかった・帰宅しなかった」は“千葉県、埼玉県、山梨県”で5割を超えている。

震災発生時にいた地域（問4）別 震災当日の帰宅手段



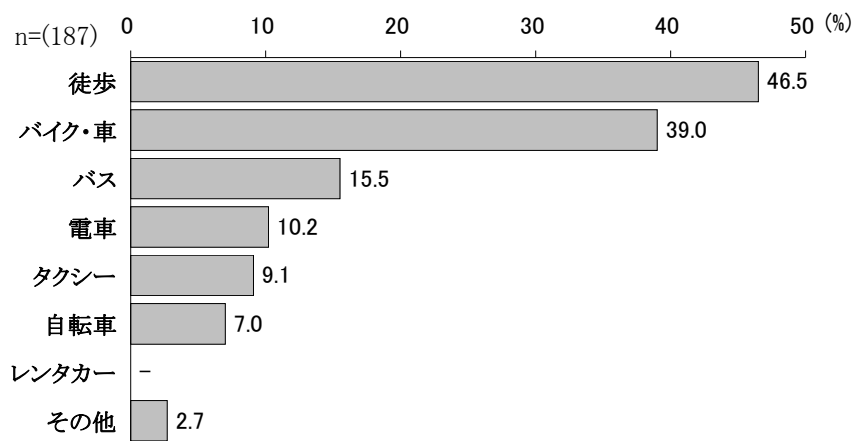
震災発生時の自宅からの距離別にみると、距離が短いほど「いつもと同じ手段で帰宅した」が高い傾向が見られ、“自宅から10km未満まで”では7割前半から9割となっている。“自宅から50km以上の場所”では「帰宅できなかった・帰宅しなかった」が6割台半ばと高く、“自宅から30～50km未満の場所”も4割台後半とやや高くなっている。

震災発生時の自宅からの距離（問5-1）別 震災当日の帰宅手段



(8) 通常とは異なる手段での帰宅で利用したもの

【問8-1 問8で「いつもと異なる手段で帰宅した」とお答えの方にお伺いします。】
 自宅へはどのような手段で帰宅しましたか。(〇はいくつでも)

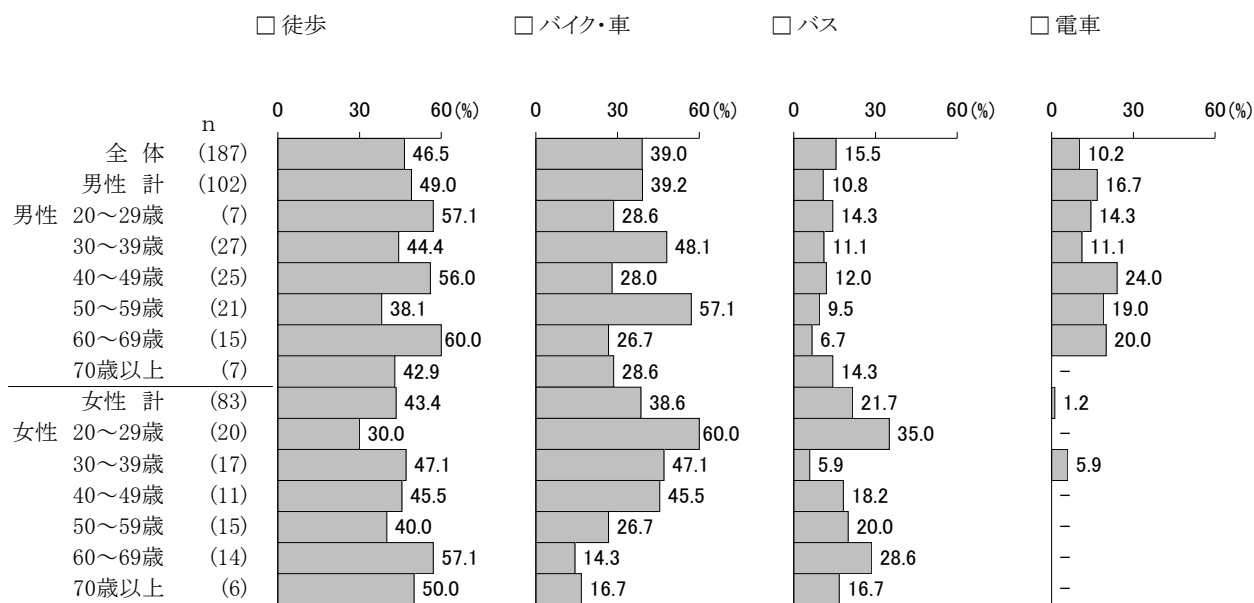


自宅へいつもと異なる手段で帰宅したと回答された方にどのような手段（一部も含む）で帰宅したのかたずねたところ、「徒歩」が46.5%と最も高く、次いで「バイク・車」が39.0%と続いている。

性別にみると「バス」は女性（21.7%）が男性（10.8%）より10.9ポイント高くなっている。

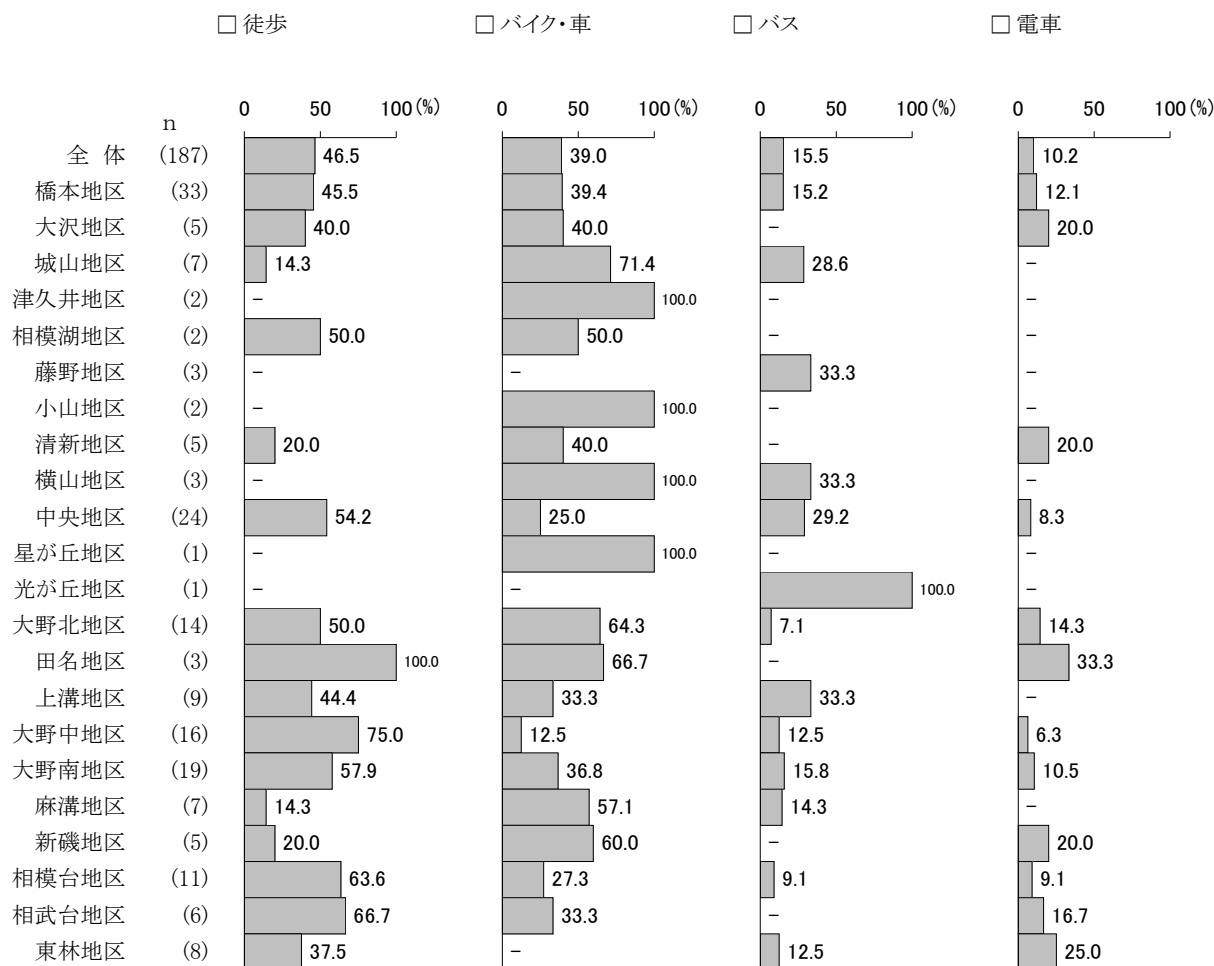
性・年代別にみると、「バイク・車」は女性の20代が6割と最も高くなっており、男性では50代で5割台後半となっている。

性別、性・年代別 通常とは異なる手段での帰宅で利用したもの（上位4項目）



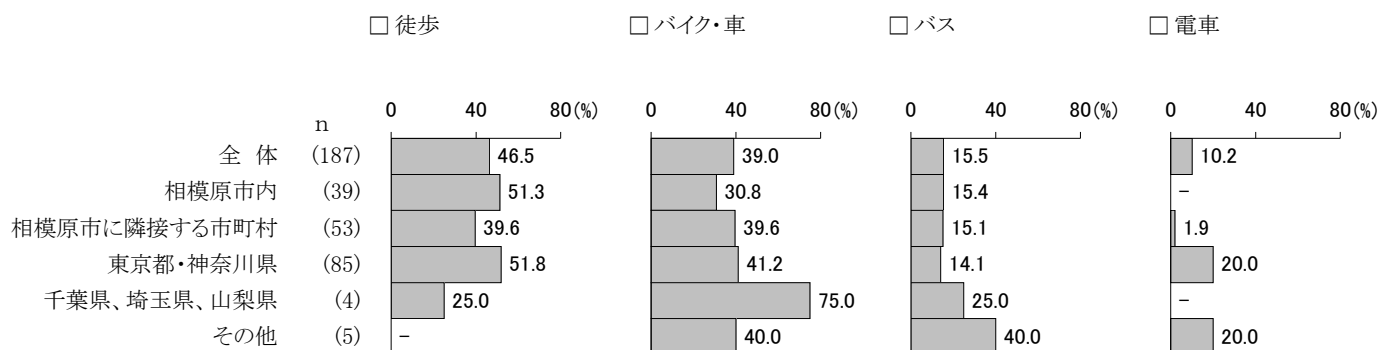
地区別の結果は、回答者数が少ないため、参考程度にとどめる。

地区別 通常とは異なる手段での帰宅で利用したもの（上位4項目）



震災発生時にいた地域別にみると、「徒歩」は「相模原市内」と「東京都・神奈川県」で5割を超えている。

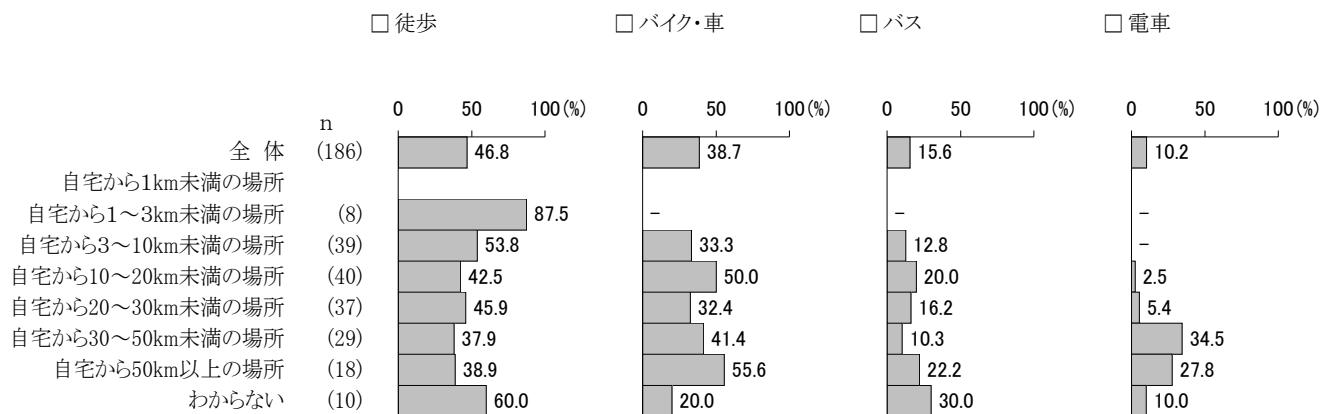
震災発生時にいた地域（問4）別 通常とは異なる手段での帰宅で利用したもの（上位4項目）



第3章 調査結果の分析

震災発生時の自宅からの距離別にみると、「バイク・車」は“自宅から10～20km未満の場所”と“自宅から50km以上の場所”にいた人が5割を超えている。「電車」は“自宅から30km以上の場所”にいた人で2割台後半から3割台半ばとなっている。

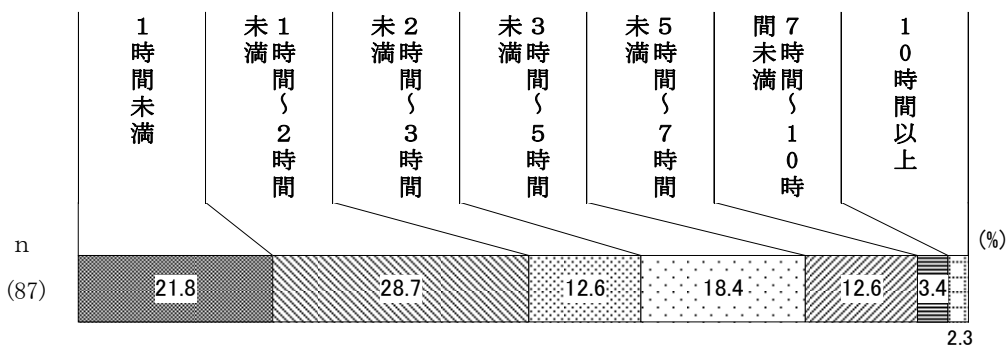
震災発生時の自宅からの距離（問5-1）別
通常とは異なる手段での帰宅で利用したもの（上位4項目）



※「自宅から1km未満の場所」は回答者がいないためデータ表示なし

(9) 徒歩時間

【問8-2 問8-1で「徒歩」とお答えの方にお伺いします。】
 おおよその歩いた時間をお答えください。(数字を記入)



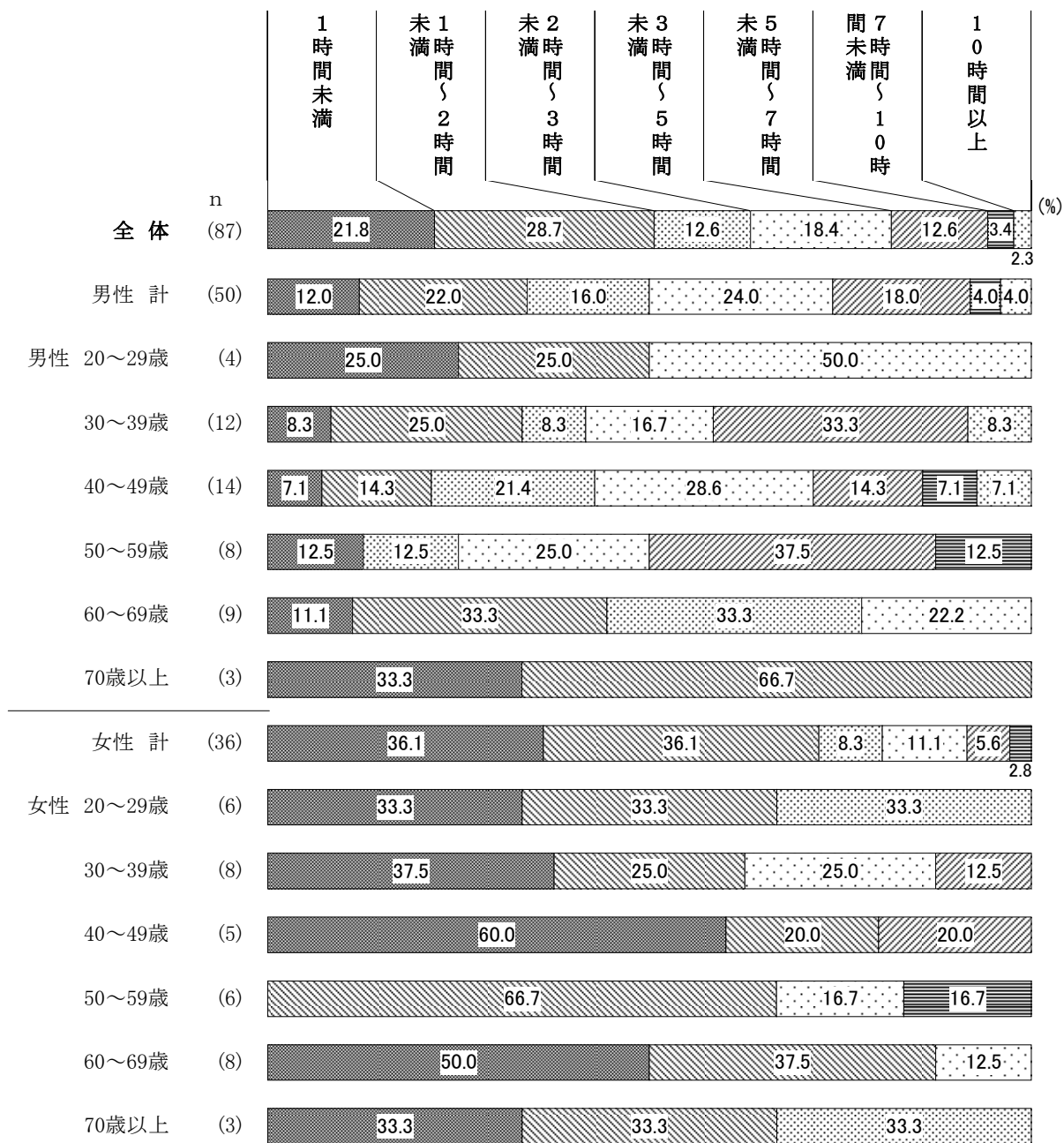
問8-1で、徒歩で帰宅したという人に歩いた時間をたずねたところ、「1時間未満」(21.8%)、「1時間～2時間未満」(28.7%)を合わせると、5割以上の方が2時間以内となっているが、一方で半数の人はそれ以上の徒歩時間を要しており、「10時間以上」という人も2.3%となっている。

第3章 調査結果の分析

性別にみると“2時間未満”まではそれぞれ女性のほうが高く、“2時間以上”では男性のほうが高くなっている。

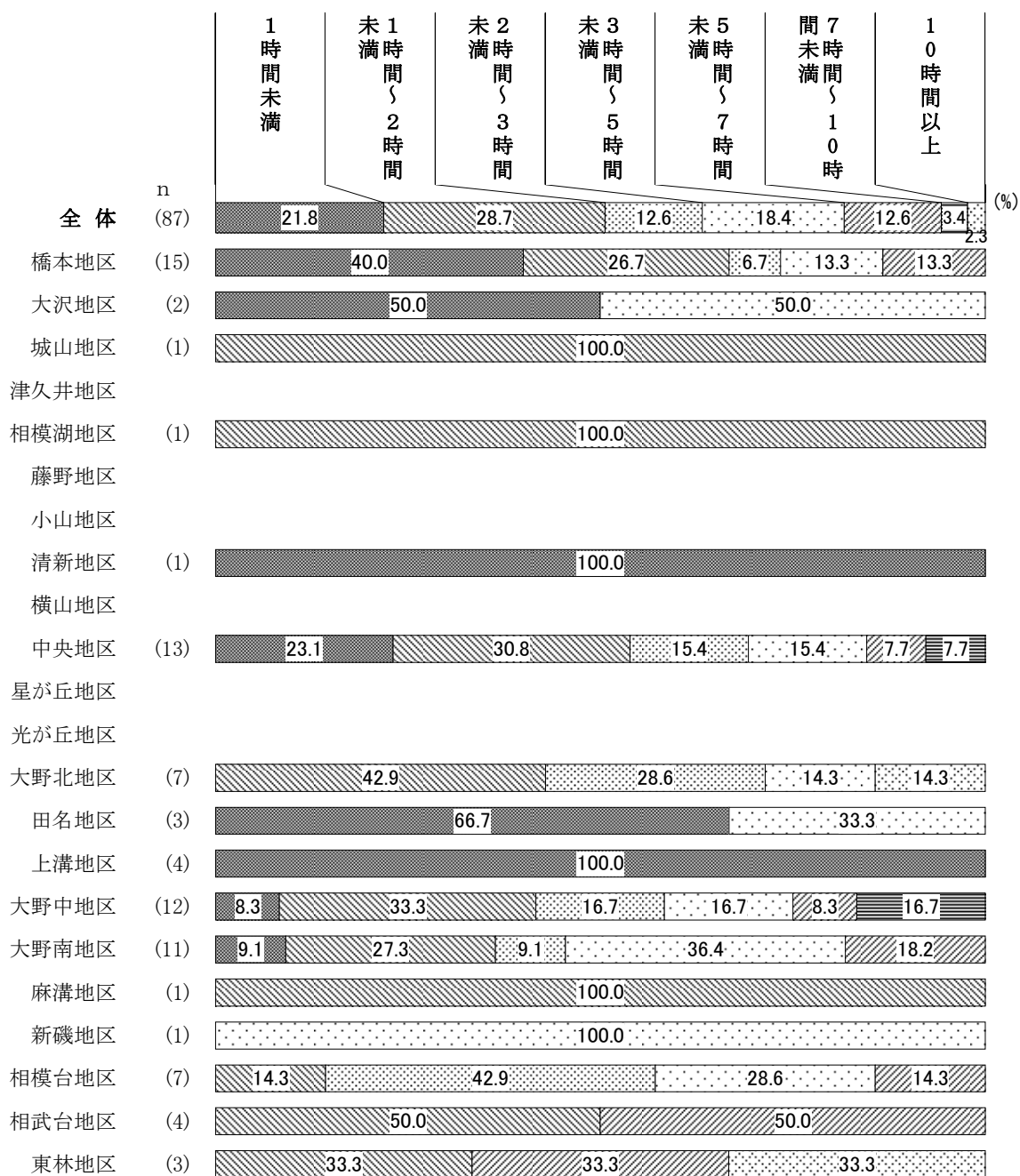
性・年代別の結果は、回答者数が少ないため、参考程度にとどめる。

性別、性・年代別 徒歩時間



地区別の結果は、回答者数が少ないため、参考程度にとどめる。

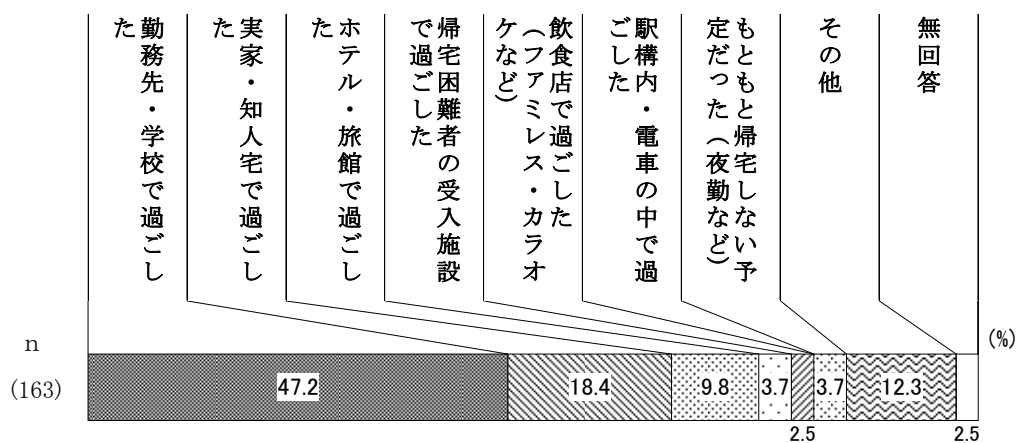
地区別 徒歩時間



※津久井、藤野、小山、横山、星が丘、光が丘地区は回答者がいないため、データ表示なし。

(10) 帰宅するまでに滞在した場所

【問8-3 問8で「帰宅できなかった・帰宅しなかった」とお答えの方にお伺いします。
 自宅へ帰宅するまでの間、どこで過ごされましたか。(〇は1つ)】



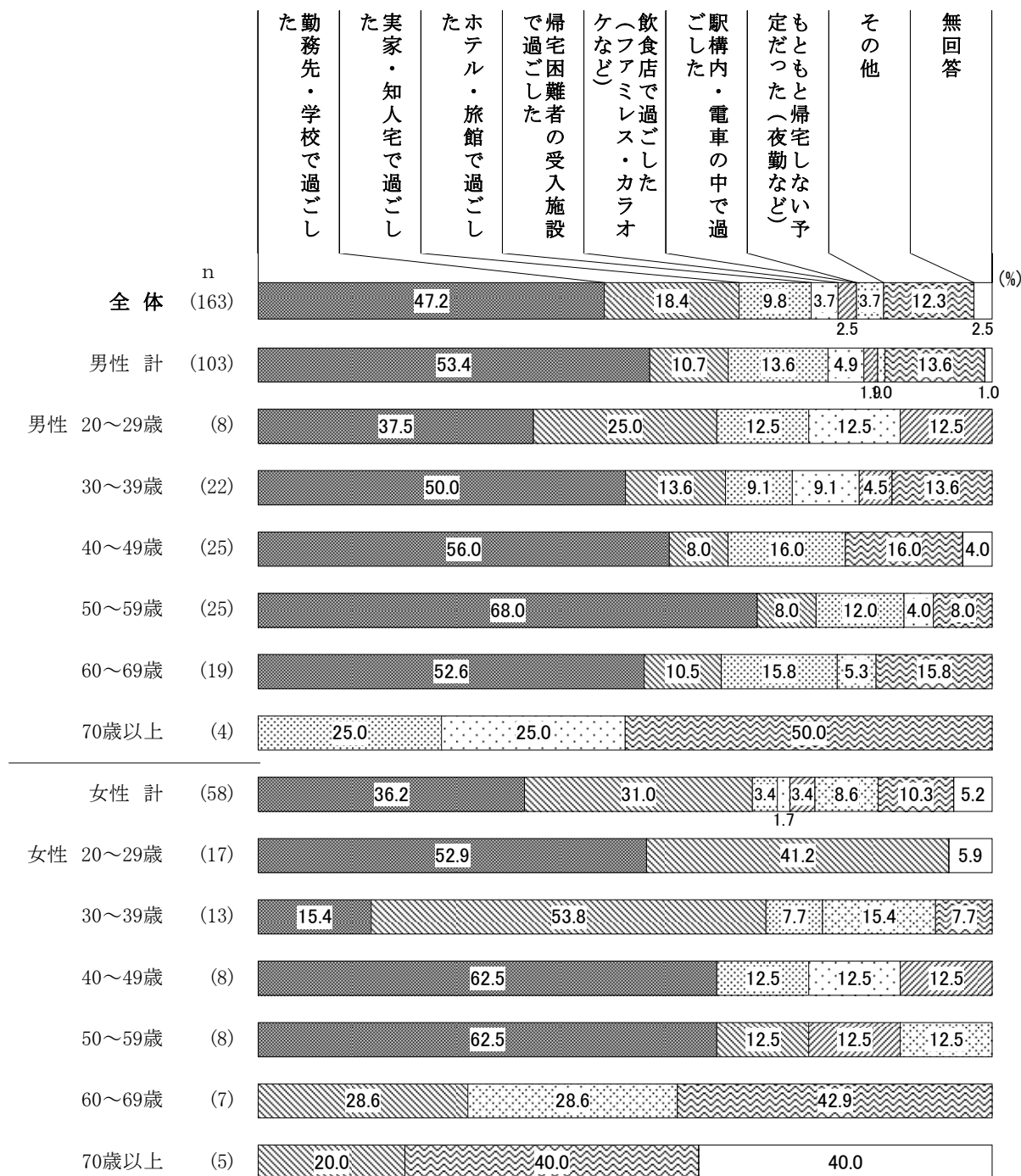
帰宅できなかった・帰宅しなかったと回答された方に帰宅するまでに過ごした場所をたずねたところ、「勤務先・学校で過ごした」が47.2%と高く、次いで「実家・知人宅で過ごした」が18.4%となっている。

※その他 (12.3%) の回答内容としては「病院」「車中」「旅行中」等があった。

性別にみると、「勤務先・学校で過ごした」は男性で5割前半と高くなっている。女性は「勤務先・学校で過ごした」と「実家・知人宅で過ごした」がそれぞれ3割台となっている。

性・年代別にみると、「勤務先・学校で過ごした」は男性の30代から60代、女性の20代、40代から50代で5割以上となっている。「実家・知人宅で過ごした」は女性の30代で5割前半となっている。

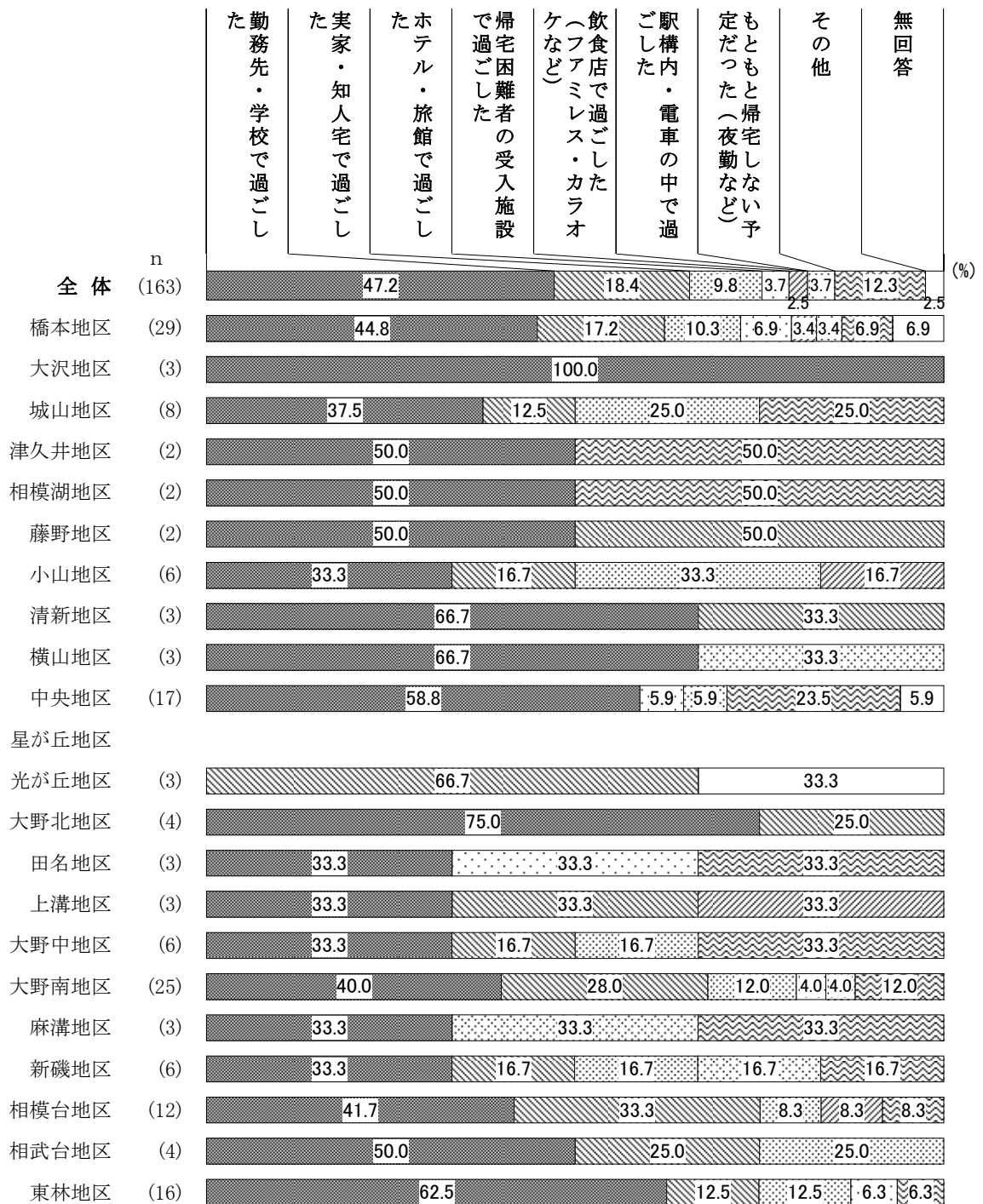
性別、性・年代別 帰宅するまでに滞在した場所



第3章 調査結果の分析

地区別の結果は、回答者数が少ないため、参考程度にとどめる。

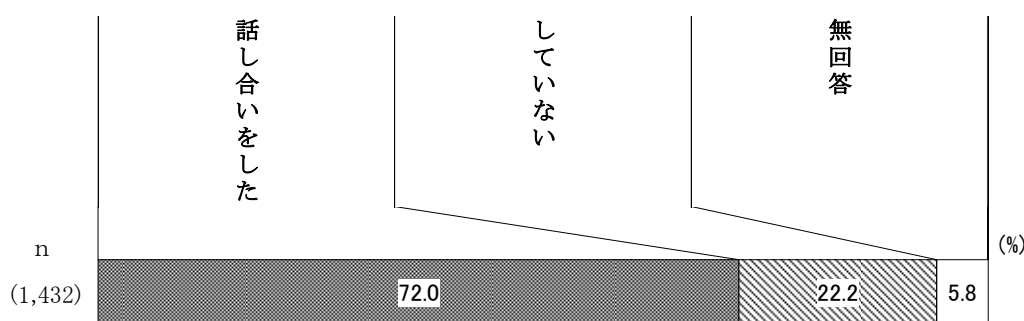
地区別 帰宅するまでに滞在した場所



2. 災害時の備え

(1) 家族や身近な人と災害に関する話し合いをしたか

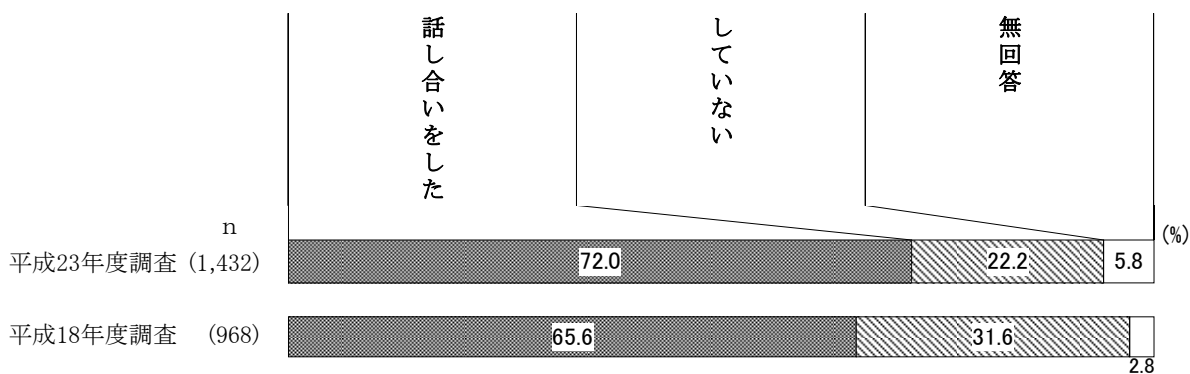
問9 あなたは、東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをしましたか。(〇は1つ)



東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをしたかたずねたところ、「話し合いをした」は72.0%と高くなっている。一方、「していない」は22.2%となっている。

過去の調査と比較すると、「話し合いをした」(72.0%)は平成18年度調査より6.4ポイント増加し、「していない」(22.2%)は9.4ポイントの減少となっている。

経年比較 家族や身近な人と災害に関する話し合いをしたか



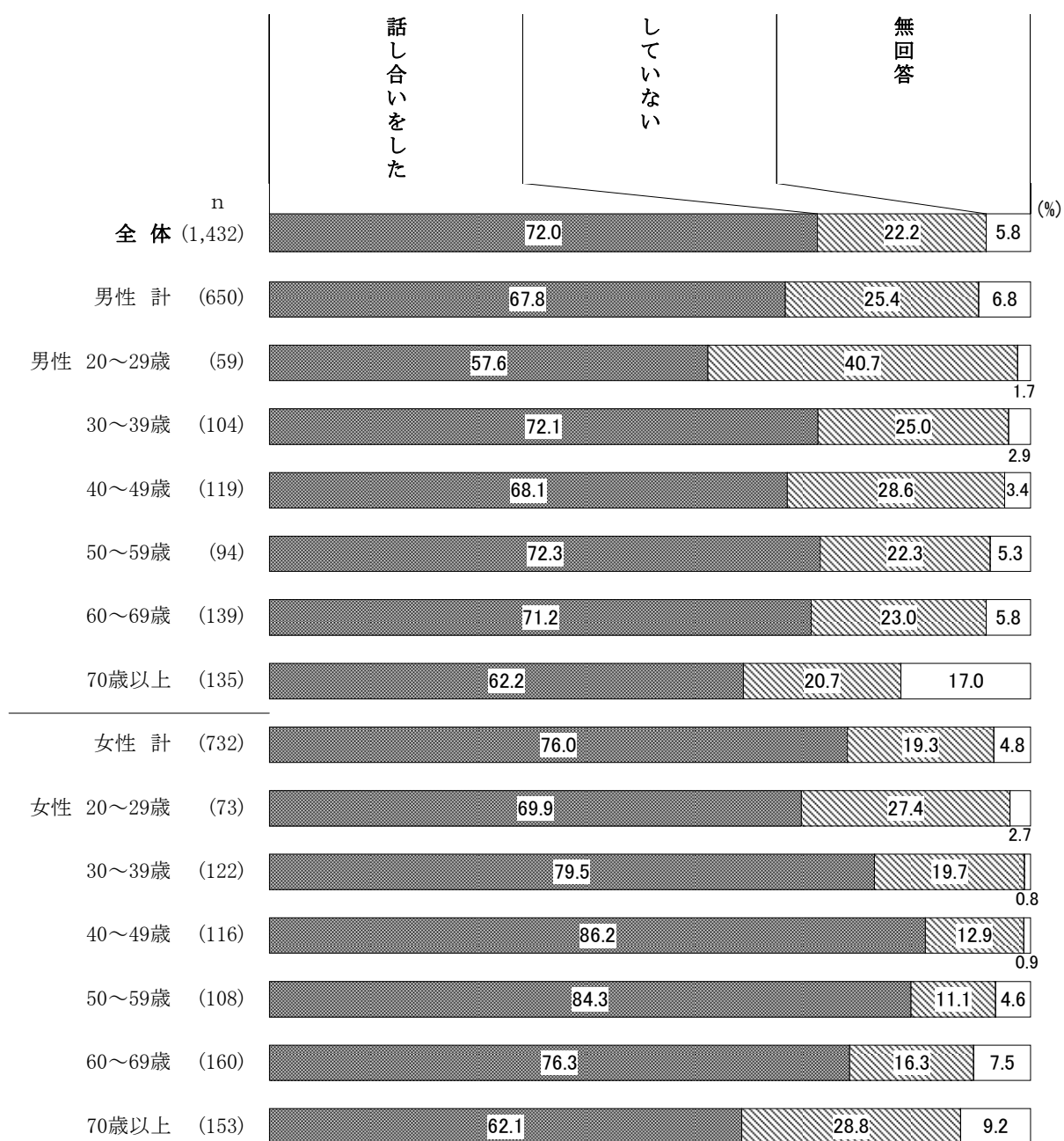
※平成18年度調査では、選択肢は「ある」、「ない」であった。

第3章 調査結果の分析

性別にみると「話し合いをした」は女性（76.0%）が男性（67.8%）より8.2ポイント高くなっている。

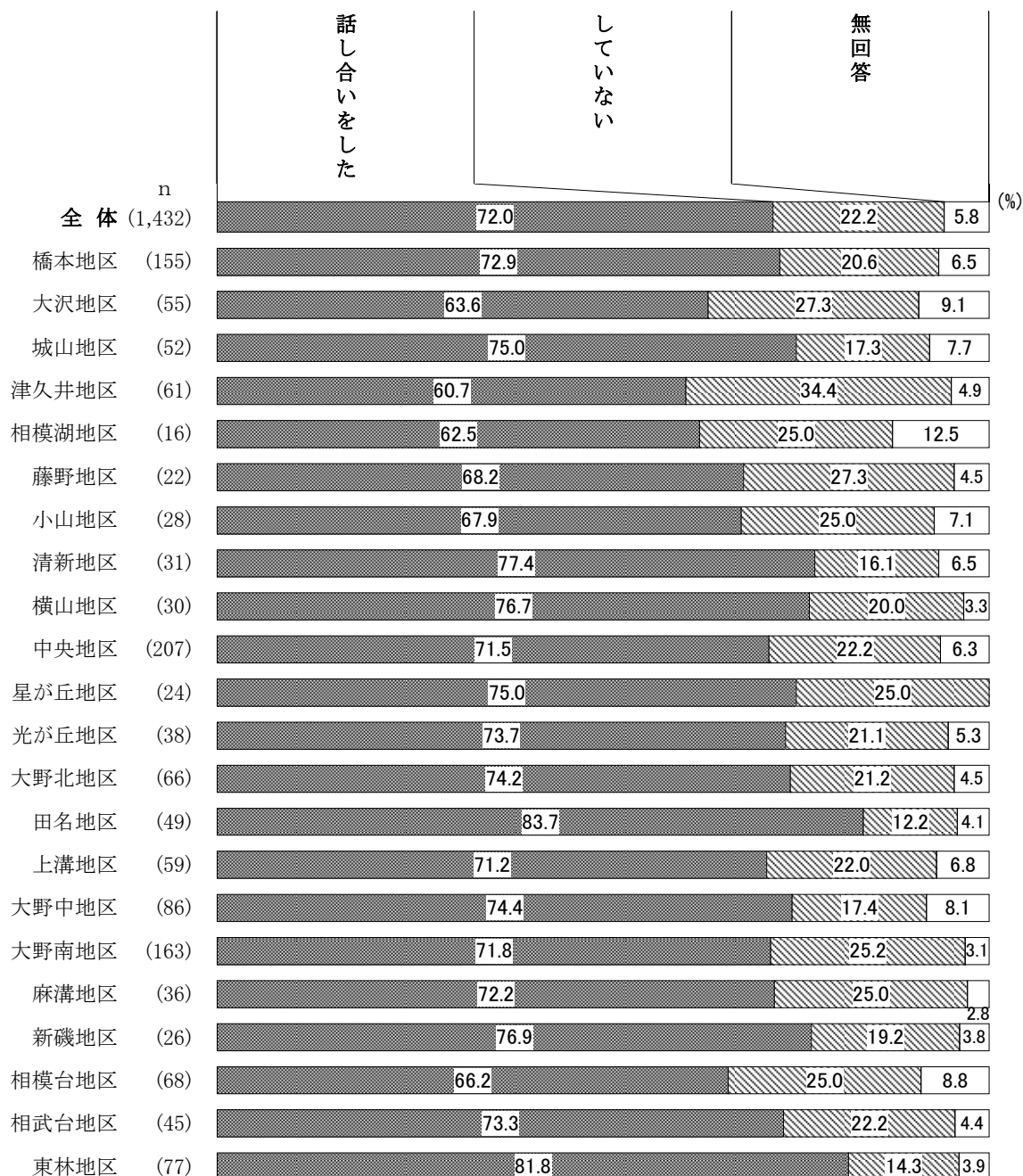
性・年代別にみると「話し合いをした」は男性では30代、50代から60代が7割を超え、高くなっている。女性では40代と50代で8割を超えている。

性別、性・年代別 家族や身近な人と災害に関しての話し合いをしたか



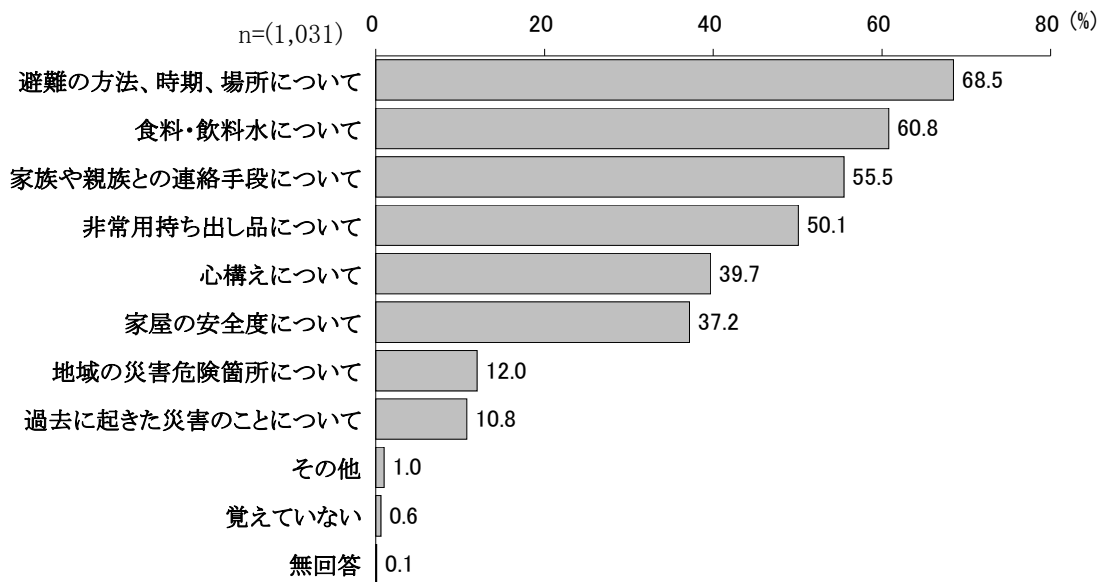
地区別にみると、「話し合いをした」は田名地区、東林地区で高く8割を超えている。一方、「していない」は津久井地区でやや高く、3割台半ばとなっている。

地区別 家族や身近な人と災害に関しての話し合いをしたか



(2) 話し合いの内容

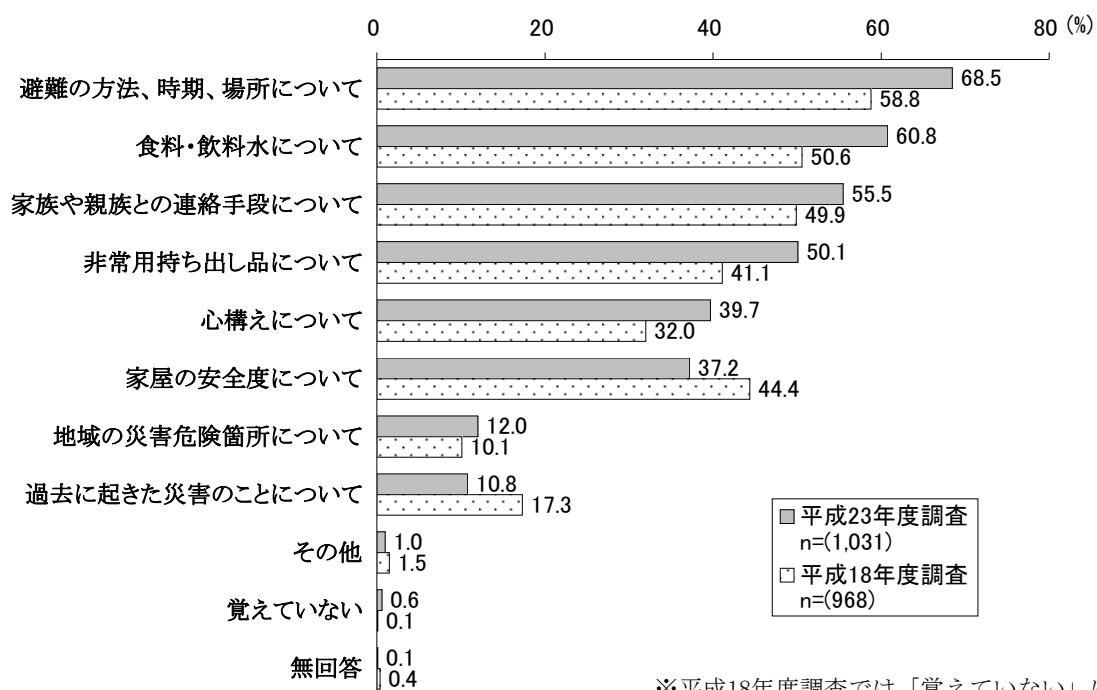
【問9-1 問9で「話し合いをした」とお答えの方にお伺いします。】
あなたが家族や身近な人と話し合いをした内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをした方に話し合いの内容をたずねたところ、「避難の方法、時期、場所について」が68.5%と最も高く、次いで「食料・飲料水について」が60.8%、「家族や親族との連絡手段について」が55.5%、「非常用持ち出し品について」が50.1%と続いている。

過去の調査と比較すると、「食料・飲料水について」、「避難の方法、時期、場所について」、「非常用持ち出し品について」で平成18年度調査から10ポイント前後の増加となっているが、「家屋の安全度について」、「過去に起きた災害のことについて」では約7ポイント減少となっている。

経年比較 話し合いの内容



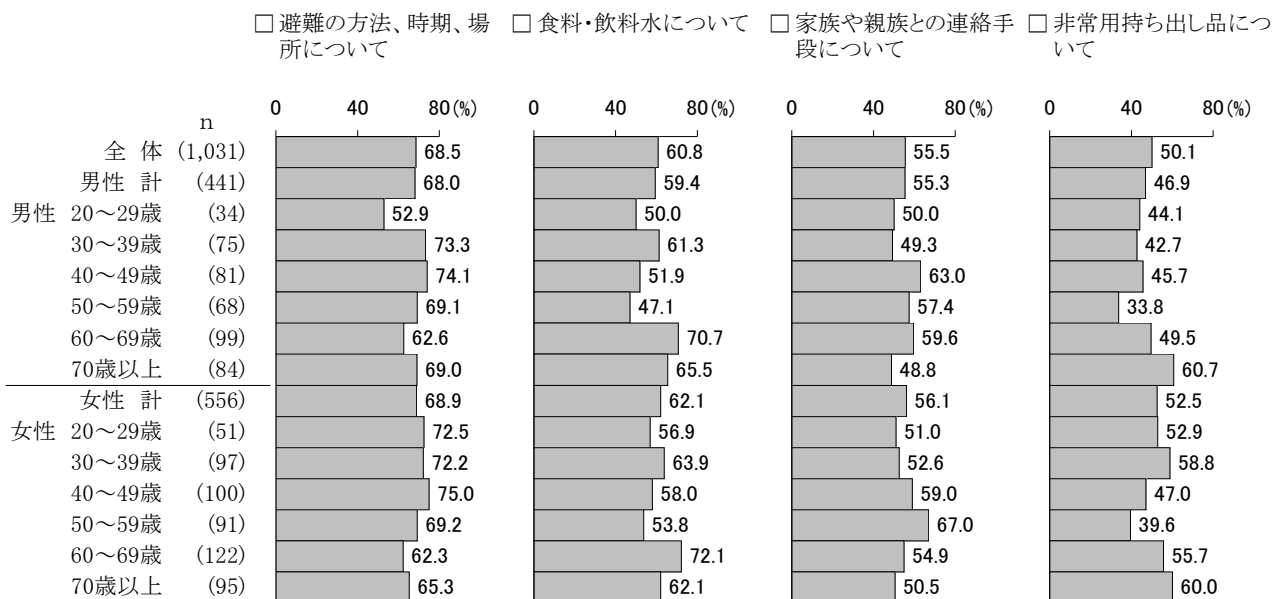
※平成18年度調査では「覚えていない」は「分からない」であった

第3章 調査結果の分析

性別にみると、「非常用持ち出し品について」は女性（52.5%）が男性（46.9%）より5.6ポイント高くなっている。

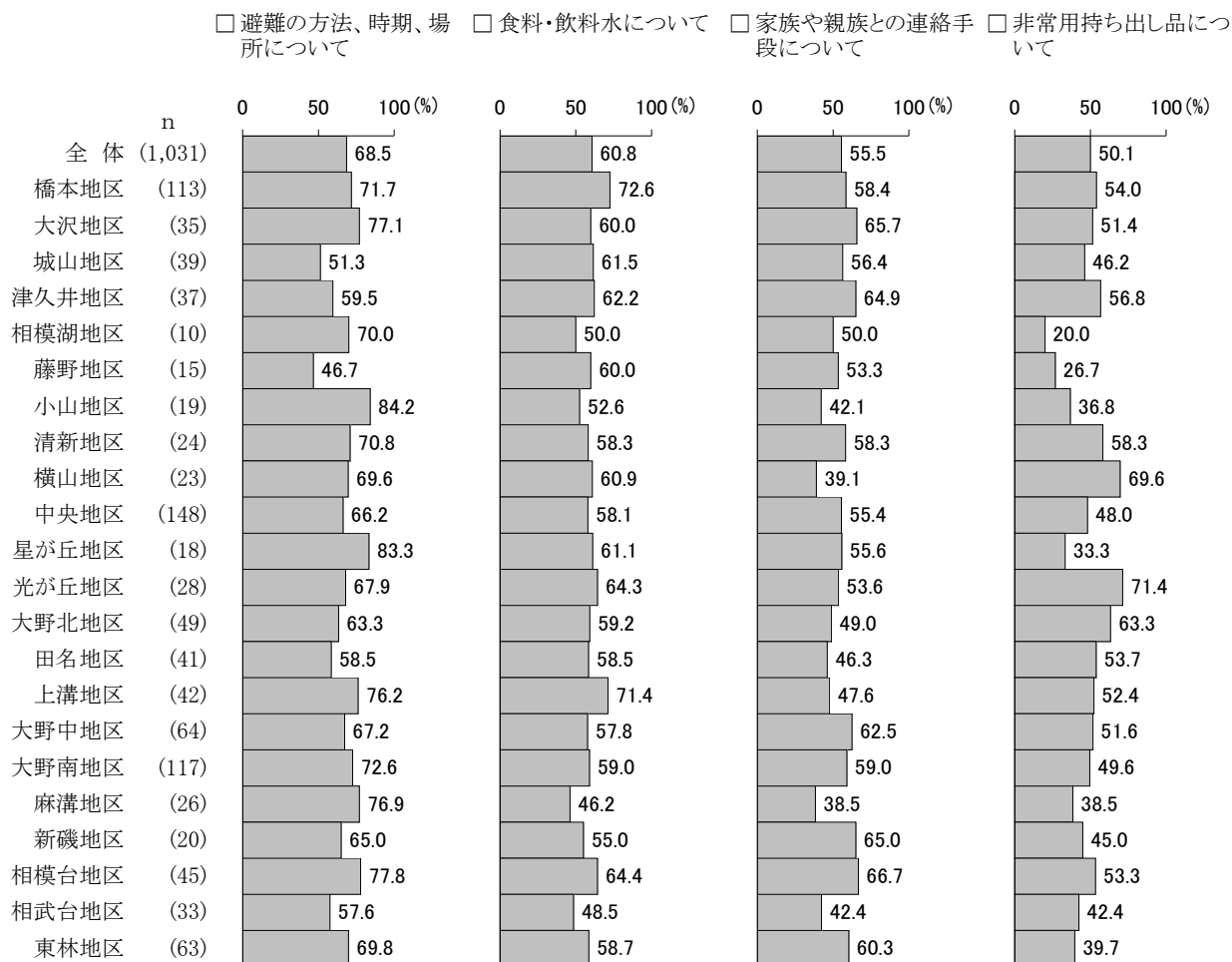
性・年代別にみると、「避難の方法、時期、場所について」は男性の30代と40代、女性の20代から40代で7割を超えている。「食料・飲料水について」は男性、女性ともに60代で最も高く、7割となっている。「家族や親戚との連絡手段について」は男性では40代、女性では50代が6割台と高くなっている。「非常用持ち出し品について」は男女ともに70歳以上で6割と高くなっている。

性別、性・年代別 話し合いの内容（上位4項目）



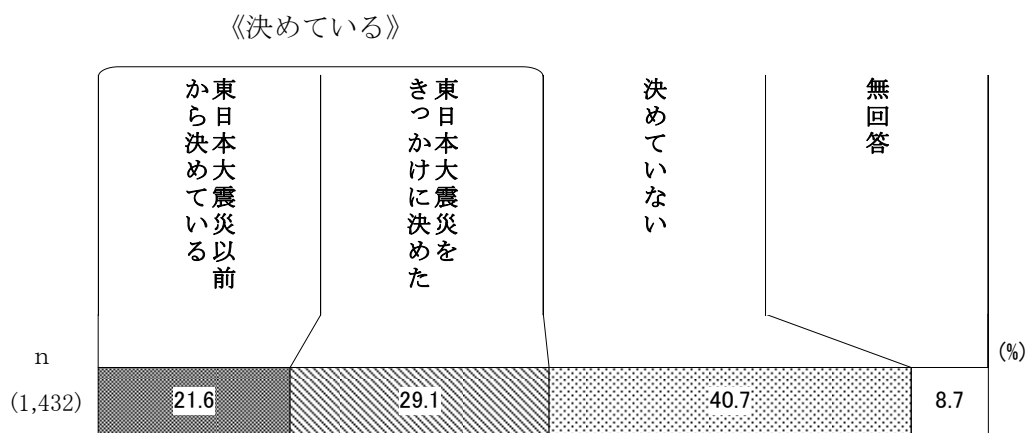
地区別にみると「避難の方法、時期、場所について」は小山地区、星が丘地区で高く8割を超えている。「食料・飲料水について」は橋本地区、上溝地区で7割となっている。

地区別 話し合いの内容（上位4項目）



(3) 家族や身近な人との連絡方法の取り決め

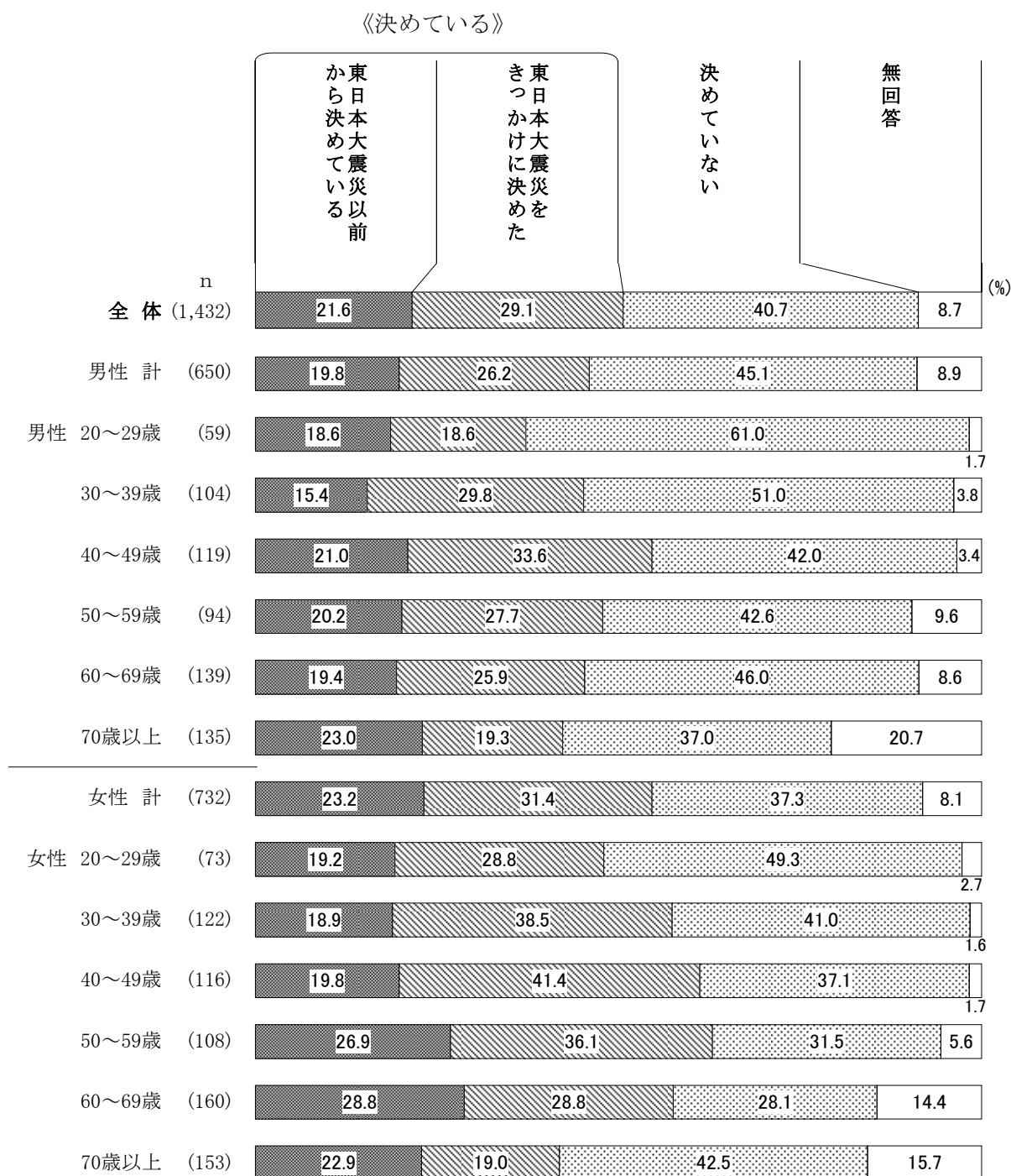
問10 地震などの災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めていますか。(○は1つ)



災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めているかたずねたところ、《決めている》が50.7%であり、一方、「決めていない」は40.7%である。

性別にみると、《決めている》は女性（54.6%）が男性（46.0%）より8.6ポイント高くなっている。
 性・年代別にみると、《決めている》は男性の40代と、女性の30代から60代で5割を超えており、特に女性の40代と50代では6割以上と高くなっている。「東日本大震災をきっかけに決めた」は女性の30代から50代で3割台後半から4割台前半と高くなっている。

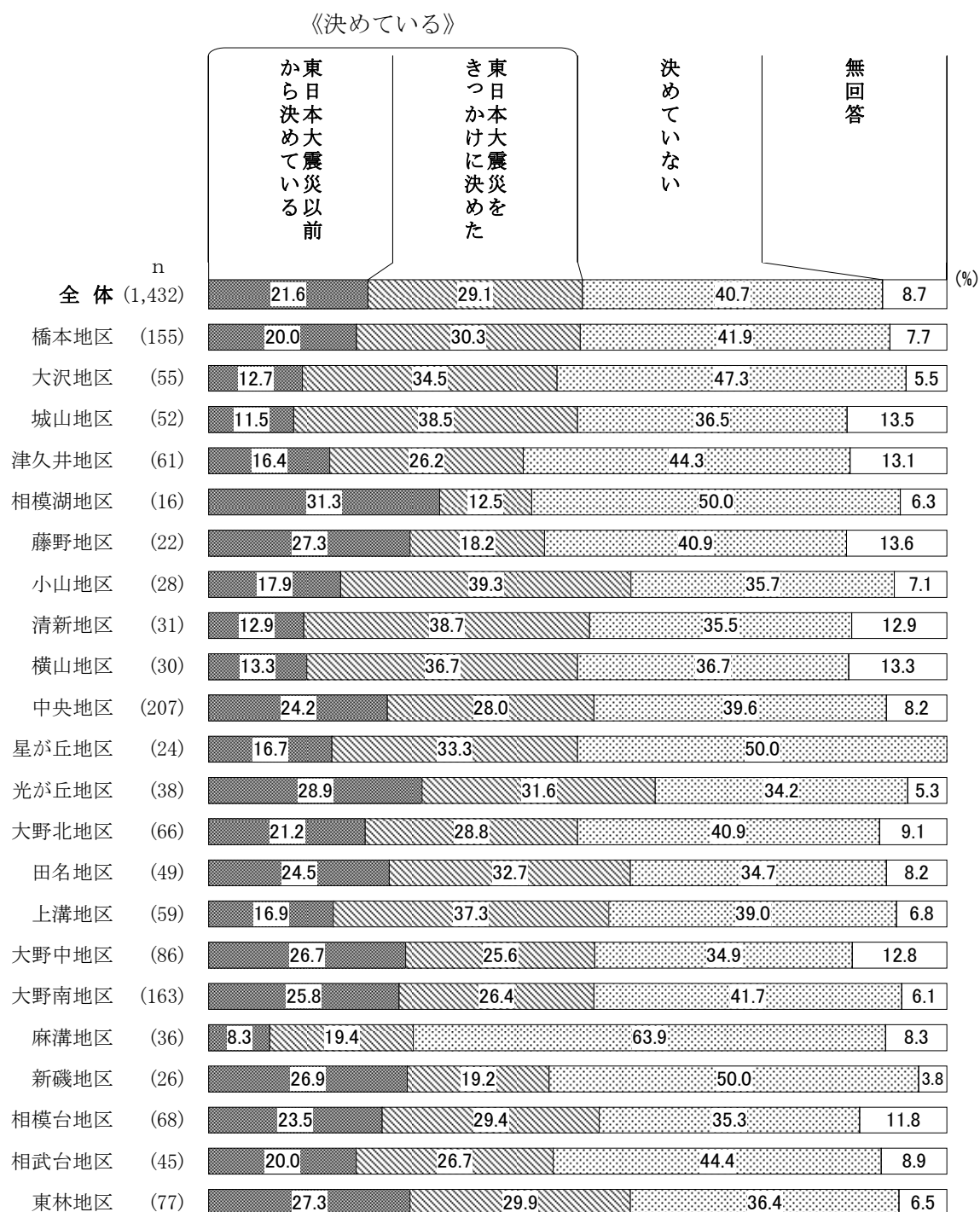
性別、性・年代別 家族や身近な人との連絡方法の取り決め



第3章 調査結果の分析

地区別にみると、《決めている》は光が丘地区で最も高く6割となっており、小山地区、田名地区、東林地区でもそれぞれ5割台後半となっている。「東日本大震災以前から決めている」は相模湖地区で3割台前半と高くなっている。「東日本大震災をきっかけに決めた」は小山地区、清新地区、城山地区、上溝地区、横山地区で3割台後半と高くなっている。

地区別 家族や身近な人との連絡方法の取り決め

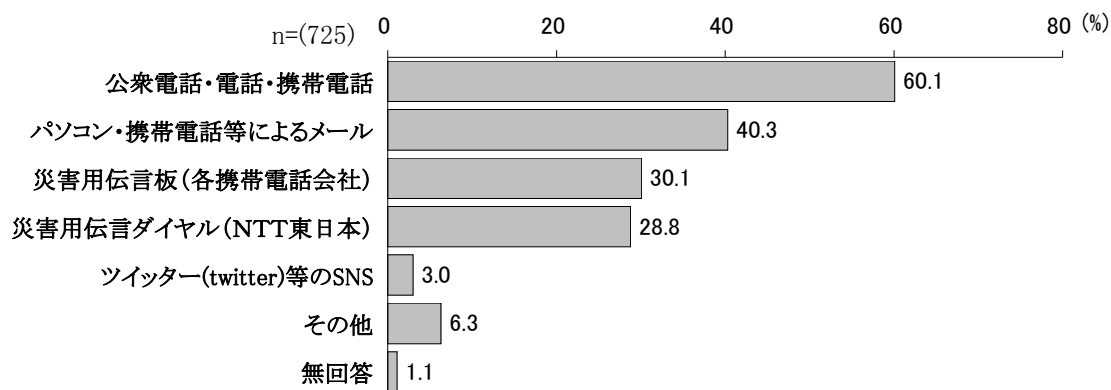


(4) 家族や身近な人との災害時の連絡方法

【問10で「東日本大震災以前から決めている」、「東日本大震災をきっかけに決めた」とお答えの方にお伺いします。】

問10-1 災害時の家族や身近な人との具体的な連絡方法はどのようなものですか。

(〇はいくつでも)

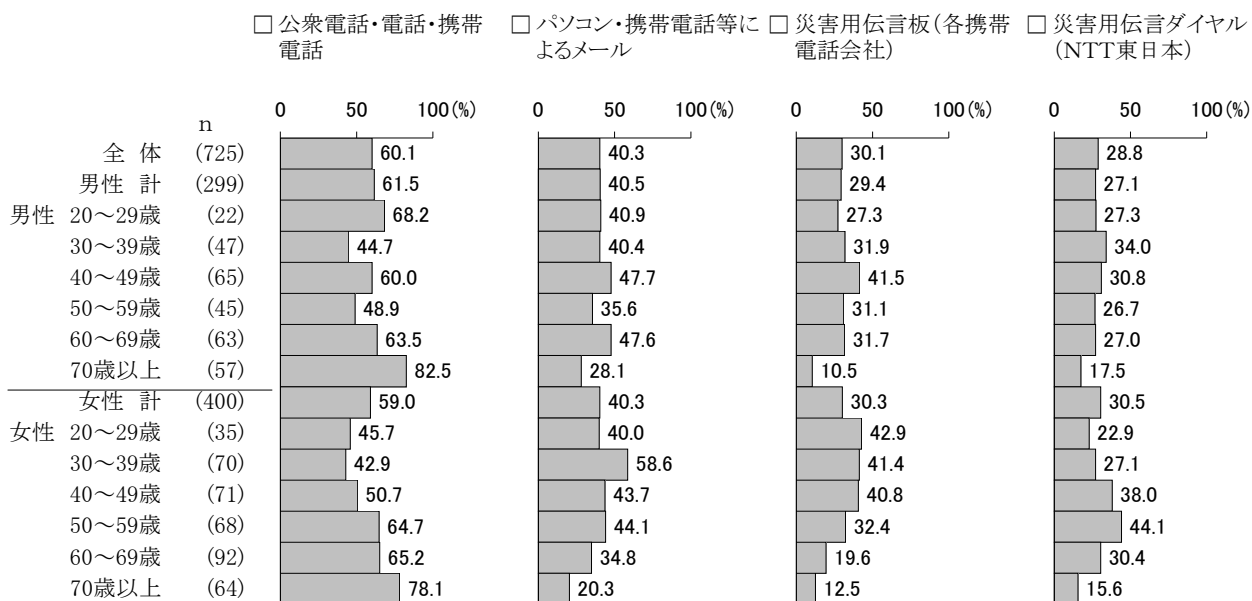


災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めていると回答された方に連絡方法をたずねたところ「公衆電話、電話、携帯電話」が60.1%と最も高く、次いで「パソコン・携帯電話等によるメール」が40.3%と続いている。

性別では大きな差はみられない。

性・年代別にみると「公衆電話・電話・携帯電話」は男性、女性ともに70歳以上が最も高くなっている。「パソコン・携帯電話等によるメール」は男性では40代、60代で4割台後半となっている。女性では30代で5割台後半となっている。

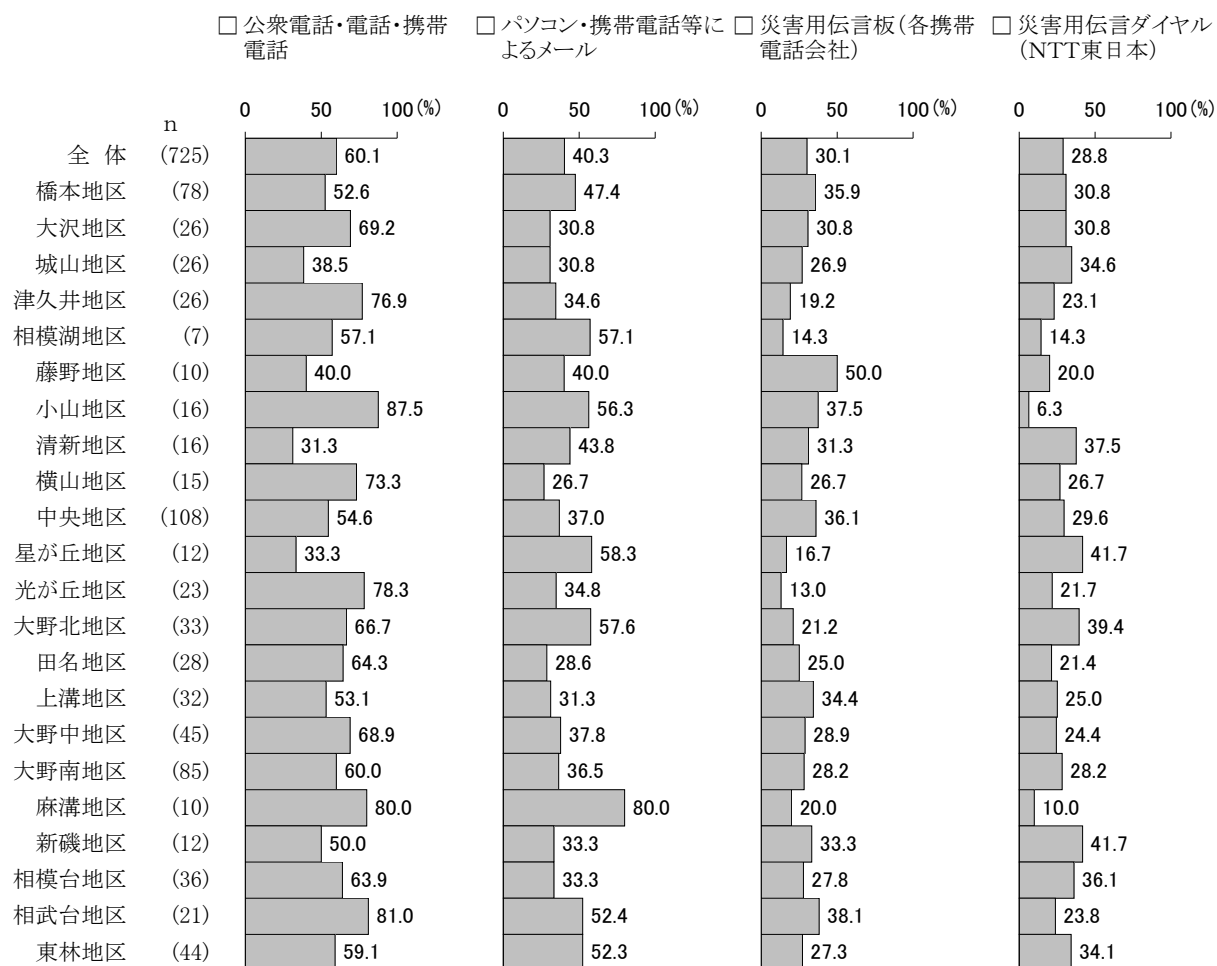
性別、性・年代別 家族や身近な人との災害時の連絡方法（上位4項目）



第3章 調査結果の分析

地区別にみると「公衆電話、電話、携帯電話」は小山地区、相武台地区、麻溝地区で高く、8割台となっている。「パソコン・携帯電話等によるメール」は麻溝地区が最も高く、8割となっている。

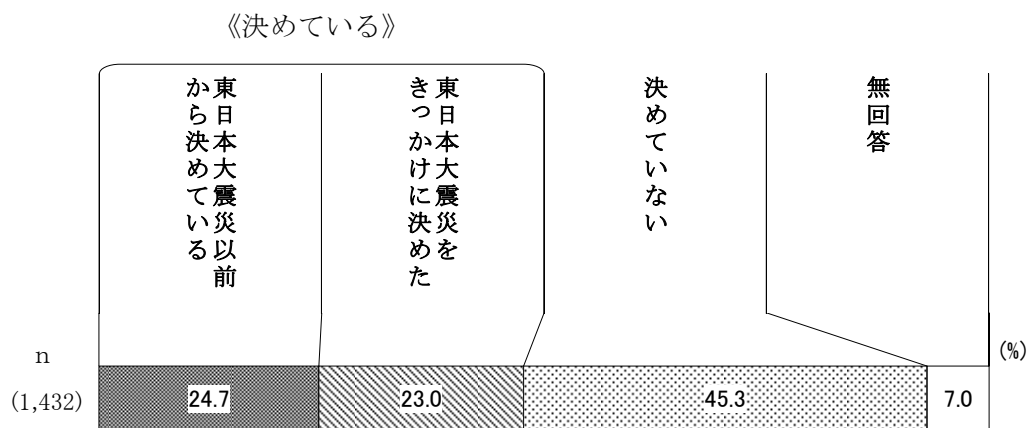
地区別 家族や身近な人との災害時の連絡方法（上位4項目）



(5) 家族や身近な人との待ち合わせ場所の取り決め

問11 地震などの災害時に家族や身近な人との待ち合わせ場所を決めていますか。

(○は1つ)

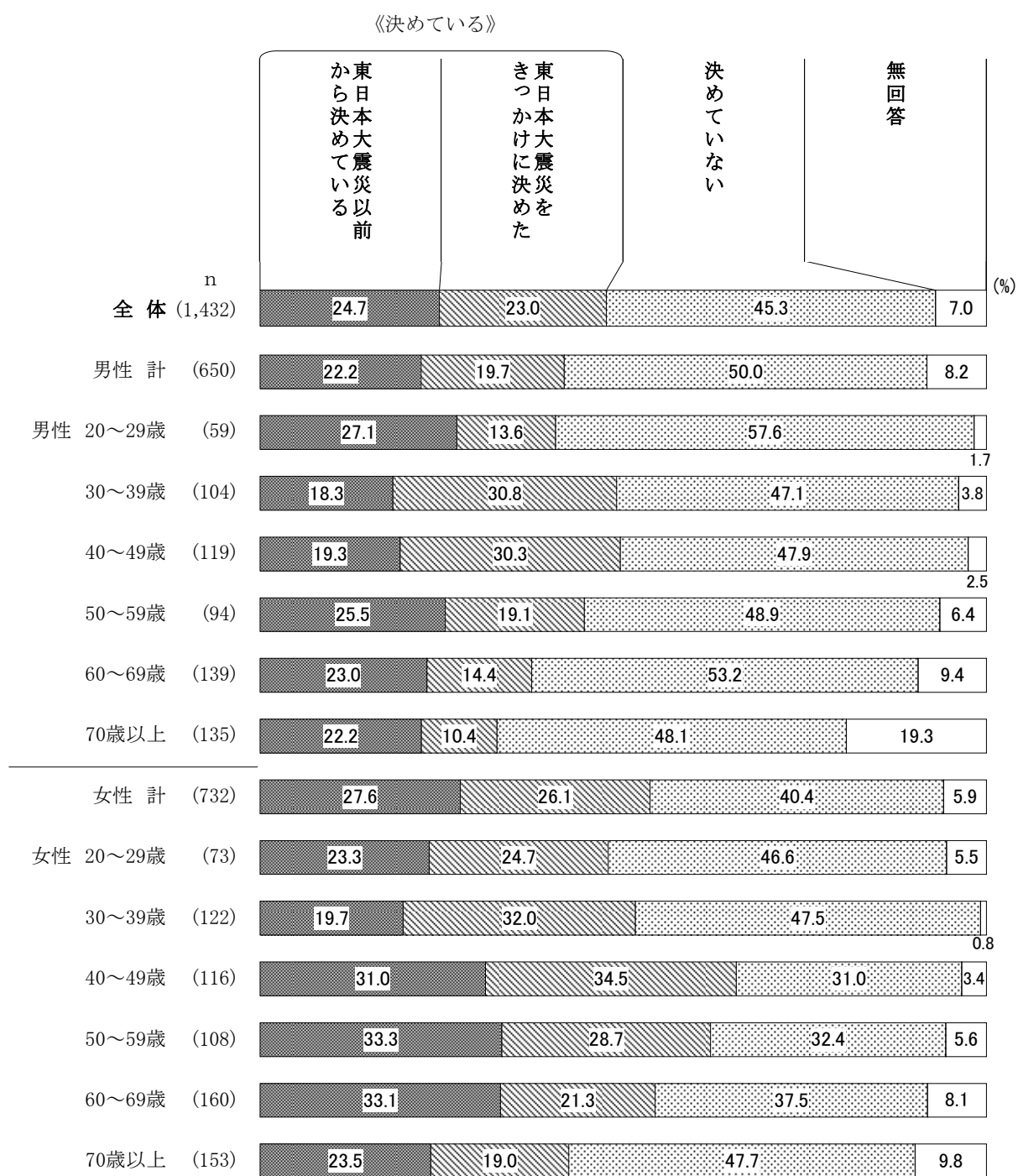


災害時に家族や身近な人との待ち合わせ場所を決めているかたずねたところ、《決めている》が47.7%であり、一方、「決めていない」は45.3%である。

第3章 調査結果の分析

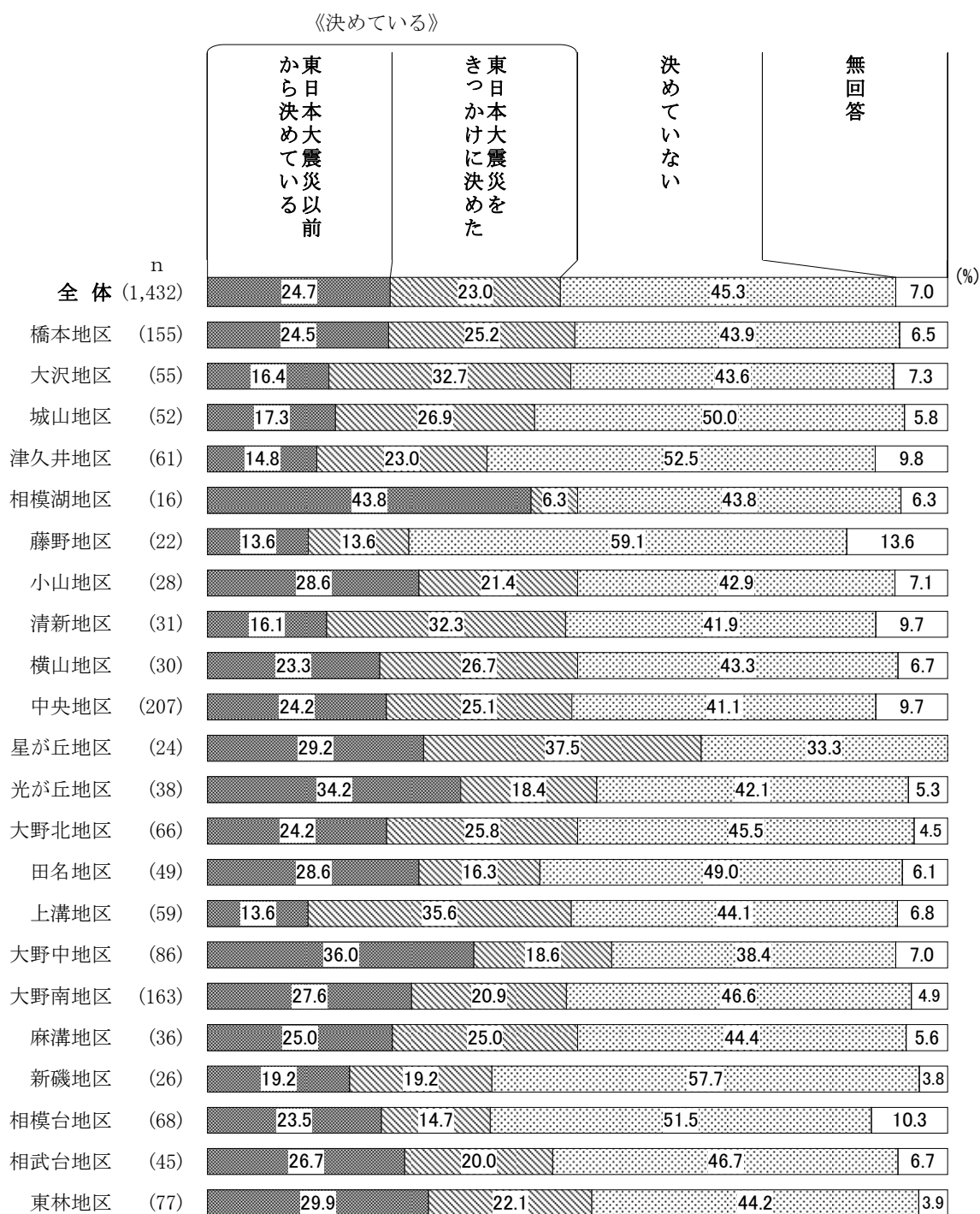
性別にみると《決めている》は女性（53.7%）が男性（41.9%）より11.8ポイント高くなっている。性・年代別にみると《決めている》は女性の30代から60代で高く5割を超えている。「東日本大震災をきっかけに決めた」は男性の30代と40代、女性では20代から40代で「東日本大震災以前から決めている」より高くなっている。

性別、性・年代別 家族や身近な人との待ち合せ場所の取り決め



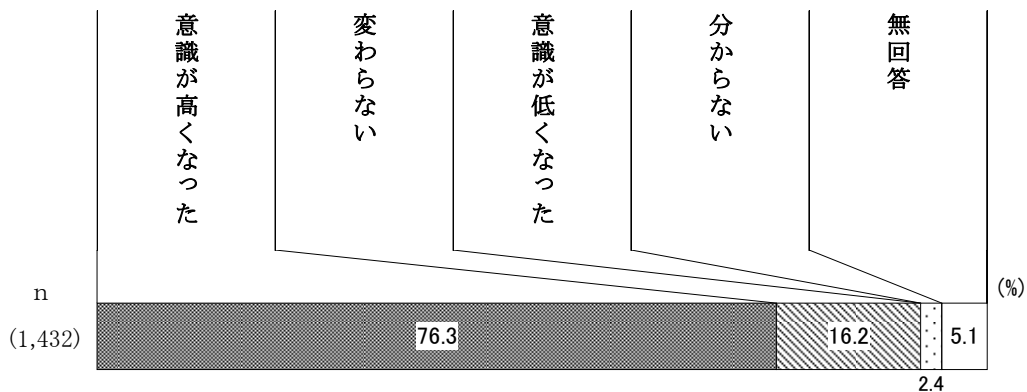
地区別にみると、「決めている」は星が丘地区、大野中地区で5割台半ばから6割台後半と高くなっている。「東日本大震災以前から決めている」は相模湖地区で4割台半ばと高くなっている。「東日本大震災をきっかけに決めた」は星が丘地区、上溝地区で3割台後半となっている。「決めていない」は藤野地区、新磯地区、津久井地区、相模台地区、城山地区で5割以上となっている。

地区別 家族や身近な人との待ち合せ場所の取り決め



(6) 震災前と比べた防災への意識

問12 東日本大震災以前に比べ、防災に対する意識はどのように変化しましたか。
 (〇は1つ)

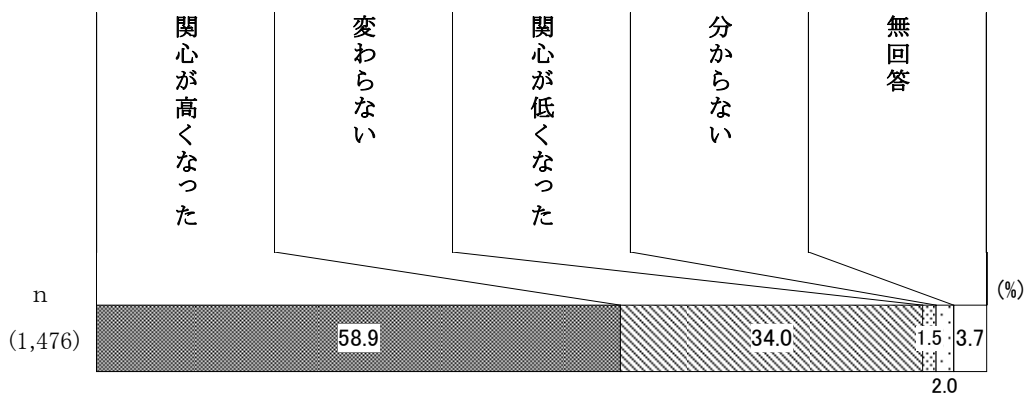


東日本大震災以前と比べ、防災に対する意識はどのように変化したかたずねたところ、「意識が高くなった」は76.3%と高く、次いで「変わらない」は16.2%となっている。

参考

平成18年度の調査は以前と比べた「大地震への関心」の変化をたずねたもので、今回の東日本大震災以前と比べた「防災に対する意識」の変化とは選択肢が異なる。また、直接的な比較とはならないため、参考として掲載する。

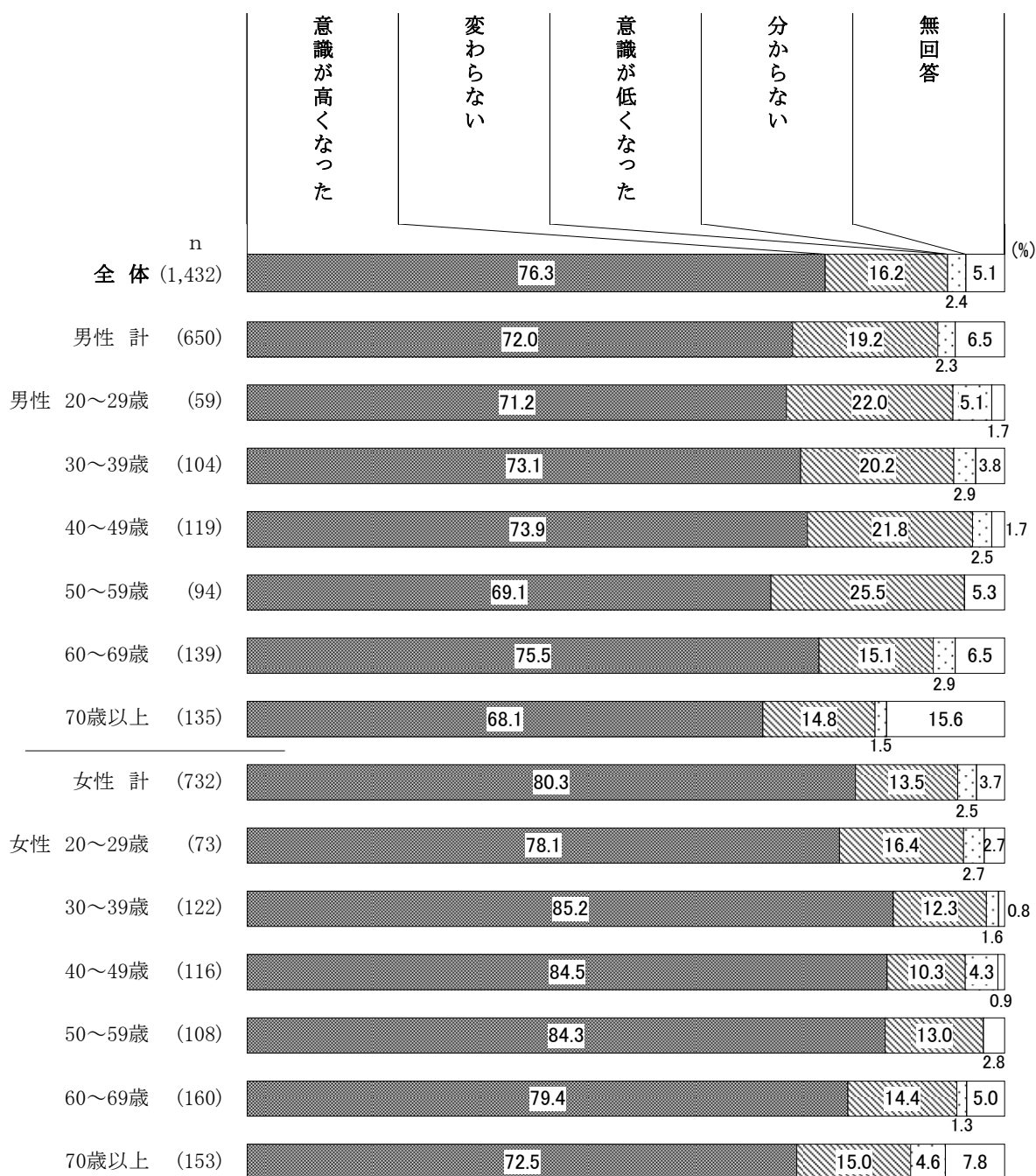
震災前と比べた大地震への関心（平成18年度）



性別にみると、「意識が高くなった」は女性（80.3%）が男性（72.0%）より8.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると「意識が高くなった」は女性の30代から50代で8割台半ばと高くなっている。

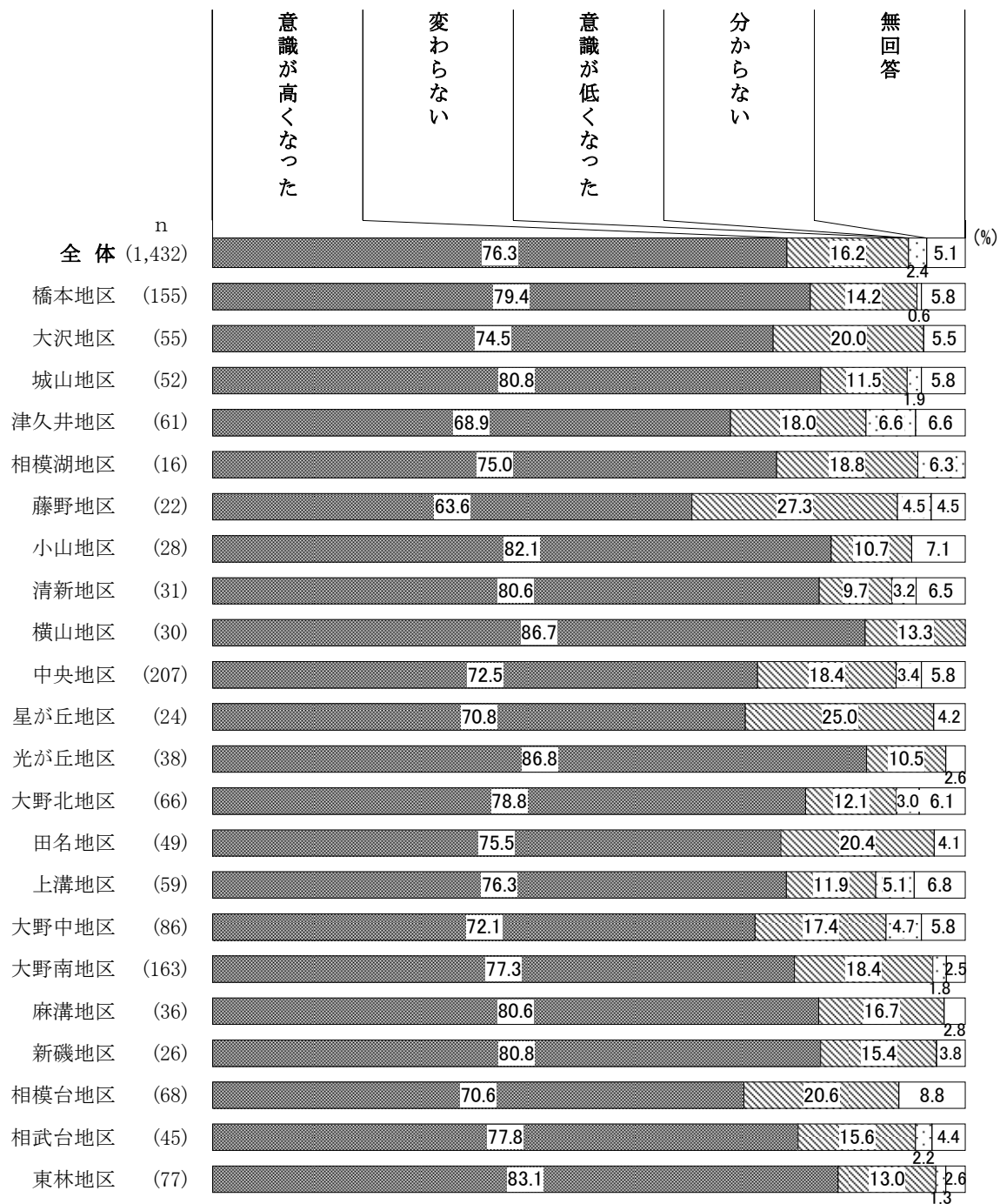
性別、性・年代別 震災前と比べた防災への意識



第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「意識が高くなった」は光が丘地区、横山地区で8割台半ばと高くなっている。「変わらない」は藤野地区、星が丘地区で2割台半ばから後半となっている。

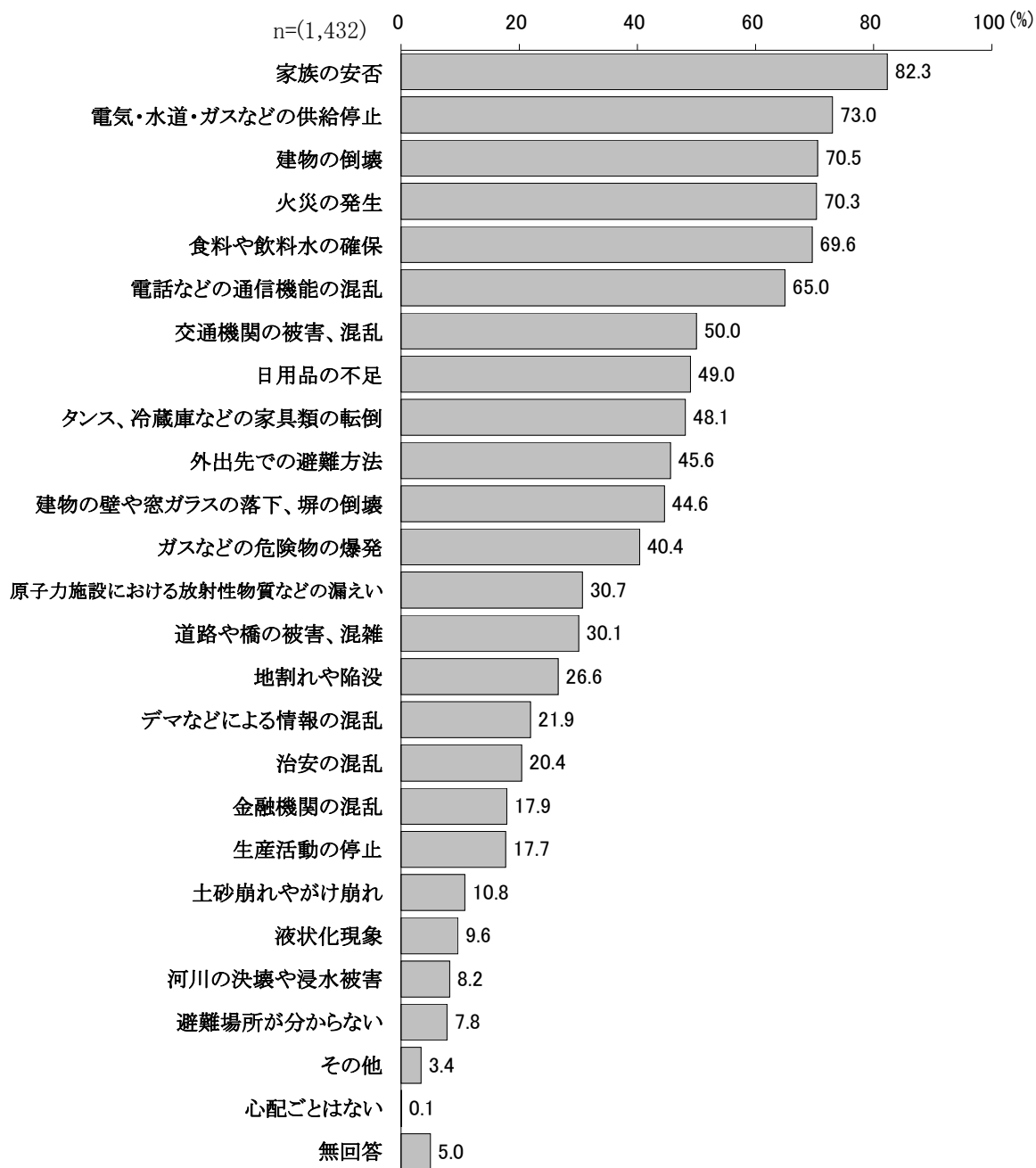
地区別 震災前と比べた防災への意識



(7) 大きな地震が起こった際の心配事

問13 大きな地震が起こった場合、あなたはどのようなことが心配ですか。

(○はいくつでも)

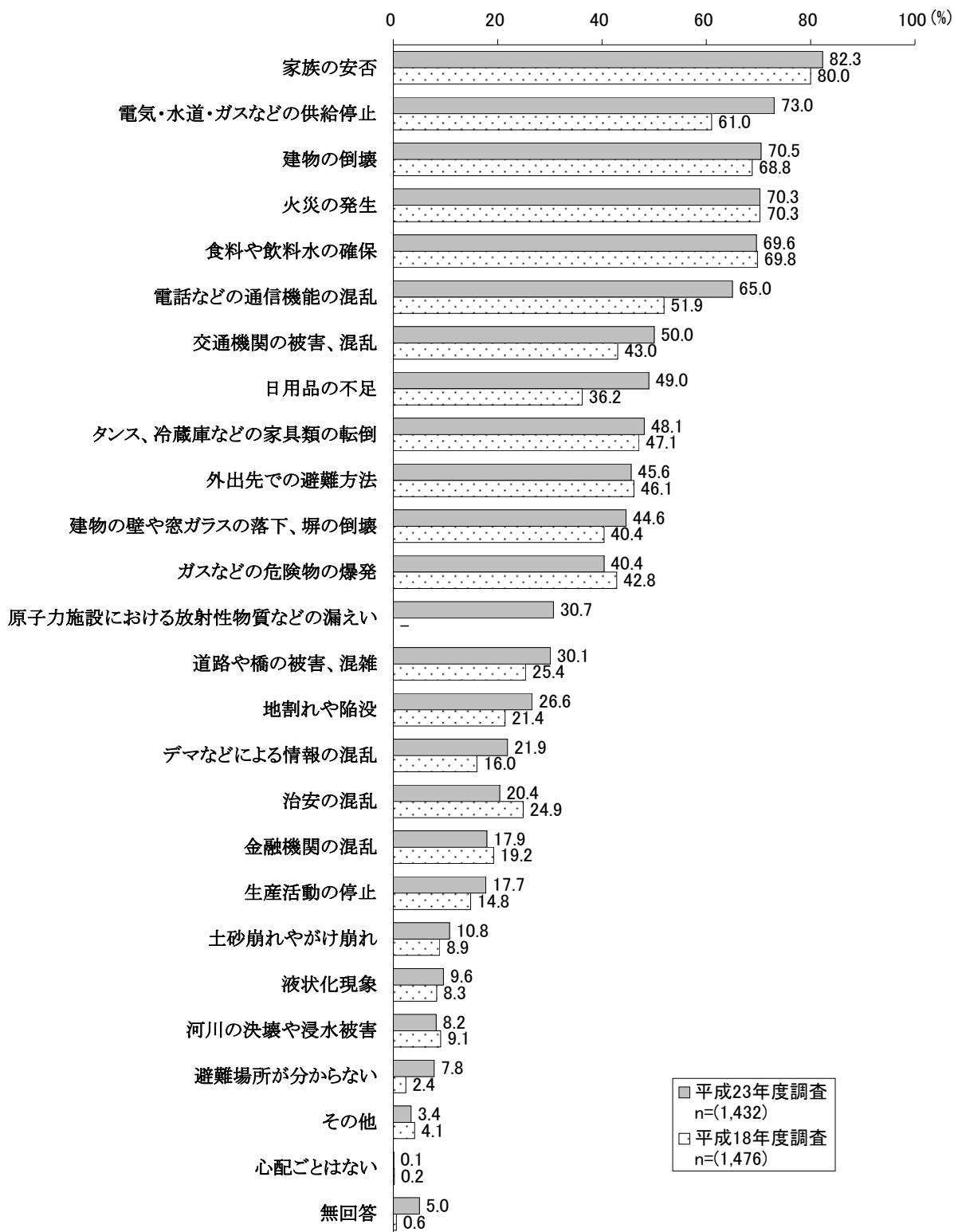


大きな地震が起こった場合どのようなことが心配かたずねたところ「家族の安否」が82.3%で最も高く、次いで「電気・水道・ガスなどの供給停止」が73.0%、「建物の倒壊」が70.5%、「火災の発生」が70.3%、「食料や飲料水の確保」が69.6%と続いている。

第3章 調査結果の分析

過去の調査と比較すると「家族の安否」、「建物の倒壊」、「火災の発生」、「食料や飲料水の確保」は平成18年度調査と同様に高くなっているが、「電話などの通信機能の混乱」、「日用品の不足」、「電気・水道・ガスなどの供給停止」は平成18年度調査から10ポイント以上の増加となっている。

経年比較 大きな地震が起こった際の心配事

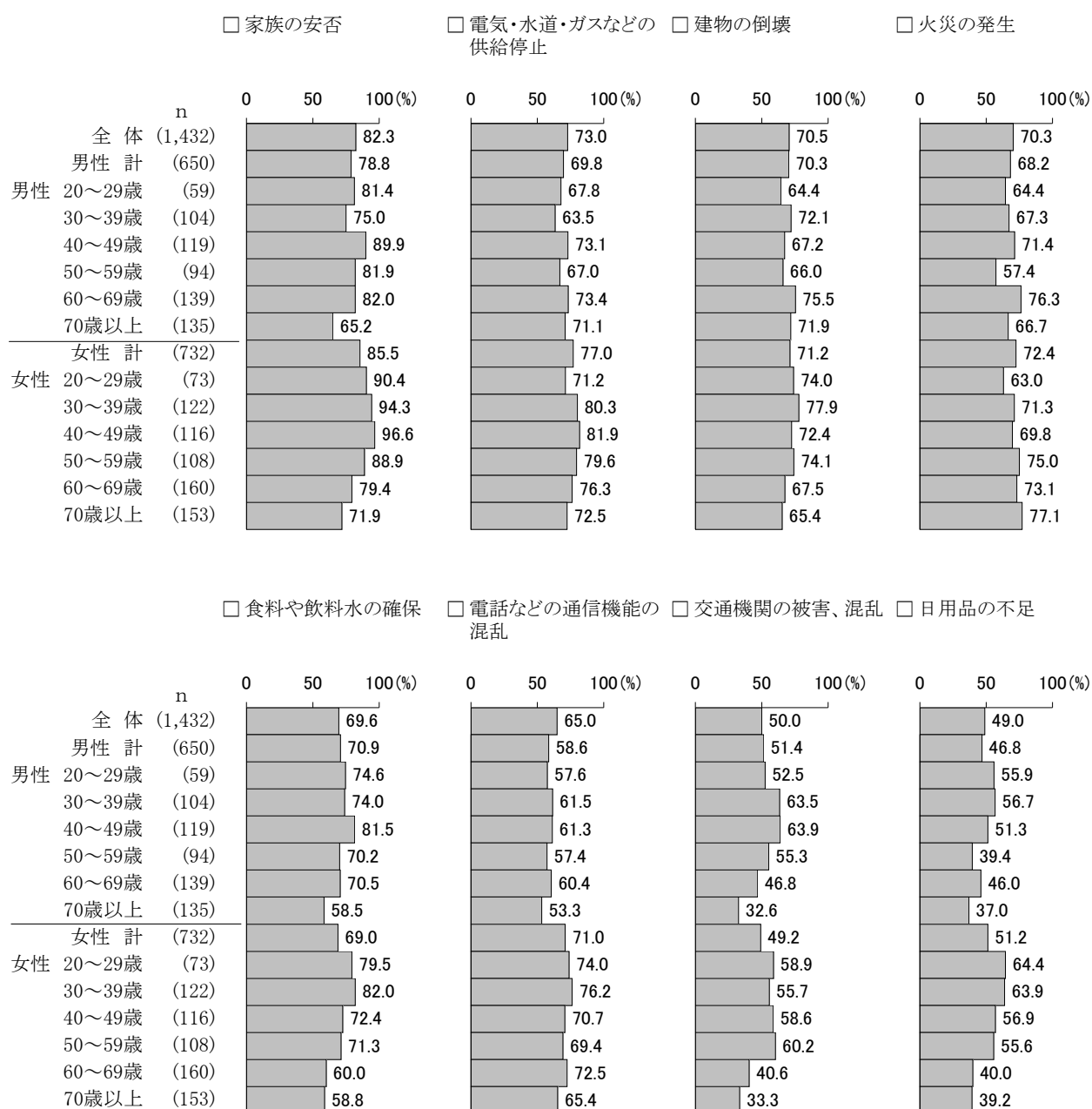


※平成18年度の調査では、「避難場所が分からない」は「近くに避難場所がないこと」であった
 ※「原子力施設における放射性物質などの漏えい」は今回調査から設定した選択肢である。

性別でみると「家族の安否」は女性（85.5%）が男性（78.8%）より6.7ポイント、「電気・水道・ガスなどの供給停止」では女性（77.0%）が男性（69.8%）より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると「家族の安否」は女性の20代から40代で9割台、男性では40代で約9割と高くなっている。

性別、性・年代別 大きな地震が起こった際の心配事（上位8項目）

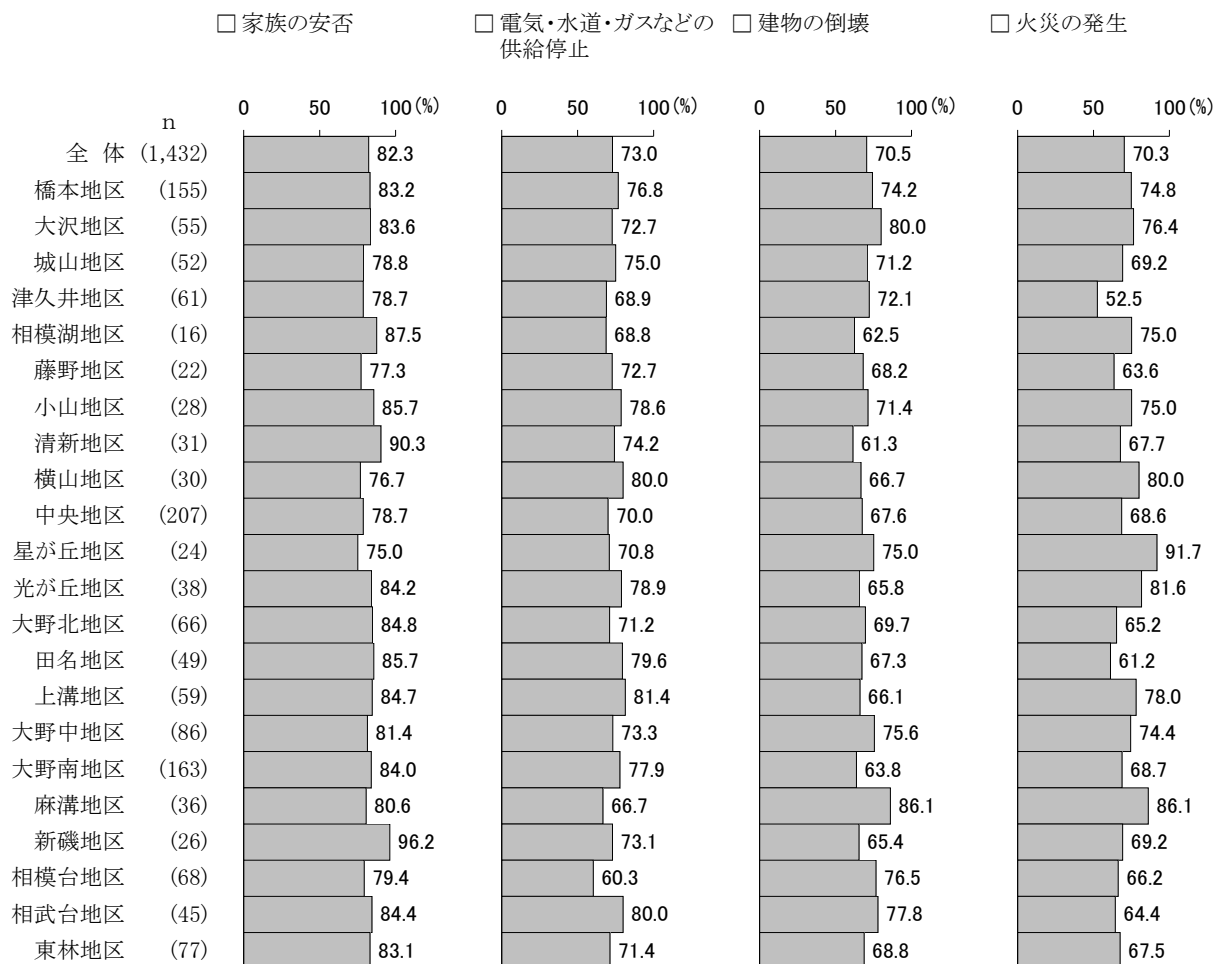


第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「家族の安否」は新磯地区、清新地区で9割台と高くなっている。「電気・水道・ガスなどの供給停止」は上溝地区、相武台地区、横山地区で8割台前半と高くなっており、一方、相模台地区で比較的lowく6割となっている。「建物の倒壊」は麻溝地区、大沢地区で8割台となっている。

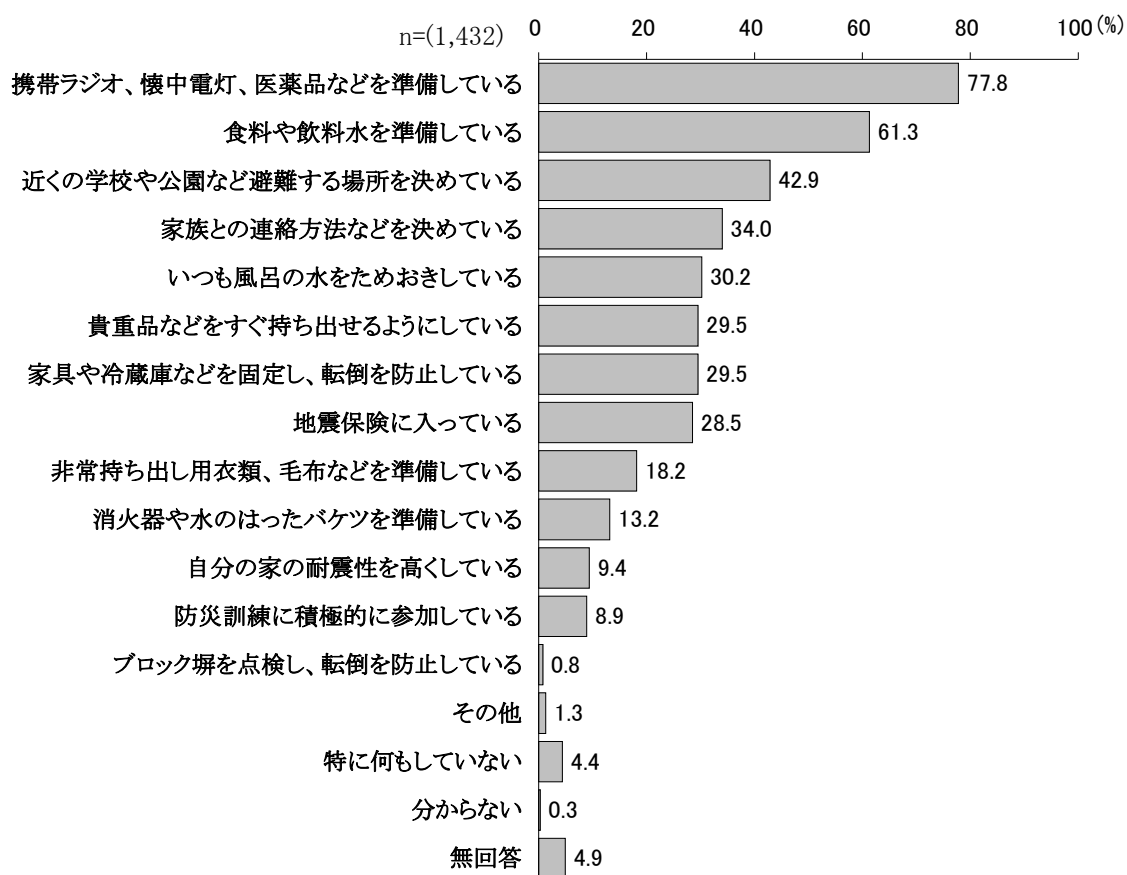
地区別 大きな地震が起こった際の心配事（上位4項目）

※地区別はデータ量が多くなるため、上位4項目に限る



(8) 自宅での地震対策

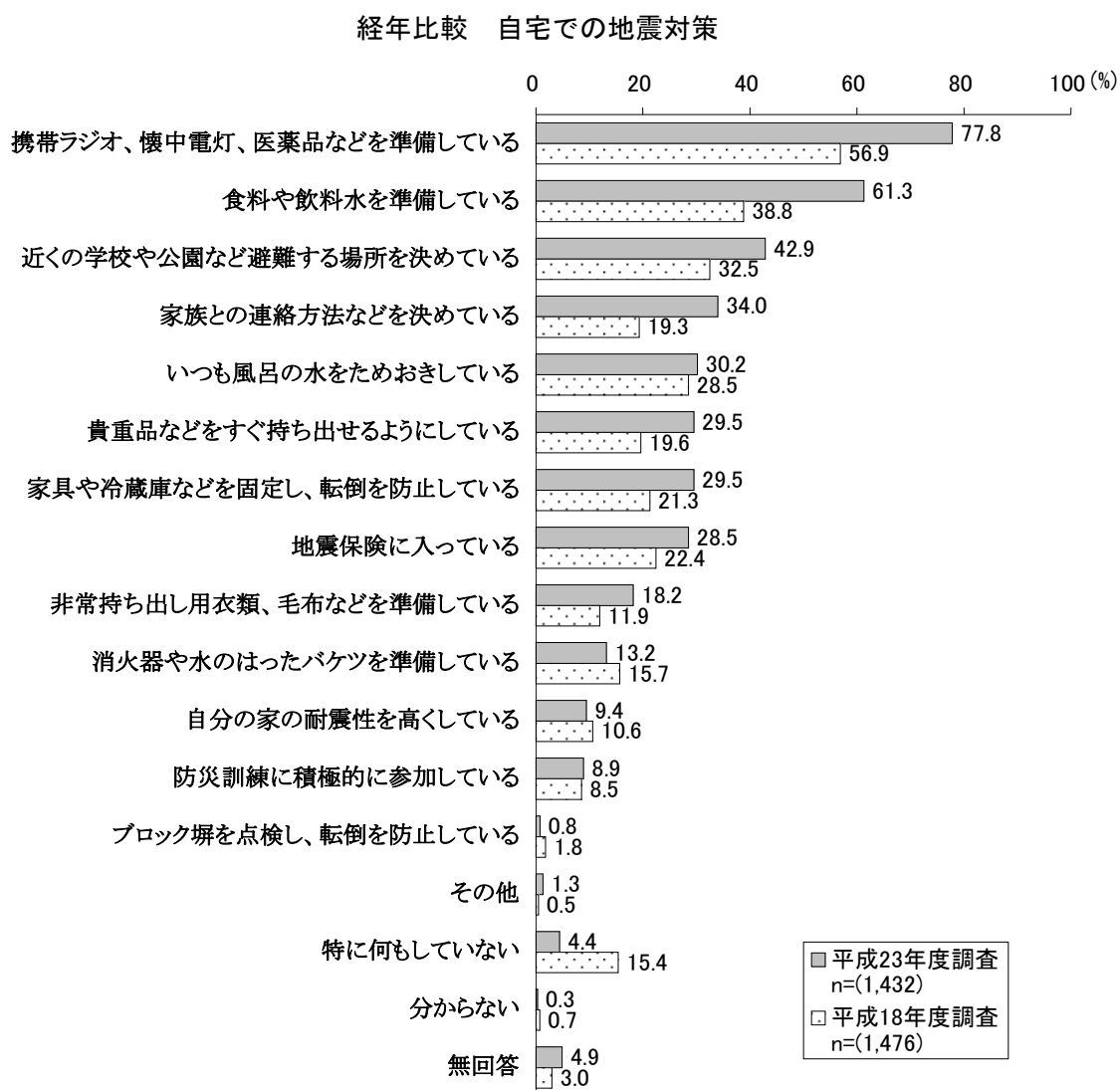
問14 あなたの家では、地震に備えてどのような対策を行っていますか。(〇はいくつでも)



地震に備えてどのような対策を行っているのかたずねたところ、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が77.8%と最も高く、次いで「食料や飲料水を準備している」が61.3%と続いている。

第3章 調査結果の分析

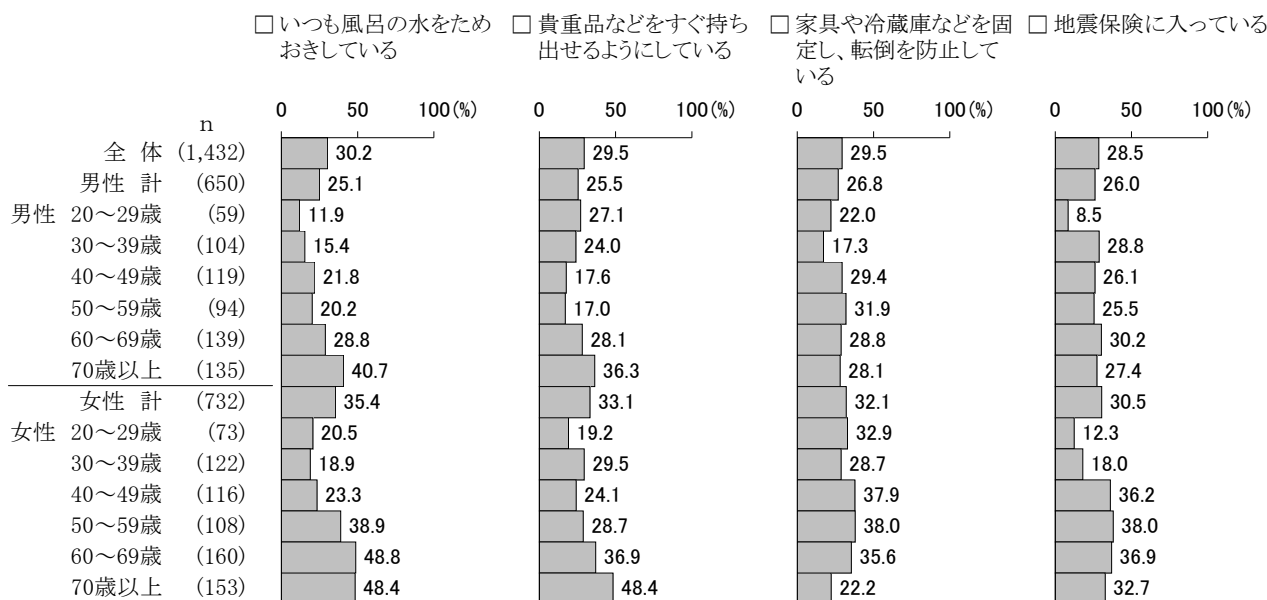
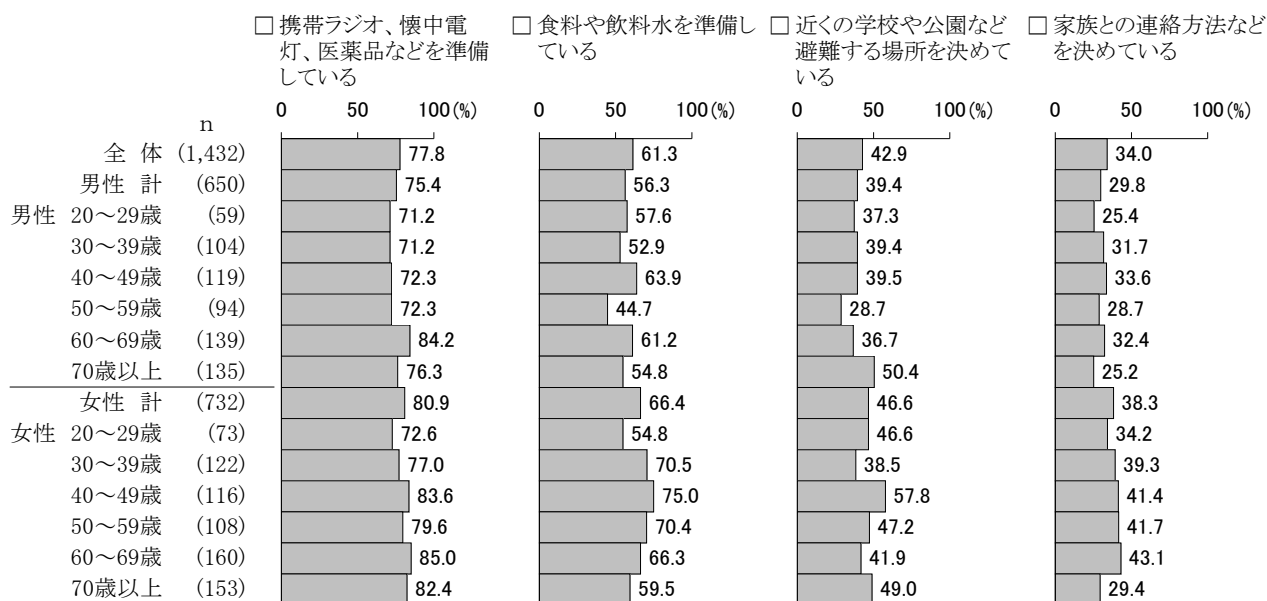
過去の調査と比較すると、東日本大震災の影響を受けてか多くの項目で増加がみられ、特に「食料や飲料水を準備している」と「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」の2項目が20ポイント以上の増加となっており、「家族との連絡方法などを決めている」、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」でも10ポイント以上の増加となっている。また、平成18年度調査では「特に何もしていない」が15.4%であったが、今回の調査では11.0ポイント減少し4.4%となっており、各家庭で地震に対する備えが進んだことがうかがえる。



性別にみると、いずれの選択肢でも女性が男性より高くなっている。

性・年代別にみると、「食料や飲料水を準備している」は女性の30代から50代で7割を超えて高くなっている。「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」は女性の40代、男性の70歳以上で5割を超えている。

性別、性・年代別 自宅での地震対策（上位8項目）

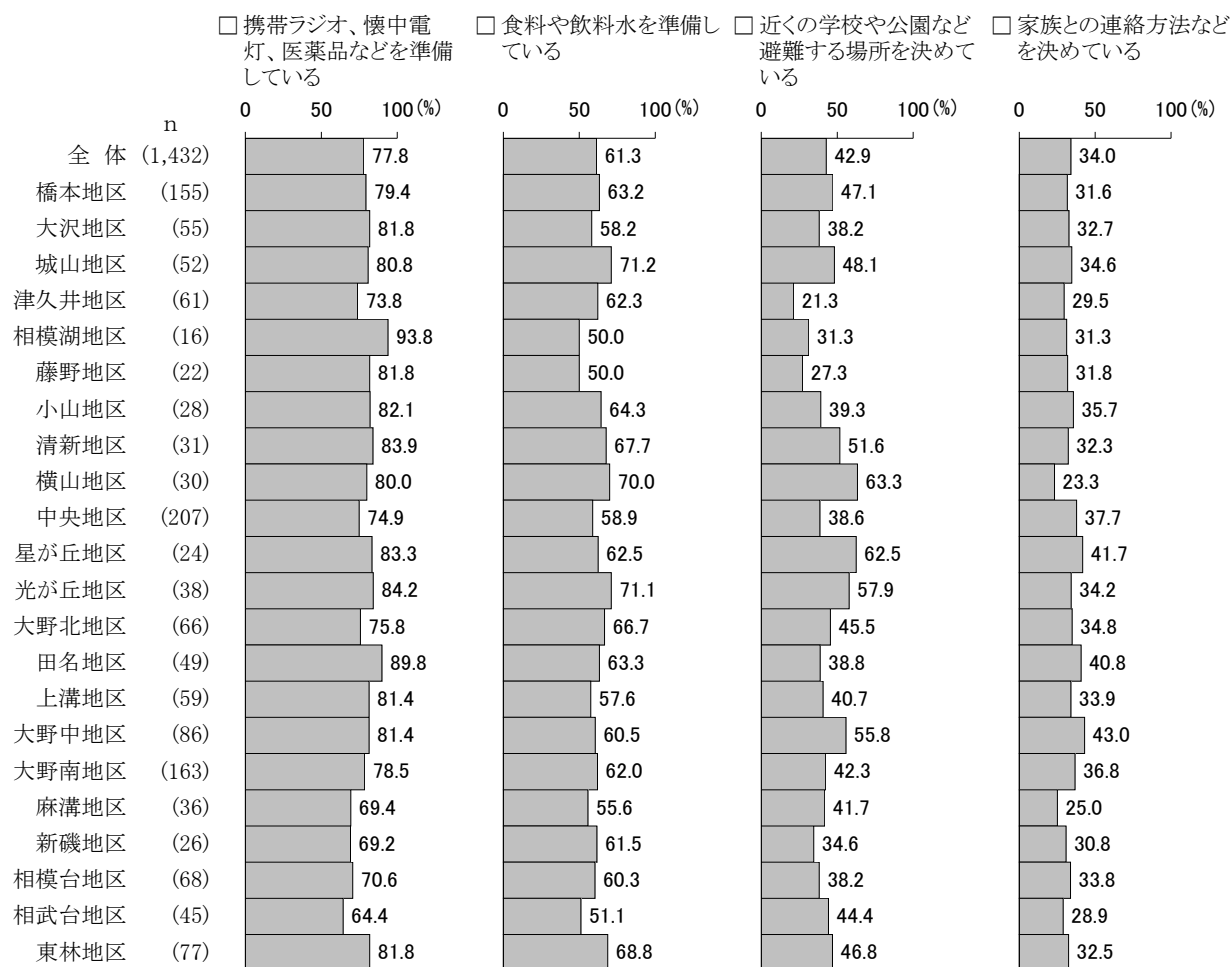


第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」は相模湖地区が9割を超えて最も高くなっており、次いで田名地区が8割台後半となっている。「食料や飲料水を準備している」は城山地区、光が丘地区、横山地区で7割以上となっている。

地区別 自宅での地震対策（上位4項目）

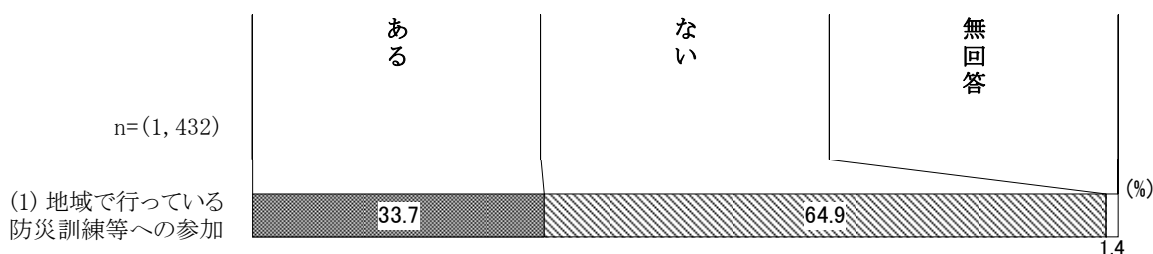
※地区別はデータ量が多くなるため、上位4項目に限る



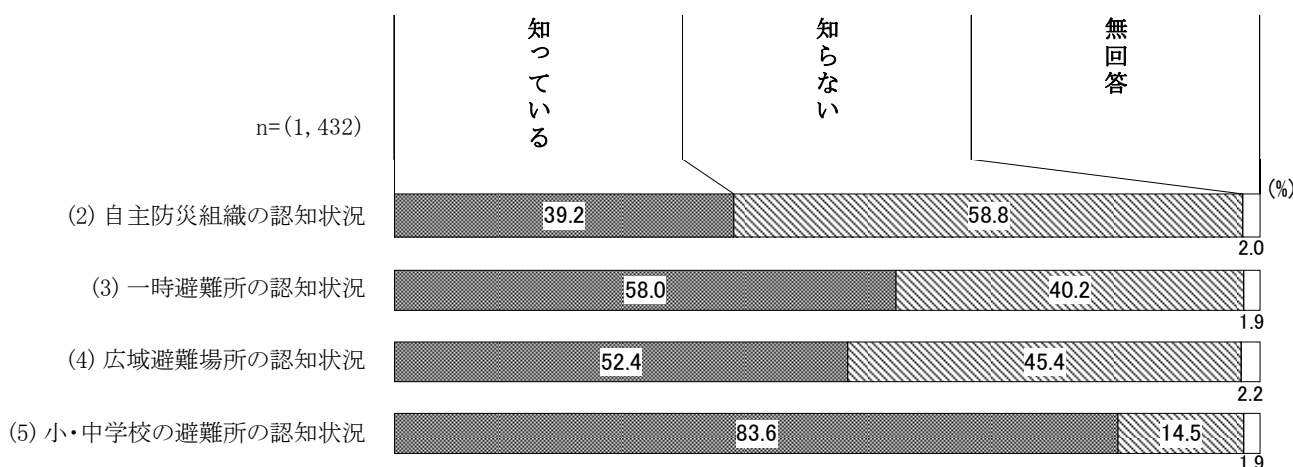
(9) 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

問15 日ごろ地域が行っている防災活動への参加状況や、災害時に避難する場所などについてお伺いします。(1)から(5)までの項目にそれぞれお答えください。

- (1) 地域で行っている防災訓練や研修会に参加したことがありますか。(○は1つ)
- (2) 地域に自主防災組織が結成されているのを知っていますか。(○は1つ)
- (3) 地震により火災や建物の倒壊等が発生した場合、一時的に様子を見るための場所として、地域の自治会が選定している一時避難場所を知っていますか。(○は1つ)
- (4) 地震により同時に多くの火災が発生し燃え広がった場合、火煙やふく射熱から身を守る場所として、市が指定している広域避難場所を知っていますか。(○は1つ)
- (5) 災害発生時、被災した人を受け入れるために小・中学校などが避難所となっているのを知っていますか。(○は1つ)



地域で行っている防災訓練や研修会に参加したことがあるかたずねたところ、「ない」が64.9%で高く、一方、「ある」は33.7%となっている。

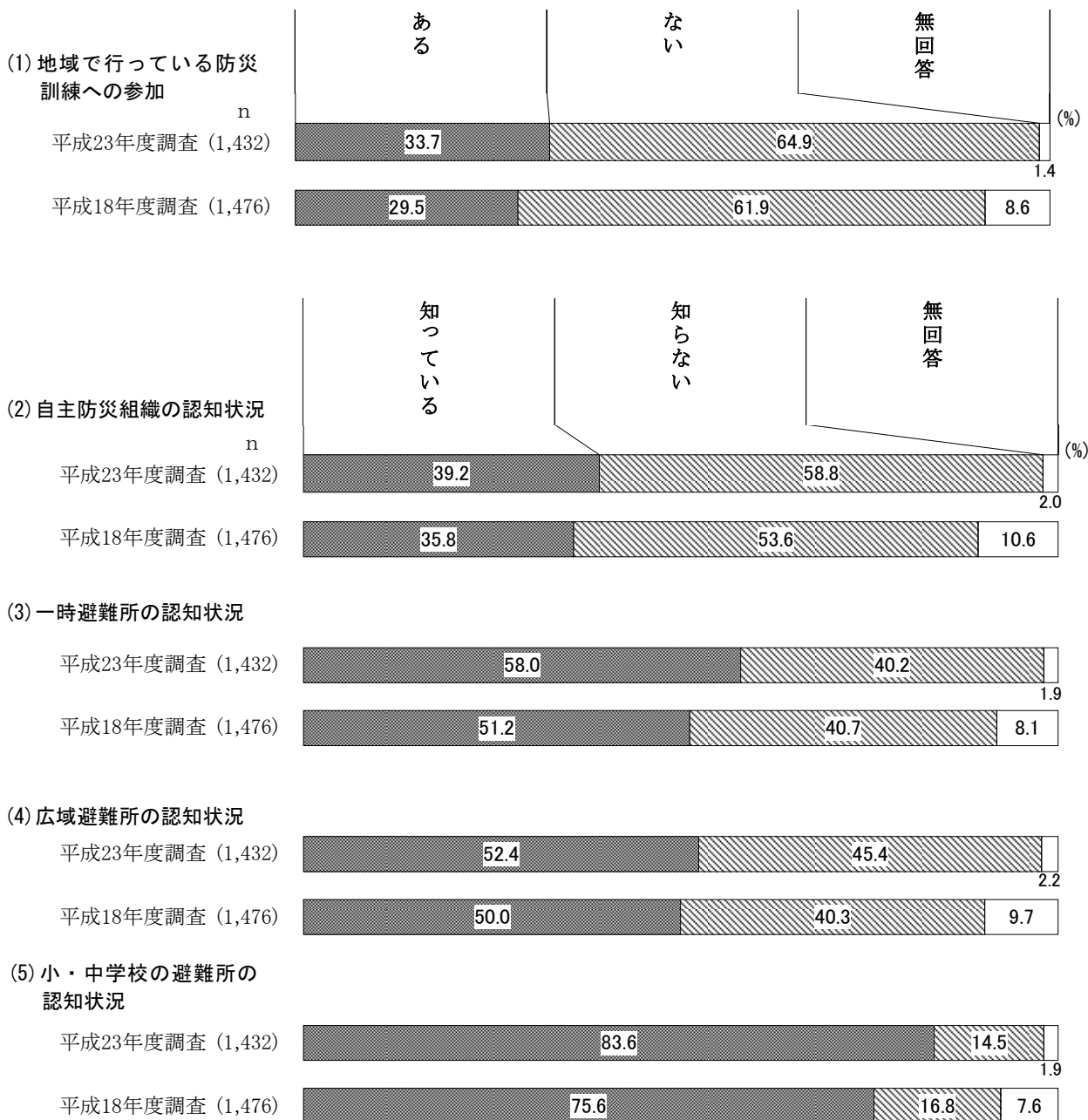


自主防災組織と各避難先を知っているかたずねたところ、自主防災組織は「知らない」が58.8%と高くなっている。一時避難所は「知っている」が58.0%と高く、広域避難場所も「知っている」が52.4%と高く、小・中学校の避難所も「知っている」が83.6%と高くなっている。

第3章 調査結果の分析

過去の調査と比較して、防災訓練への参加状況で「ある」が4.2ポイント増加している。一時避難所の認知状況で「知っている（はい）」（58.0%）が6.8ポイント増加、小・中学校の避難所の認知状況で「知っている（はい）」（83.6%）が8.0ポイント増加している。一方、自主防災組織の認知状況や広域避難所の認知状況は「知っている（はい）」の増加もややみられるが、「知らない（いいえ）」も5ポイント程度の増加となって「無回答」が減少している。

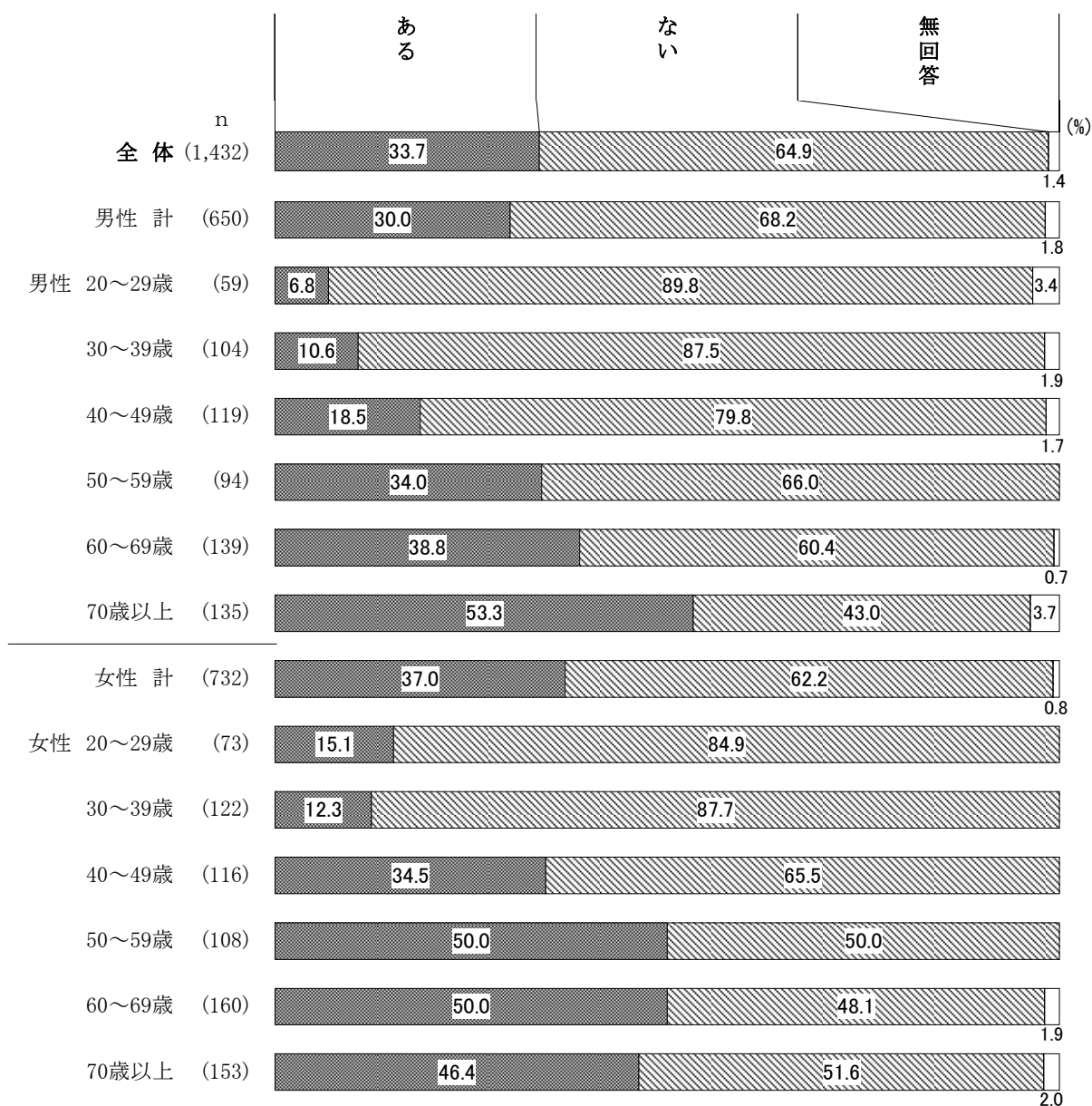
経年比較 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等



※平成18年度の調査では、(1)～(5)の選択肢は「はい」、「いいえ」であった。

性別にみると、「ある」は女性（37.0%）が男性（30.0%）より7ポイント高くなっている。
 性・年代別にみると、「ある」は男性、女性ともにおおむね年齢が上がると高くなる傾向がみられる。

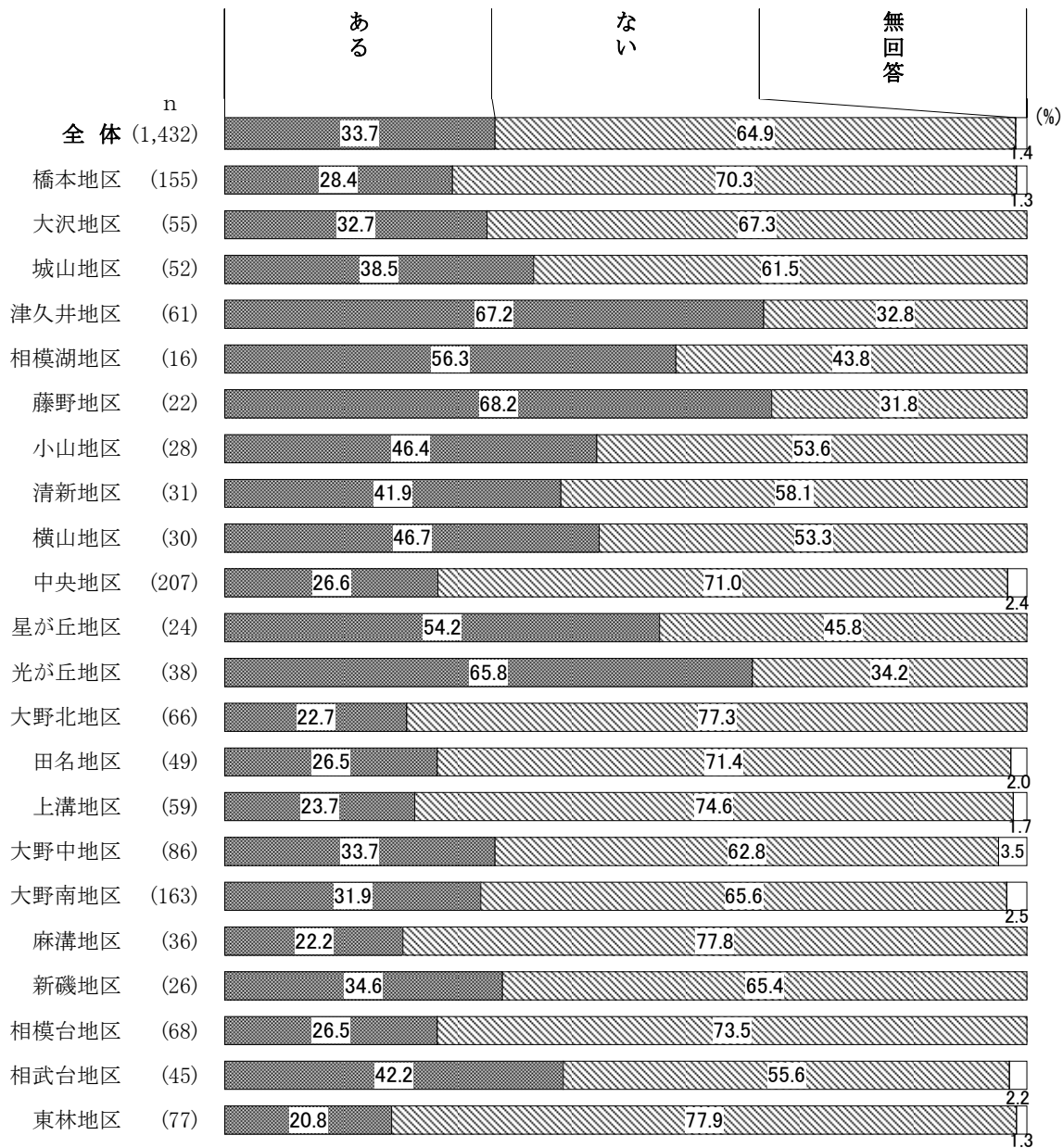
性別、性・年代別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等
 (1) 地域で行っている防災訓練への参加



地区別にみると、「ある」は藤野地区、津久井地区、光が丘地区で高く、6割台後半となっている。

地区別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

(1) 地域で行っている防災訓練への参加

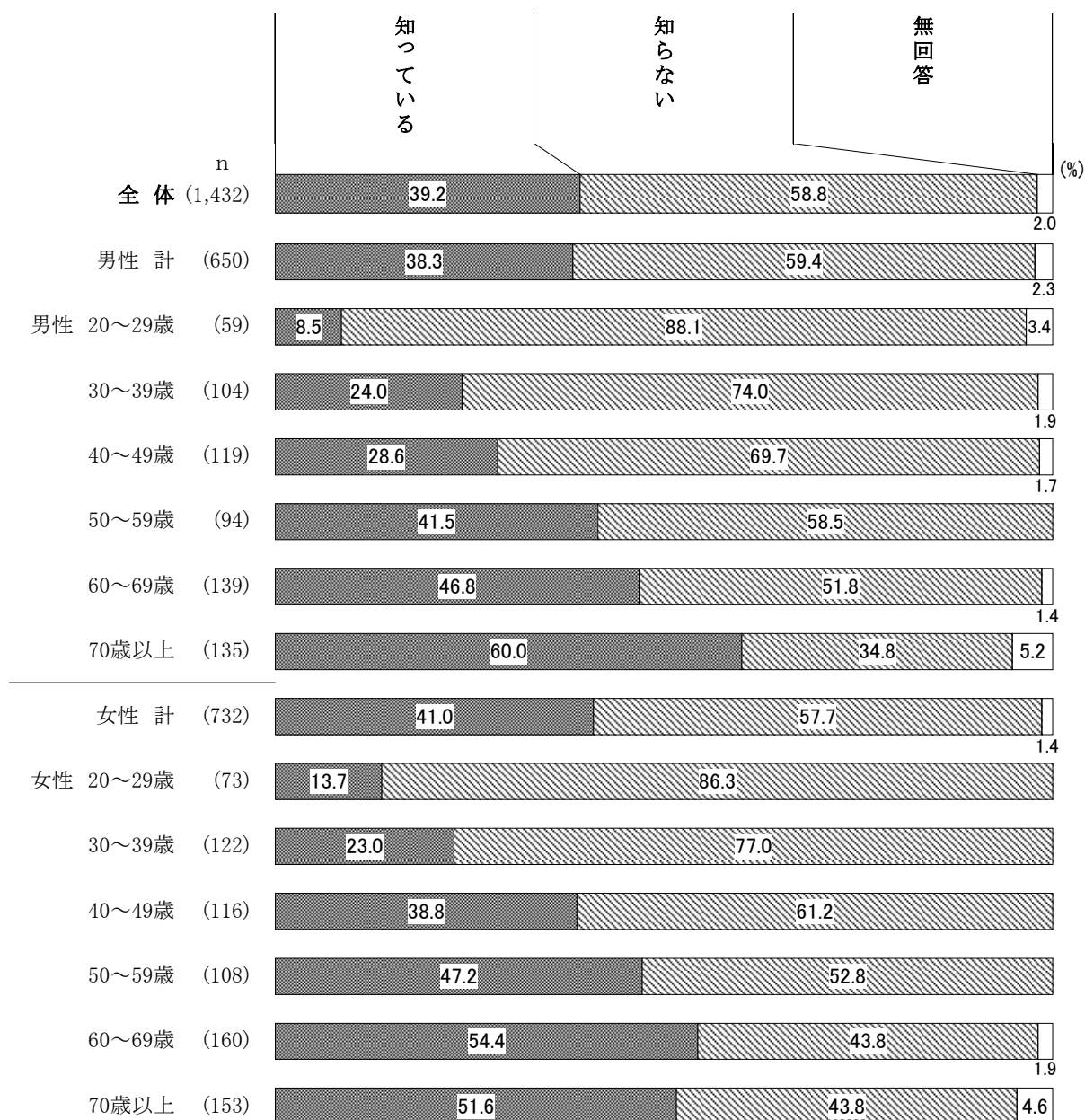


性別では大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「知っている」は男性、女性ともおおむね年齢が上がるほど高くなる傾向がみられる。男性の70歳以上で最も高く6割となっている。

性別、性・年代別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

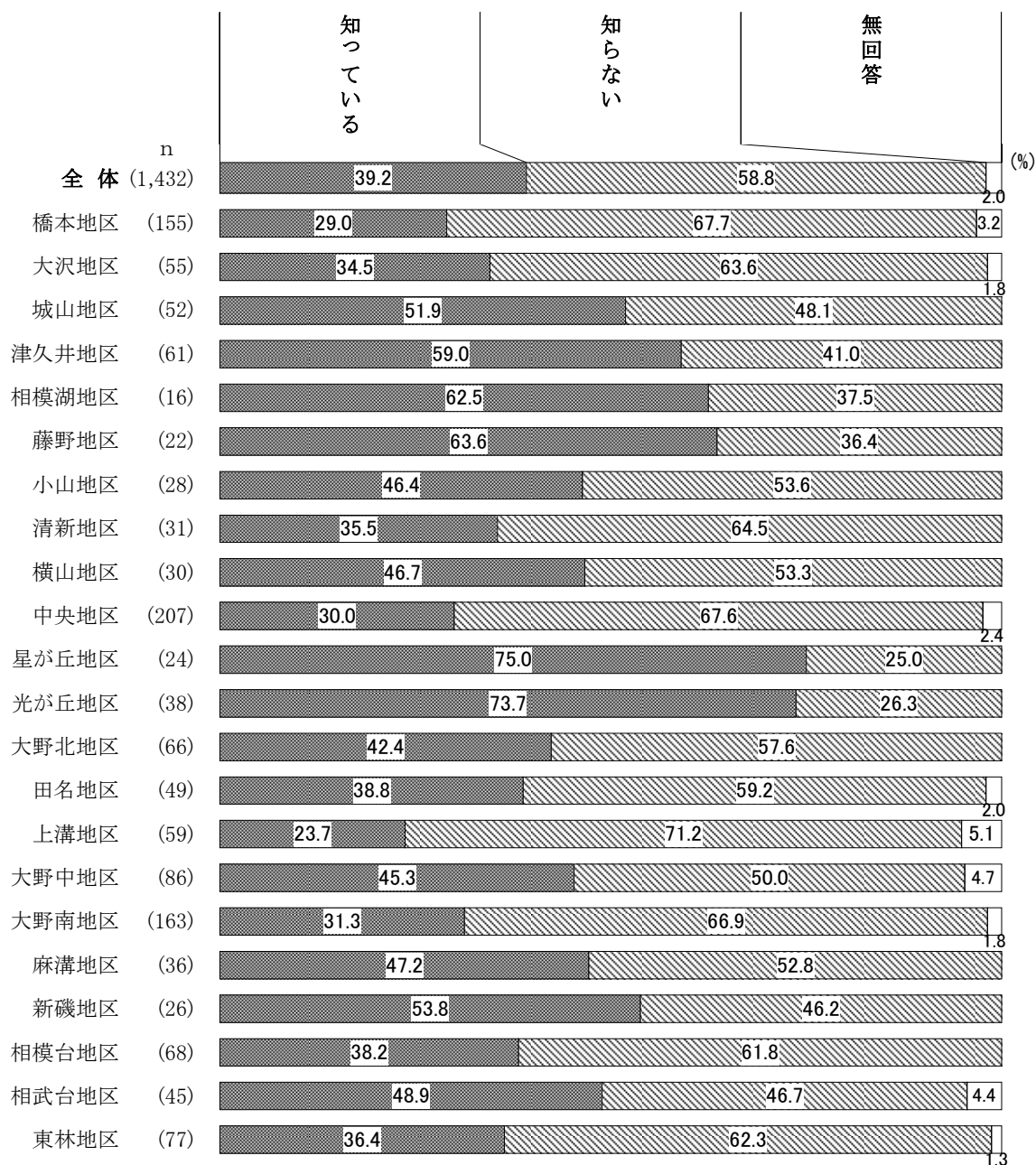
(2) 自主防災組織の認知状況



第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「知っている」は星が丘地区と光が丘地区が高く7割を超えている。一方、「知らない」は上溝地区で7割を超えている。

地区別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等
(2) 自主防災組織の認知状況

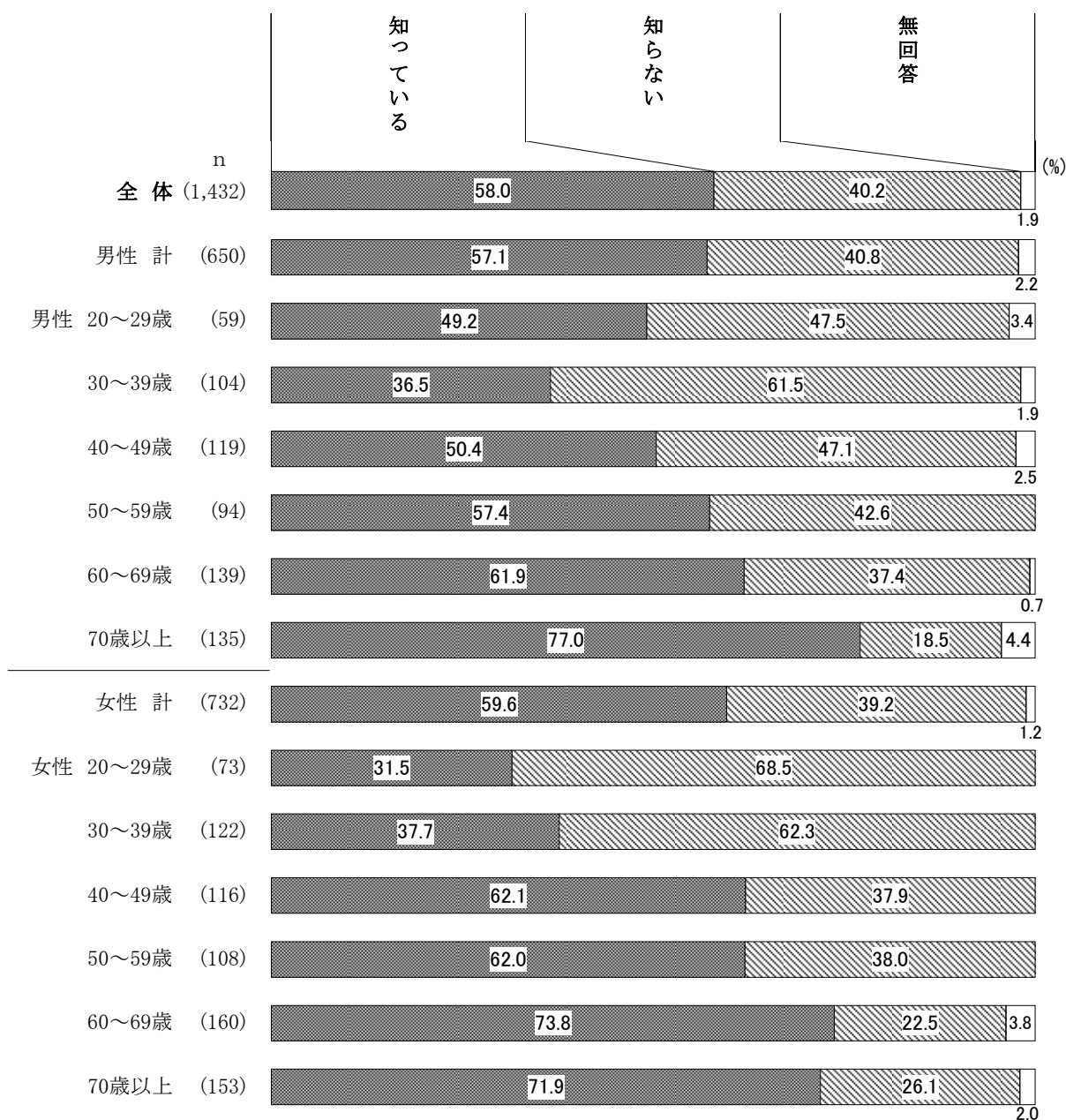


性別では大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「知っている」は男性・女性ともおおむね年齢が上がるほど高くなる傾向がみられる。特に男性の70歳以上、女性の60歳以上では7割の人が「知っている」と答えている。

性別、性・年代別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

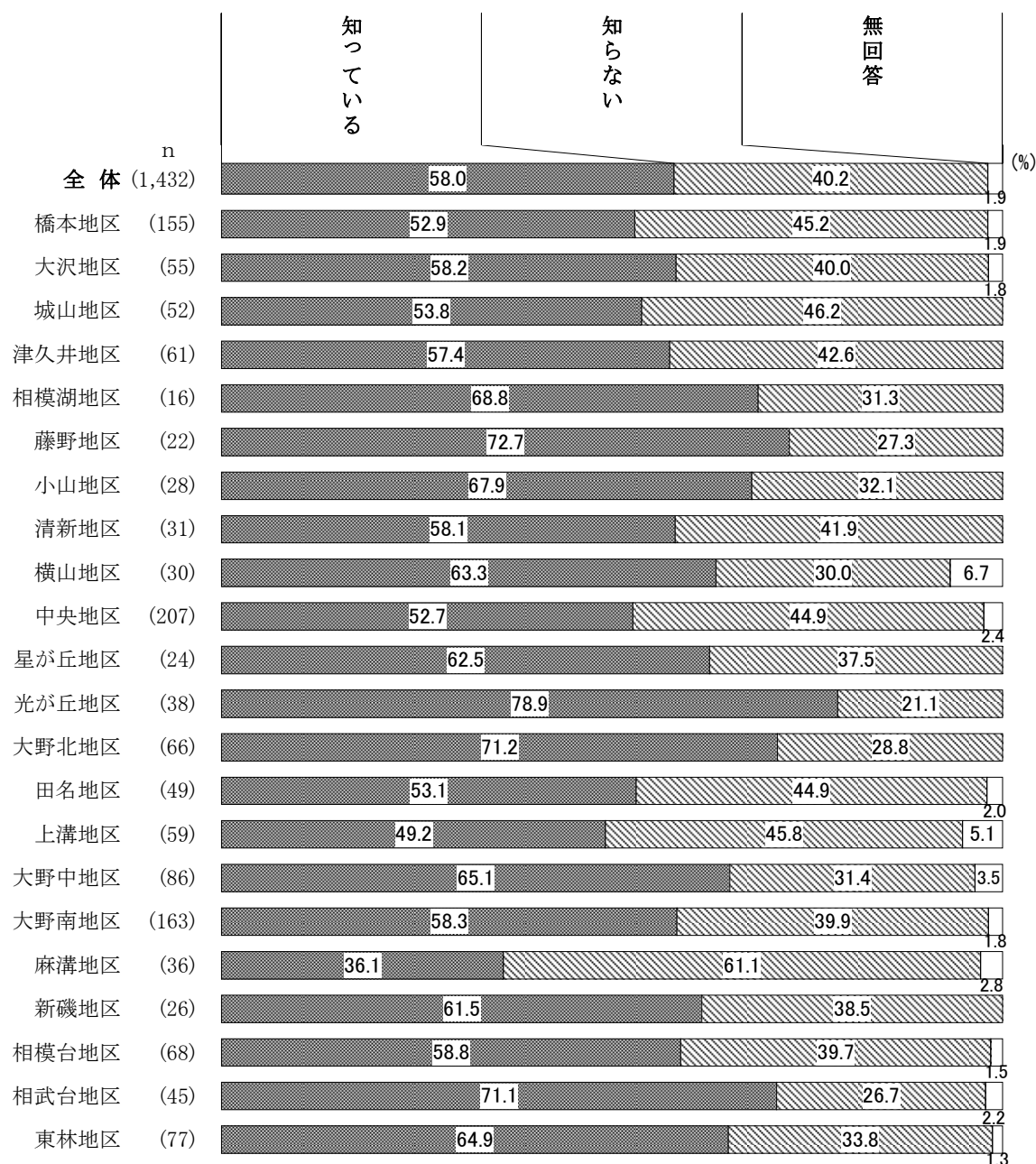
(3) 一時避難場所の認知状況



第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「知っている」は光が丘地区、藤野地区、大野北地区、相武台地区で高く7割を超えている。「知らない」は麻溝地区が高く、6割を超えている。

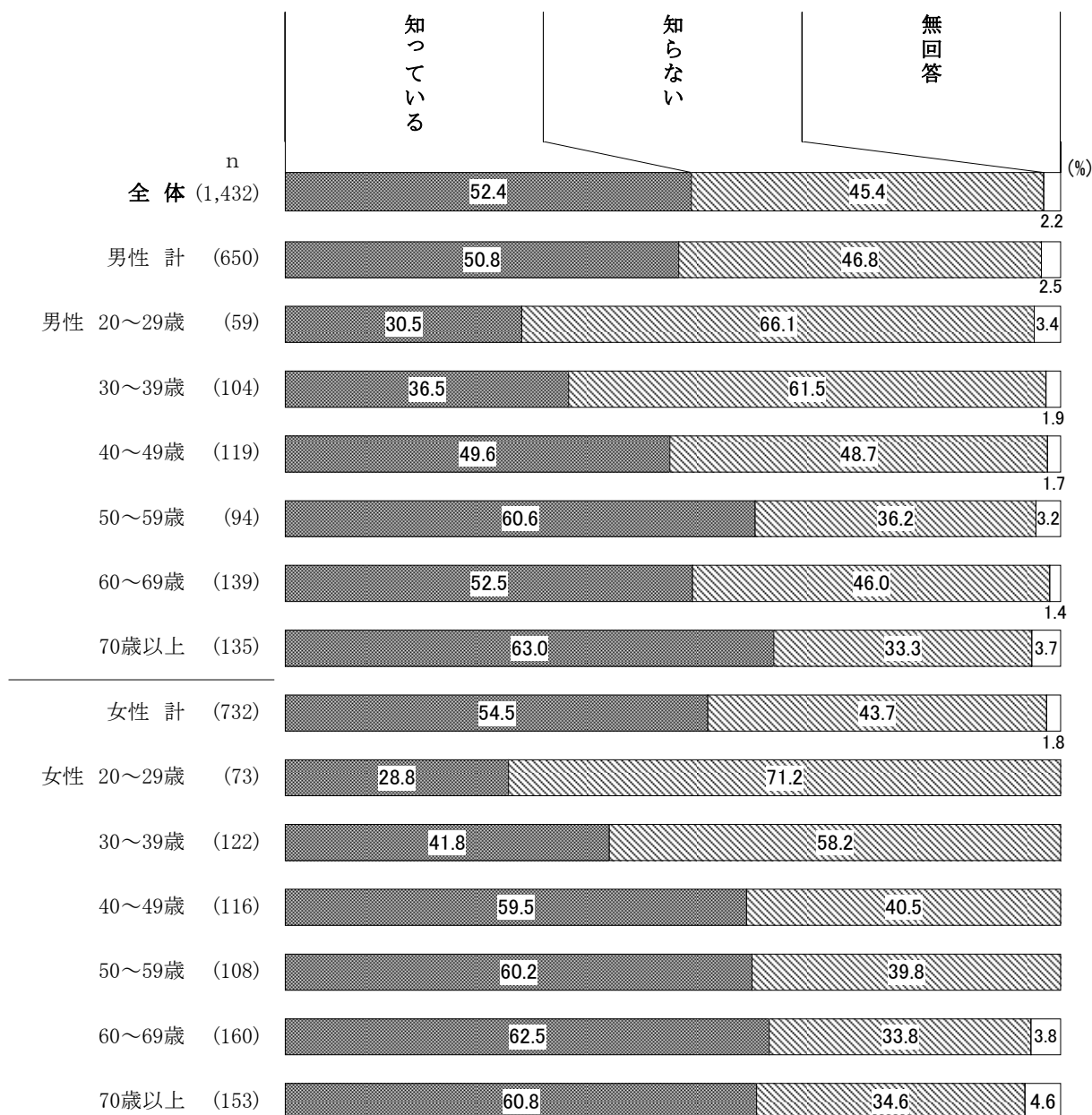
地区別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等
(3) 一時避難場所の認知状況



性別にみると、「知っている」は女性（54.5%）が男性（50.8%）より3.7ポイント高くなっている。性・年代別にみると、「知っている」は男性の50代と70歳以上、女性では50歳以上で6割台となっている。

性別、性・年代別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

(4) 広域避難場所の認知状況

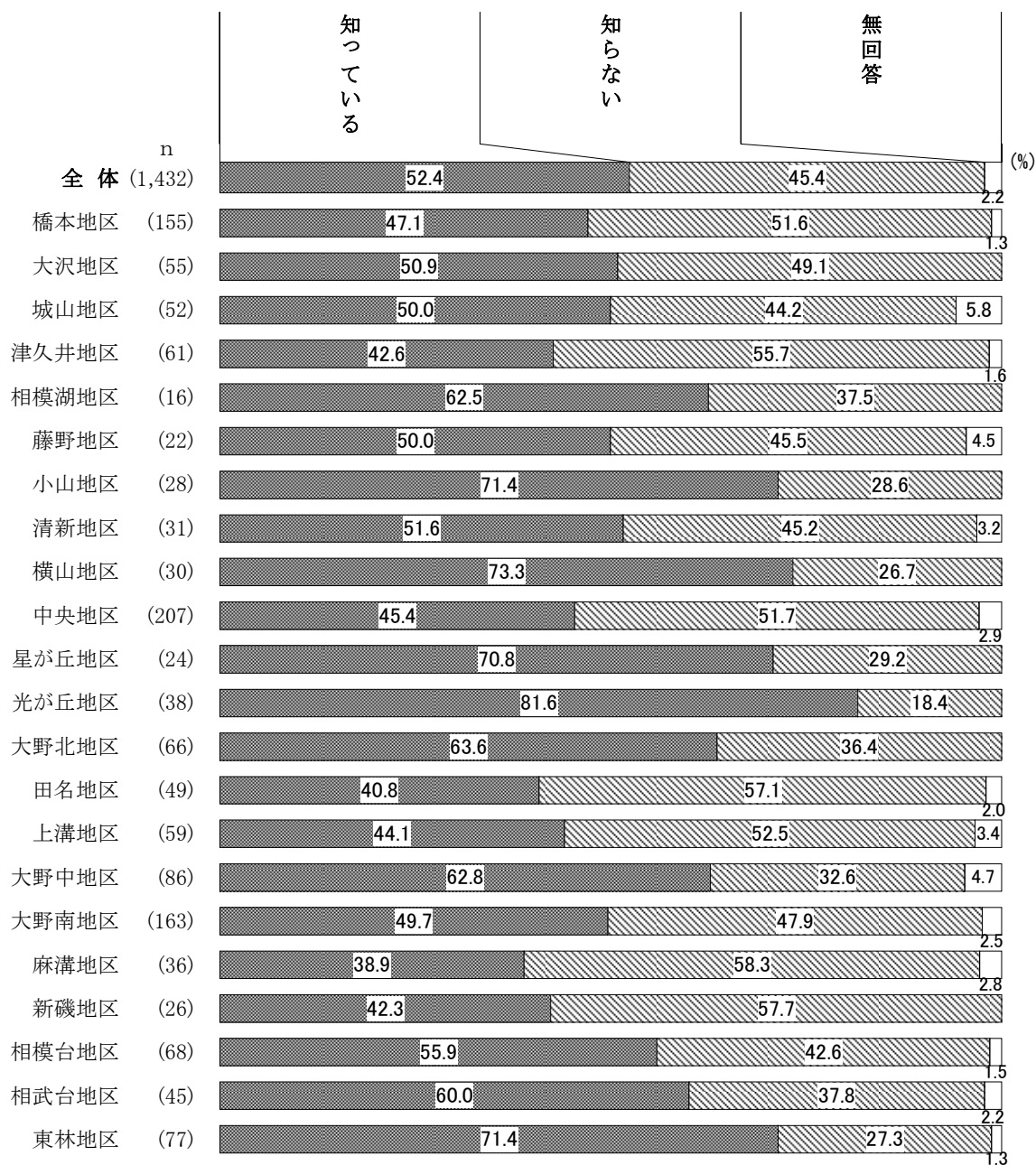


第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「知っている」は光が丘地区で最も高く8割前半となっている。次いで横山地区、小山地区、星が丘地区、東林地区で7割を超えている。「知らない」は麻溝地区、新磯地区、田名地区、津久井地区、上溝地区、中央地区、橋本地区で5割を超えている。

地区別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等

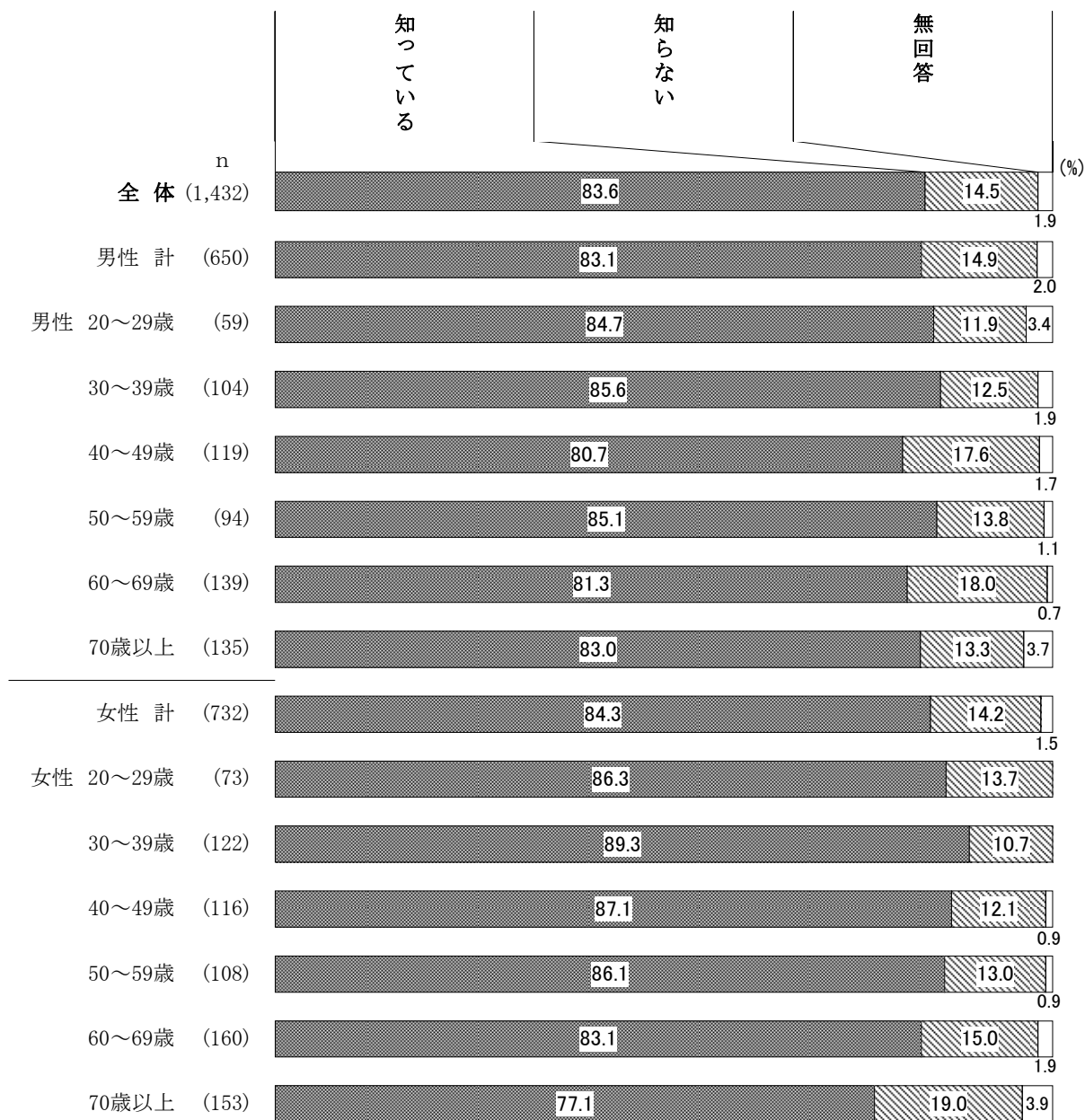
(4) 広域避難場所の認知状況



性別では大きな差はみられない。

性・年代別にみると、女性70歳以上を除くすべての年代で8割台となっている。

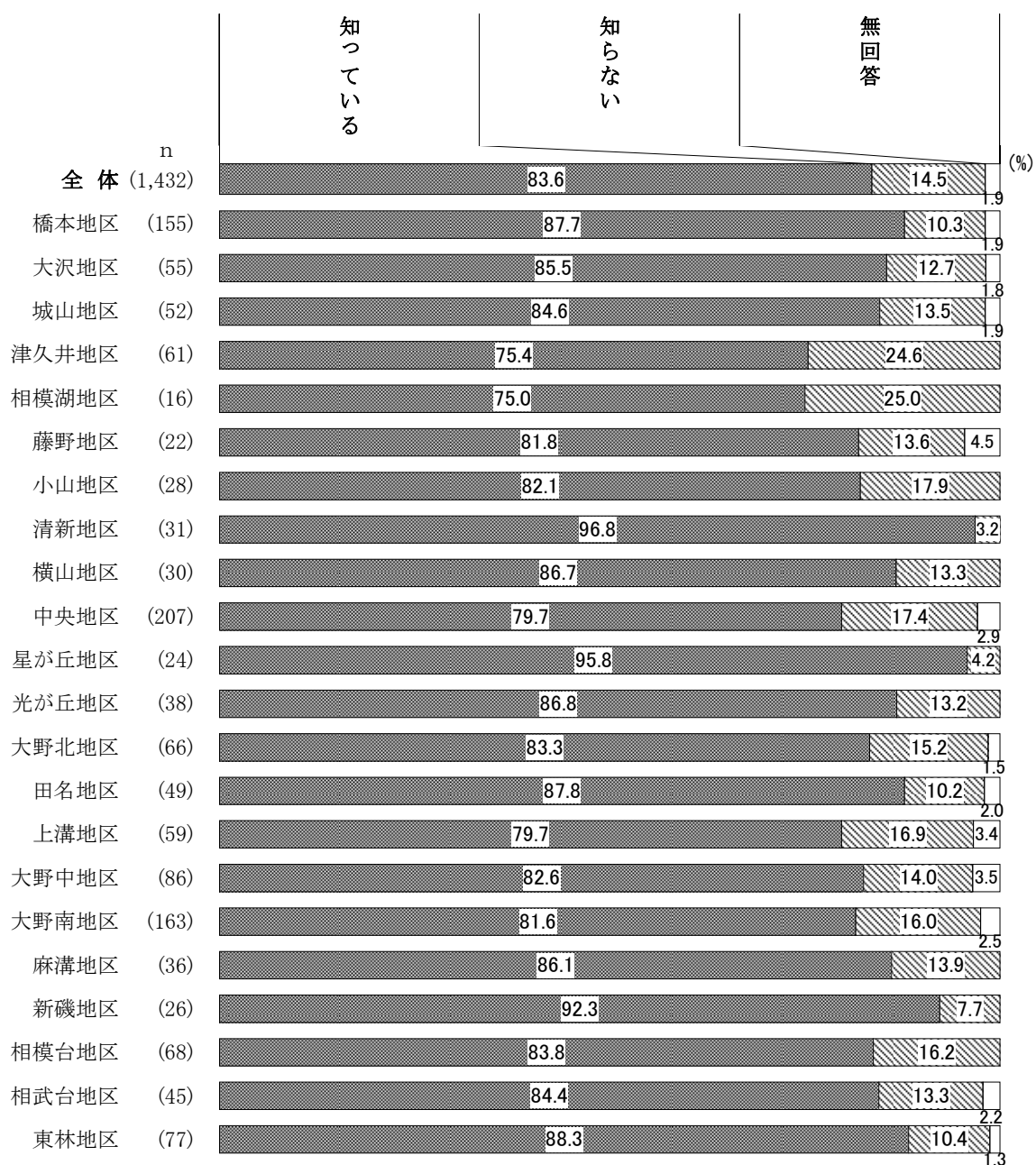
性別、性・年代別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等
(5) 小・中学校の避難所の認知状況



第3章 調査結果の分析

地区別にみると、「知っている」は清新地区、星が丘地区で特に高く、9割台半ばとなっている。「知らない」は相模湖地区、津久井地区でやや高く2割台半ばとなっている。

地区別 防災活動への参加状況、災害時の避難場所等
(5) 小・中学校の避難所の認知状況



3. 自由記述

最後に防災に関する意見をお伺いしたところ、447人からの貴重な意見・要望が寄せられた。以下はその内容を分類したものである。1人で2つ以上の内容の記入があった場合は、これを1件とせず、延べ件数として集計したので、件数は回答者数よりも多くなっている。

内 容	件数
防 災 無 線 へ の 要 望	89
災 害 時 の 避 難 方 法	89
避 難 場 所 へ の 要 望	75
防 災 訓 練	55
災 害 時 の 情 報 取 得 方 法	43
災 害 へ の 準 備 、 対 策	33
災 害 時 の 交 通 、 環 境	27
連 絡 方 法 、 安 否 確 認	27
災 害 時 の 停 電	22
防 災 に 対 して の 意 識	16
そ の 他	76
計	552

第4章 調査票

相模原市 防災に関する市民意識調査

【調査ご協力をお願い】

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。

現在、相模原市では、地震などの災害発生時に迅速な対応ができるよう相模原市地域防災計画を策定し、防災対策の推進を図っています。

今回の調査は、相模原市にお住まいの皆さまの東日本大震災でのご経験や課題、防災に対するご意見などをお伺いし、今後の本市の防災対策の貴重な資料としていかすために市民意識調査を実施するものです。

調査の実施にあたっては、平成24年1月1日現在、満20歳以上の市民の方3,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。なお、ご記入いただいた内容は、無記名の上、すべて統計的に処理いたしますので、個々の方のご回答内容や個人情報特定されることは一切ございません。ぜひ率直なご意見をお聞かせ下さい。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成24年2月

相模原市長 加山俊夫

【ご記入にあたってのお願い】

- 1 封筒の宛名のご本人がお答え下さい。
- 2 ご記入は、濃い鉛筆またはボールペン・万年筆でお願いいたします。
- 3 回答は、調査票の選択肢へ直接○をつけてお答えください。
- 4 回答の数は、設問ごとに（○は1つ）、（○は3つまで）などと指定していますので、それに合わせてお答えください。
- 5 「その他」にあてはまる場合は（ ）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- 6 選んだ回答の最後に、（→問〇〇へ）という表示がある場合には、表示にしたがってお答えください。

ご記入が済みました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

2月21日（火）までにご返送下さい。

このアンケートの内容に関するお問い合わせは、下記へお願いいたします。

相模原市 危機管理室 危機対応班

電話 042-769-8208（直通） 〒252-0239 相模原市中央区中央2丁目2番15号

1 基本的項目について

問1 あなたの年齢をお伺いします。(○は1つ)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 20～29歳 | 3 40～49歳 | 5 60～69歳 |
| 2 30～39歳 | 4 50～59歳 | 6 70歳以上 |

問2 あなたの性別をお伺いします。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問3 あなたのお住まいの地区をお伺いします。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| 1 橋本地区 | 7 小山地区 | 13 大野北地区 | 19 新磯地区 |
| 2 大沢地区 | 8 清新地区 | 14 田名地区 | 20 相模台地区 |
| 3 城山地区 | 9 横山地区 | 15 上溝地区 | 21 相武台地区 |
| 4 津久井地区 | 10 中央地区 | 16 大野中地区 | 22 東林地区 |
| 5 相模湖地区 | 11 星が丘地区 | 17 大野南地区 | |
| 6 藤野地区 | 12 光が丘地区 | 18 麻溝地区 | |

2 東日本大震災の発災当日の状況について

問4 あなたは、東日本大震災発生時にどの地域にいましたか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 相模原市内 |
| 2 相模原市に隣接する市町村（大和市・厚木市・座間市・町田市・八王子市・上野原市 等） |
| 3 東京都・神奈川県（相模原市及び隣接する市町村を除く） |
| 4 千葉県、埼玉県、山梨県（相模原市に隣接する市町村を除く） |
| 5 その他（ ） |

問5 東日本大震災発生時、どのような場所にいましたか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 自宅（→問6へ） | 6 車・バスの中 |
| 2 勤務先や取引先の施設や建物 | 7 電車の中 |
| 3 学校の施設や建物 | 8 駅構内 |
| 4 お店などの商業施設 | 9 実家・知人の家 |
| 5 道路（徒歩・自転車やバイクの運転中） | 10 その他（ ） |

→ 問5 - 1 問5で「2～10」とお答えの方にお伺いします。

問5でお答えになった場所は自宅からどのくらい離れていましたか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 自宅から1km未満の場所 | 5 自宅から20～30km未満の場所 |
| 2 自宅から1～3km未満の場所 | 6 自宅から30～50km未満の場所 |
| 3 自宅から3～10km未満の場所 | 7 自宅から50km以上の場所 |
| 4 自宅から10～20km未満の場所 | 8 わからない |

問6 地震発生から1～2時間の間あなたが主に居た場所は、停電していましたか。(○は1つ)

- 1 停電していた 2 停電していなかった 3 分からない

問7 地震発生から1～2時間の間、情報源となったものをお答えください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 ラジオ | 8 パソコン・携帯電話等のその他の情報サイト |
| 2 テレビ放送 | 9 電話 |
| 3 データ放送 | 10 市の防災無線(ひばり放送)や広報車からの放送 |
| 4 ワンセグ放送 | 11 家族・知人・周囲の人からの情報 |
| 5 ツイッター(twitter) | 12 駅・電車・店舗からの情報 |
| 6 mixi・facebook・その他のSNS | 13 その他() |
| 7 パソコン・携帯電話等によるメール | 14 特に情報を入手しなかった(→問8へ) |

問7-1 問7で「1～13」とお答えの方にお伺いします。

最も役に立った情報源はどれですか。問7で選んだ選択肢番号を1つだけご記入ください。

選択肢番号

問8 東日本大震災の当日、あなたは自宅へはどのような手段で帰宅しましたか。(○は1つ)

- 1 いつもと同じ手段で帰宅した(→問9へ)
 2 いつもと異なる手段で帰宅した
 3 帰宅できなかった・帰宅しなかった(→問8-3へ)

問8-1 問8で「2 いつもと異なる手段で帰宅した」とお答えの方にお伺いします。

自宅へはどのような手段で帰宅しましたか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|--------|----------|
| 1 徒歩 | 4 バス | 7 レンタカー |
| 2 自転車 | 5 電車 | 8 その他() |
| 3 バイク・車 | 6 タクシー | |

問8-2 問8-1で「1 徒歩」とお答えの方にお伺いします。

おおよその歩いた時間をお答えください。(数字を記入)

			分
--	--	--	---

問8-3 問8で「3 帰宅できなかった・帰宅しなかった」とお答えの方にお伺いします。

自宅へ帰宅するまでの間、どこで過ごされましたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1 勤務先・学校で過ごした | 5 飲食店で過ごした(ファミレス・カラオケなど) |
| 2 実家・知人宅で過ごした | 6 駅構内・電車の中で過ごした |
| 3 ホテル・旅館で過ごした | 7 もともと帰宅しない予定だった(夜勤など) |
| 4 帰宅困難者の受入施設で過ごした | 8 その他() |

3 災害時の備えについて

問9 あなたは、東日本大震災後に家族や身近な人と災害が起きたらどうするかなどの話し合いをしましたか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 話し合いをした | 2 していない (→問10へ) |
|------------------|------------------------|

→問9-1 問9で「1 話し合いをした」とお答えの方にお伺いします。

あなたが家族や身近な人と話し合いをした内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 心構えについて | 6 家屋の安全度について |
| 2 避難の方法、時期、場所について | 7 地域の災害危険箇所について |
| 3 食料・飲料水について | 8 過去に起きた災害のことについて |
| 4 非常用持ち出し品について | 9 その他 () |
| 5 家族や親族との連絡手段について | 10 覚えていない |

問10 地震などの災害時に家族や身近な人との連絡方法を決めていますか。(〇は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1 東日本大震災以前から決めている |
| 2 東日本大震災をきっかけに決めた |
| 3 決めていない (→問11へ) |

→問10-1 問10で「1～2」とお答えの方にお伺いします。

災害時の家族や身近な人との具体的な連絡方法はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 災害用伝言ダイヤル (NTT東日本) |
| 2 災害用伝言板 (各携帯電話会社) |
| 3 パソコン・携帯電話等によるメール |
| 4 ツイッター(twitter)等のSNS |
| 5 公衆電話・電話・携帯電話 |
| 6 その他 () |

問11 地震などの災害時に家族や身近な人との待ち合わせ場所を決めていますか。(〇は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1 東日本大震災以前から決めている |
| 2 東日本大震災をきっかけに決めた |
| 3 決めていない |

問12 東日本大震災以前に比べ、防災に対する意識はどのように変化しましたか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 意識が高くなった | 3 意識が低くなった |
| 2 変わらない | 4 分からない |

問13 大きな地震が起こった場合、あなたはどのようなことが心配ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 河川の決壊や浸水被害 | 14 家族の安否 |
| 2 土砂崩れやがけ崩れ | 15 デマなどによる情報の混乱 |
| 3 地割れや陥没 | 16 金融機関の混乱 |
| 4 液状化現象 | 17 生産活動の停止 |
| 5 火災の発生 | 18 治安の混乱 |
| 6 ガスなどの危険物の爆発 | 19 避難場所が分からない |
| 7 建物の倒壊 | 20 食料や飲料水の確保 |
| 8 建物の壁や窓ガラスの落下、塀の倒壊 | 21 日用品の不足 |
| 9 タンス、冷蔵庫などの家具類の転倒 | 22 電気・水道・ガスなどの供給停止 |
| 10 道路や橋の被害、混雑 | 23 原子力施設における放射性物質などの漏えい |
| 11 交通機関の被害、混乱 | 24 その他 () |
| 12 電話などの通信機能の混乱 | 25 心配ごとはない |
| 13 外出先での避難方法 | |

問14 あなたの家では、地震に備えてどのような対策を行っていますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している |
| 2 食料や飲料水を準備している |
| 3 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している |
| 4 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている |
| 5 いつも風呂の水をためおきしている |
| 6 消火器や水のはったバケツを準備している |
| 7 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している |
| 8 自分の家の耐震性を高くしている |
| 9 ブロック塀を点検し、転倒を防止している |
| 10 近くの学校や公園など避難する場所を決めている |
| 11 家族との連絡方法などを決めている |
| 12 防災訓練に積極的に参加している |
| 13 地震保険に入っている |
| 14 その他 () |
| 15 特に何もしていない |
| 16 分からない |

第4章 調査票

問15 日ごろ地域が行っている防災活動への参加状況や、災害時に避難する場所などについてお伺いします。(1)から(5)までの項目にそれぞれお答えください。

(1) 地域で行っている防災訓練や研修会に参加したことがありますか。(○は1つ)

1 ある 2 ない

(2) 地域に自主防災組織が結成されているのを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている 2 知らない

(3) 地震により火災や建物の倒壊等が発生した場合、一時的に様子を見るための場所として、地域の自治会が選定している一時避難場所を知っていますか。(○は1つ)

1 知っている 2 知らない

(4) 地震により同時に多くの火災が発生し燃え広がった場合、火煙やふく射熱から身を守る場所として、市が指定している広域避難場所を知っていますか。(○は1つ)

1 知っている 2 知らない

(5) 災害発生時、被災した人を受け入れるために小・中学校などが避難所となっていることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている 2 知らない

最後に、防災に関してのご意見などございましたらご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご記入いただきました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、2月21日（火）までにご返送下さい。

※なお、無記名による調査ですので、調査票や返信用封筒に氏名・住所を書かないでください。

～ご協力ありがとうございました～

相模原市
防災に関する市民意識調査
報告書
平成24年3月

発行：相模原市 危機管理室 危機対応班
〒252-0239 相模原市中央区中央2丁目2番15号
電話 042-769-8208（直通）